

南島原市文化財調査報告書 第20集

諏訪ノ上遺跡

— 県営水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手型・諏訪地区)に伴う発掘調査 —

2020

長崎県南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書 第20集

諏訪ノ上遺跡

— 県営水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手型・諏訪地区)に伴う発掘調査 —

2020

長崎県南島原市教育委員会

発刊にあたって

本書は、長崎県による水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・諏訪地区）に伴い実施した諏訪ノ上遺跡の発掘調査報告書です。

諏訪ノ上遺跡は、事業計画段階で実施した試掘調査によってその存在が判明し、今回の本発掘調査を実施することになりました。発掘調査では、弥生時代初頭に位置づけられる刻目突帯土器をはじめとして、土器や石器が多数出土し、島原半島の縄文から弥生への時代移行の様相がまたひとつあきらかになりました。

今後は、この発掘調査の成果を学術のみならず多方面において有効に活用するとともに、引き続き埋蔵文化財の保護に努めてまいります。

末尾にはなりましたが、発掘調査の実施にご協力くださいました土地の所有者と耕作者の皆様、工事関係の方々、発掘作業と整理作業に従事くださいました方々に厚く御礼申し上げます。

令和2年3月20日

南島原市教育委員会
教育長 永田 良二

例 言

- 1 本書は、諏訪ノ上遺跡（長崎県南島原市深江町諏訪ノ上所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県が事業主体である水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・諏訪地区）に伴って実施した。
- 3 調査は、長崎県南島原市教育委員会が主体となって以下の期間で実施した。
試掘調査 平成22年7月5日～平成23年3月23日（調査坑30箇所120㎡）
平成26年8月25日～平成26年11月26日（追加工区・調査坑5箇所20㎡）
本調査 平成26年8月21日～平成26年11月28日
平成27年6月10日～平成27年8月31日
- 4 現地調査及び本書作成にかかわる整理調査の体制と担当は、以下のとおりである。
調査体制
南島原市教育委員会
教育長 定方 郁夫（～平成26年7月）
同 上 永田 良二（平成26年8月～）
教育次長 井口 敬次（～平成22年度）
同 上 水島 文昌（平成23年度～平成25年度）
同 上 渡部 博（平成26年度～平成28年度）
同 上 深松 良藏（平成29年度～）
理 事 宮崎 誠（平成31年度）
文化財課 課 長 松本 慎二（平成22年度～）
文化財課文化財班 班 長 林田 順助（～平成25年度）
同 上 木村 岳士（平成26年度～平成29年度）
同 上 末永 透（平成30年度）
同 上 鬼塚 俊範（平成31年度）
調査担当
試掘調査・本調査・整理調査
南島原市教育委員会 文化財課文化財班 副参事（学芸員） 本多 和典
- 5 試掘調査における写真撮影、調査坑配置図及び土層実測図の作成は、本多が行った。
- 6 本調査における写真撮影及び個別遺構実測図の作成は、本多が行った。また、遺構配置図及び土層実測図の作成、航空写真撮影は、（株）埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。
- 7 遺物の実測は、（株）埋蔵文化財サポートシステム長崎支店及び（株）大信技術開発南島原営業所に委託した。土器の拓本は、岩田貴子が行った。製図は、壹岐美由紀、松原加歩が行った。遺物の写真撮影は、竹村南洋・本多が行った。
- 8 年代測定及び石材鑑定にかかわる自然科学分析は、（株）古環境研究所に委託した。
- 9 本書に関する遺物、図面、写真等は、南島原市深江埋蔵文化財整理室において保管している。
- 10 本書の執筆・編集は、本多による。

目 次

第Ⅰ章 はじめに	1
1 諏訪ノ上遺跡の位置と周辺地理	1
2 諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡	1
3 本調査までの経過	2
第Ⅱ章 試掘調査	5
1 調査に至る経緯	5
2 調査の方法	5
3 調査の成果	5
第Ⅲ章 本調査	11
1 調査の方法	11
2 基本土層	11
3 遺構	21
4 出土遺物	24
(1) 土器・陶磁器	24
(2) 石器	63
第Ⅳ章 自然科学分析	83
第Ⅴ章 まとめ	95

挿図目次

第1図	諏訪ノ上遺跡位置図 (S = 1/100,000)	3
第2図	諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡 (S = 1/100,000)	4
第3図	諏訪地区調査坑配置図 (S = 1/6,000)	7
第4図	諏訪地区調査坑土層実測図① (S = 1/50)	8
第5図	諏訪地区調査坑土層実測図② (S = 1/50)	9
第6図	諏訪地区調査坑土層実測図③ (S = 1/50)	10
第7図	グリッド配置図 (S = 1/1,500)	12
第8図	調査小区配置図 (S = 1/1,500)	12
第9図	土層実測図① (S = 1/80)	13
第10図	土層実測図② (S = 1/80)	15
第11図	土層実測図③ (S = 1/80)	17
第12図	土層実測図④ (S = 1/80)	19
第13図	遺構配置図 [1～5区] (S = 1/400)	22
第14図	遺構配置図 [6・7区] (S = 1/400)	23
第15図	土坑実測図 (S = 1/20)	23
第16図	不明大型遺構 (S = 1/100)	23
第17図	出土土器実測図① (S = 1/3)	24
第18図	出土土器実測図② (S = 1/3)	24
第19図	出土土器実測図③ (S = 1/3)	25
第20図	出土土器実測図④ (S = 1/3)	27
第21図	出土土器実測図⑤ (S = 1/3)	28
第22図	出土土器実測図⑥ (S = 1/3)	29
第23図	出土土器実測図⑦ (S = 1/3)	30
第24図	出土土器実測図⑧ (S = 1/3)	31
第25図	出土土器実測図⑨ (S = 1/3)	33
第26図	出土土器実測図⑩ (S = 1/3)	34
第27図	出土土器実測図⑪ (S = 1/3)	35
第28図	出土土器実測図⑫ (S = 1/3)	37
第29図	出土土器実測図⑬ (S = 1/3)	38
第30図	出土土器実測図⑭ (S = 1/3)	39
第31図	出土土器実測図⑮ (S = 1/3)	40
第32図	出土土器実測図⑯ (S = 1/3)	42
第33図	出土土器実測図⑰ (S = 1/3)	43
第34図	出土土器実測図⑱ (S = 1/3)	44
第35図	出土土器実測図⑲ (S = 1/3)	45

第36図	出土石器実測図㉔ (S = 1/3)	45
第37図	出土石器実測図㉕ (S = 1/3)	46
第38図	出土石器実測図㉖ (S = 1/3)	47
第39図	出土石器・陶磁器実測図 (S = 1/3)	47
第40図	出土石器実測図① (S = 1/2)	63
第41図	出土石器実測図② (S = 1/2)	64
第42図	出土石器実測図③ (6・7 : S = 1/2, 8・9 : S = 2/3)	65
第43図	出土石器実測図④ (S = 2/3)	66
第44図	出土石器実測図⑤ (S = 2/3)	67
第45図	出土石器実測図⑥ (26~33 : S = 1/2, 34 : S = 2/3)	69
第46図	出土石器実測図⑦ (S = 1/2)	70
第47図	出土石器実測図⑧ (40~58・60 : S = 2/3, 59 : S = 1/2)	71
第48図	出土石器実測図⑨ (S = 2/3)	73
第49図	出土石器実測図⑩ (S = 1/3)	74
第50図	出土石器実測図⑪ (S = 1/3)	75
第51図	出土石器実測図⑫ (S = 1/3)	76
第52図	出土石器実測図⑬ (S = 1/3)	77
第53図	出土石器実測図⑭ (S = 1/5)	78
第54図	出土石器実測図⑮ (130~134 : S = 1/3, 135~144 : S = 2/3)	79
第55図	暦年較正年代グラフ①	86
第56図	暦年較正年代グラフ②	87
第57図	黒曜石産地推定判別図①	93
第58図	黒曜石産地推定判別図②	93
第59図	遺物集中部概略図 (S = 1/1, 500)	99
第60図	遺物分布図① [土器・石器 (全体)] (S = 1/500)	102
第61図	遺物分布図② [土器 (時期別) 1群土器・4群土器] (S = 1/500)	103
第62図	遺物分布図③ [土器 (時期別) 2群土器・3群土器] (S = 1/500)	104
第63図	遺物分布図④ [3群土器 (器種大別) - 深鉢] (S = 1/500)	105
第64図	遺物分布図⑤ [3群土器 (器種大別) - 浅鉢] (S = 1/500)	106
第65図	遺物分布図⑥ [3群土器 (器種大別) - 壺] (S = 1/500)	107
第66図	遺物分布図⑦ [3群土器 (器種大別) - 高坏・脚台付土器] (S = 1/500)	108
第67図	遺物分布図⑧ [3群土器 (器種小別) - 深鉢D類] (S = 1/500)	109
第68図	遺物分布図⑨ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類] (S = 1/500)	110
第69図	遺物分布図⑩ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 指] (S = 1/500)	111
第70図	遺物分布図⑪ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 棒] (S = 1/500)	112
第71図	遺物分布図⑫ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : ヘラ] (S = 1/500)	113
第72図	遺物分布図⑬ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 工具刺突] (S = 1/500)	114

第73図	遺物分布図⑭	[3群土器(器種小別) - 深鉢E類: 貝殻腹縁・異種原体] (S=1/500) ……115
第74図	遺物分布図⑮	[3群土器(器種小別) - 浅鉢I類] (S=1/500) ……116
第75図	遺物分布図⑯	[3群土器(器種小別) - 浅鉢J類] (S=1/500) ……117
第76図	遺物分布図⑰	[3群土器(器種小別) - 浅鉢L類] (S=1/500) ……118
第77図	遺物分布図⑱	[3群土器(器種小別) - 浅鉢M類] (S=1/500) ……119
第78図	遺物分布図⑲	[石器(全体)] (S=1/500) ……120
第79図	遺物分布図⑳	[石器(石材別) - 黒曜石] (S=1/500) ……121
第80図	遺物分布図㉑	[石器(石材別) - サヌカイト] (S=1/500) ……122
第81図	遺物分布図㉒	[石器(石材別) - 安山岩] (S=1/500) ……123
第82図	遺物分布図㉓	[石器(石材別) - その他の石材] (S=1/500) ……124
第83図	遺物分布図㉔	[石器(器種別) - 石核] (S=1/500) ……125
第84図	遺物分布図㉕	[石器(器種別) - 剥片/碎片] (S=1/500) ……126
第85図	遺物分布図㉖	[石器(器種別) - スクレイパー] (S=1/500) ……127
第86図	遺物分布図㉗	[石器(器種別) - 石鏃/石鏃未成品/石錐] (S=1/500) ……128
第87図	遺物分布図㉘	[石器(器種別) - 二次加工剥片/微細剥離剥片] (S=1/500) ……129
第88図	遺物分布図㉙	[石器(器種別) - 磨製石斧磨製/磨製石斧再利用] (S=1/500) ……130
第89図	遺物分布図㉚	[石器(器種別) - 打製石斧/破片・剥片] (S=1/500) ……131
第90図	遺物分布図㉛	[石器(器種別) - 磨石・敲石・凹石/石皿・台石] (S=1/500) ……132

表 目 次

第1表	出土土器観察表①	48
第2表	出土土器観察表②	49
第3表	出土土器観察表③	50
第4表	出土土器観察表④	51
第5表	出土土器観察表⑤	52
第6表	出土土器観察表⑥	53
第7表	出土土器観察表⑦	54
第8表	出土土器観察表⑧	55
第9表	出土土器観察表⑨	56
第10表	出土土器観察表⑩	57
第11表	出土土器観察表⑪	58
第12表	出土土器観察表⑫	59
第13表	出土土器観察表⑬	60
第14表	出土土器観察表⑭	61
第15表	出土土器観察表⑮	62
第16表	出土陶磁器観察表	62
第17表	出土石器観察表①	80
第18表	出土石器観察表②	81
第19表	出土石器観察表③	82
第20表	測定試料及び処理	83
第21表	測定結果	85
第22表	半定量分析結果	90
第23表	諏訪ノ上遺跡出土石器	91
第24表	分析対象一覧	91
第25表	西日本黒曜石産地の判別群	92
第26表	測定値および産地推定結果	92
第27表	諏訪ノ上遺跡遺物内訳	96
第28表	2・3群土器器種別内訳	97
第29表	刻目突帯文土器(甕)刻目種類別内訳	97
第30表	石器石材別内訳	99
第31表	黒曜石色調別内訳	99
第32表	石器器種別内訳	99

図版目次

図版 1	諏訪ノ上遺跡周辺航空写真	135
図版 2	諏訪地区試掘調査①	136
図版 3	諏訪地区試掘調査②	137
図版 4	諏訪地区試掘調査③	138
図版 5	諏訪地区試掘調査④	139
図版 6	諏訪地区試掘調査⑤	140
図版 7	平成26年度本調査区航空写真(全体)	141
図版 8	平成26年度本調査区航空写真(4・5区)	142
図版 9	平成26年度本調査区航空写真(1～3区)	143
図版10	平成27年度本調査区航空写真(6・7区)	144
図版11	平成26年度本調査区土層① 1区南西壁(東から), 3区北西壁(南から)	145
図版12	平成26年度本調査区土層② 4・5区境界ベルト(南から), 4区北東壁(南から)	146
図版13	平成26年度本調査区土層③ 4区北張出部北西壁(南東から), 4区北張出部北東壁(南西から)	147
図版14	平成27年度本調査区土層 7区横断ベルト①(東から), 7区横断ベルト②(東から)	148
図版15	平成26年度本調査区遺構ほか検出状況 2区土坑(東から), 5区倒木痕(南東から)	149
図版16	平成27年度本調査区遺構検出状況① 6区不明大型遺構(南西から), 6区不明大型遺構(北東から)	150
図版17	平成27年度本調査区遺構検出状況② 7区溝(東から), 7区溝(北東から)	151
図版18	作業状況	152
図版19	遺物検出状況① 2区Ⅲa層(北東から), 2区Ⅲa層(北から)	153
図版20	遺物検出状況② 4区Ⅲa層(北東から), 5区Ⅲa層(北東から)	154
図版21	遺物検出状況③ 1区Ⅲb層(南西から), 2区Ⅲb層(西から)	155
図版22	遺物検出状況④ 2区Ⅲb層(北東から), 3区Ⅲb層(南西から)	156
図版23	遺物検出状況⑤ 3区Ⅲb層(北東から), 4区Ⅲb層(北から)	157

図版24	遺物検出状況⑥	158
	4区Ⅲb層(西から), 4区Ⅲb層(南から)	
図版25	遺物検出状況⑦	159
	5区Ⅲb層(南西から), 5区Ⅲb層(北東から)	
図版26	出土土器①	160
図版27	出土土器②	161
図版28	出土土器③	162
図版29	出土土器④	163
図版30	出土土器⑤	164
図版31	出土土器⑥	165
図版32	出土土器⑦	166
図版33	出土土器⑧	167
図版34	出土土器⑨	168
図版35	出土土器⑩	169
図版36	出土土器⑪	170
図版37	出土土器⑫	171
図版38	出土土器⑬	172
図版39	出土土器⑭	173
図版40	出土土器⑮	174
図版41	出土土器⑯	175
図版42	出土土器⑰	176
図版43	出土土器⑱	177
図版44	出土土器⑲	178
図版45	出土土器⑳	179
図版46	出土土器㉑	180
図版47	出土土器㉒	181
図版48	出土土器㉓	182
図版49	出土土器㉔	183
図版50	出土土器㉕	184
図版51	出土土器㉖・陶磁器	185
図版52	出土石器①	186
図版53	出土石器②	187
図版54	出土石器③	188
図版55	出土石器④	189
図版56	出土石器⑤	190
図版57	出土石器⑥	191
図版58	出土石器⑦	192

图版59	出土石器⑧	193
图版60	出土石器⑨	194
图版61	出土石器⑩	195
图版62	出土石器⑪	196
图版63	出土石器⑫	197

第I章 はじめに

1 諏訪ノ上遺跡の位置と周辺地理

南鳥原市の位置する鳥原半島は、有明海に突き出した胃袋の形状をした半島で、長崎県本土部の交通の要衝である諫早地域とは、幅約3kmの愛野地峡で接続する。半島の中央には約50万年前から活動を開始したとされる雲仙火山の山々がそびえ、四方に裾野を広げている。

雲仙火山は、三岳と呼ばれる普賢岳、国見岳、妙見岳、五峰と呼ばれる野岳、九千部岳、矢岳、高岩山、絹笠山、ほかに眉山や猿葉山など20を超える山体によって構成されている。1990(平成2)年11月17日には雲仙の主峰であった普賢岳(標高1,359m)が噴火した。その後普賢岳山頂に出現した粘性の高いデイサイト溶岩は、溶岩ドームを形成して成長と崩落を繰り返した。普賢岳の平成噴火の活動は、平成8年に終息宣言が出されることになるが、この噴火活動によって山頂に残された溶岩ドームが「平成新山(標高1,483m)」として現在新たな雲仙の主峰となっている。

これら雲仙火山は別府から阿蘇を経て鳥原半島へと延びる別府雲仙地溝帯の西端部に位置する。地溝帯は、鳥原半島の中央部を南北に分断するように走り、地溝帯内は多くの断層に挟まれて年数mm単位で沈降を続けており、諏訪ノ上遺跡もこの沈降地帯に位置している。

また、鳥原南部の口之津町早崎半島には、雲仙火山より古い火山体として約430万年前に活動していたとされる玄武岩溶岩を見ることができる。

諏訪ノ上遺跡の所在する南鳥原市深江町は、鳥原半島の東部に、市域としては最北部に位置している。北側は水無川をもって鳥原市との境界となし、南側は深江断層をもって南鳥原市布津町との境界としている。雲仙の山体部を除いて深江町のほぼ全域は、「深江原(ふかえばる)」と呼ばれる火山性の扇状地となっており、標高200m付近から有明海(鳥原湾)へとなだらかに斜面が下っている。深江川水系の一带と海岸近くの低標高域は、おもに水田地帯として利用されているが、その他の中標高域は広く畑地や果樹園として利用されており、火山性土壌の水はけのよい地質的特徴を活かして、葉タバコやミカンの栽培が盛んである。

諏訪ノ上遺跡は、深江町字諏訪ノ上の畑地帯で、主に葉タバコの栽培がおこなわれていた。ほ場整備事業の区域のなかでは最も標高の低い地点である。現在は廃線となった旧鳥原鉄道南目線の沿線で、南鳥原市立深江小学校、同深江中学校、同深江武道館が遺跡に隣接する。また、約100m海手に下れば、諏訪神社と神社社農がある。

2 諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡

おもに深江町域を対象として、諏訪ノ上遺跡周辺の遺跡について概観したい。

旧石器時代の遺跡は、これまでのところ認められていない。最も古い段階での遺跡の登場は、縄文時代早期である。上畦津遺跡においては、円筒形条痕土器、いわゆる一野式土器の出土がある。下末宝遺跡においては、押型土器とそれに伴う石器群が多数出土している。押型土器は、楕円文、山形文、平行文などが見られ、深鉢形のみならず壺形もみられる。また、石鏃は幅に対して長さの短い特徴的な鍬形鏃が多く出土している。下末宝遺跡から約500m山手にある古作遺跡からは縄文時代早・前期及び縄文時代後・晩期を主体とする遺物の出土がある。縄文時代早・前期の土器は、一野式

土器、塞ノ神式土器、轟式土器など複数時期のものが見られ、特に轟式土器の出土は南島原市域においてはほかに出土例がなく、注目される。

権現脇遺跡では、普賢岳平成噴火の鎮静後に水無川流域において火砕流・土石流対策として雲仙復興事務所により進められた砂防工事に伴って発掘調査が実施され、膨大な量の調査成果が得られている。遺跡の所属時期については、縄文時代早期、縄文時代後・晩期、突帯文期、中世などの時期が複合しており、特に縄文時代後・晩期から突帯文期にかけての資料が充実している。遺構としては縄文時代晩期や突帯文期の小児甕棺墓の検出があり、遺物としては刻目突帯文土器、黒色磨研土器、組織痕土器、丹塗壺、紡錘車、打製石斧、勾玉などの出土がある。また、権現脇遺跡では縄文時代早期と縄文時代後・晩期の遺物包含層に挟まれて、眉山の噴火活動に伴う火山灰層が確認されており、その噴火活動時の爆発による熱風でなぎ倒された倒木の遺構も多数検出されている。

「山ノ寺式土器」の標識名で学史的にも知られる山ノ寺榎木遺跡も深江町所在の遺跡である。日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会や古田正隆などによる調査の履歴があり、縄文時代晩期から突帯文期にかけての充実した資料が得られている。

【参考文献】

- 深江町郷土誌さん委員会 1971 『深江町郷土誌』 深江町
古田 正隆 1973 『山の寺榎木遺跡』百人委員会埋蔵文化財報告第1集 百人委員会
本多 和典編 2005 『下末宝遺跡・上睦津遺跡』深江町文化財調査報告書第1集 深江町教育委員会
本多 和典編 2006 『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集 深江町教育委員会
本多 和典 2007 『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第1集 南島原市教育委員会
本多 和典 2018 『古作遺跡』南島原市文化財調査報告書第10集 南島原市教育委員会

3 本調査までの経過

長崎県島原振興局により南島原市深江町諏訪地区において農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業（畑地帯担い手育成型・諏訪地区））が計画された。このことを受けて南島原市教育委員会は、事業計画地において試掘調査を実施した。試掘調査の調査地点は、事前の現地踏査における遺物の散布状況や周辺遺跡の情報も踏まえて、30箇所を設定した。また、その後事業計画に追加の工区が発生したことから、5箇所の追加調査を実施した。なお、事業名称については、平成30年度から「水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型）」に変更になっている。総事業面積は、42.8haである。

試掘調査の結果、事業区域内には突帯文期を主体とする諏訪ノ上遺跡と縄文時代後・晩期及び中世を主体とする出口遺跡の2遺跡が存在することが明らかになり、両遺跡を新規発見の遺跡として登録した。

試掘調査の結果をふまえ、長崎県島原振興局と協議を行い、諏訪ノ上遺跡については、遺跡範囲のうち切土となる部分、石垣となる部分、道路部分、水路部分等を対象として2箇年計画で本調査を実施することになった。調査地が葉タバコの栽培地であったことから、平成26年度については収穫の終わる8月上旬を待っての本調査となった。また、平成27年度の本調査の着手と同時に諏訪ノ上遺跡を含む周辺一帯で事業が着工された。



調査期間及び調査面積は、以下のとおりである。

試掘調査

(当初)

調査期間 平成22年7月5日～平成23年3月23日

調査面積 120㎡（2m四方の調査坑30箇所）

(追加区分)

調査期間 平成26年8月25日～平成26年11月26日

調査面積 20㎡（2m四方の調査坑5箇所）

本調査

(平成26年度)

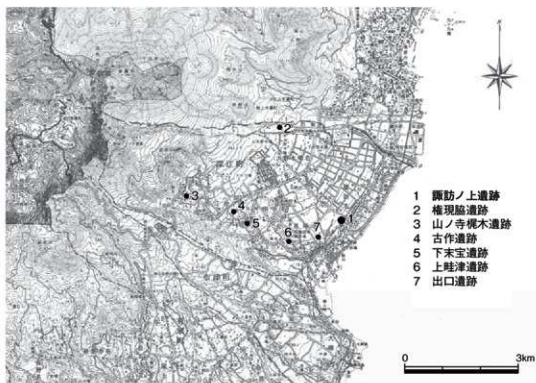
調査期間 平成26年8月21日～平成26年11月28日

調査面積 1,605㎡

(平成27年度)

調査期間 平成27年6月10日～平成27年8月31日

調査面積 773㎡



第2図 諏訪ノ上遺跡と周辺遺跡 (S=1/100,000)

第Ⅱ章 試掘調査

1 調査に至る経緯

長崎県島原振興局により南島原市深江町諏訪地区においては塙整備事業が計画された。事業区域内に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しなかったが、計画面積が広範囲であったこと、事業区域の近隣に二本榎遺跡、出口キリシタン墓碑群が存在したこと、事業区域内において現地踏査を行った結果、縄文時代及び弥生時代のものを中心として遺物の散布が見られたこと、以上のことから南島原市教育委員会は試掘調査が必要と判断した。

試掘調査は、平成22年度に実施した。調査地選定にあたっては、現地踏査における表面採集の遺物の分布状況に地形的な状況を加味して、TP. 1～TP. 30の30箇所の調査坑を設けた。また、その後事業計画の変更により追加工区が生じたことから、追加の試掘調査を平成26年度に実施した。追加箇所はTP. 31～TP. 35の5箇所である。

2 調査の方法

試掘調査にあたっては、まず土地利用が主に葉タバコの栽培であったことから、作付時期を極力避けて調査時期をおもに8月から11月の期間に設定した。調査坑設定箇所の選定にあたっては、現地踏査における表面採集の遺物の分布状況と地形的な状況から判断し、任意に設定した。

調査は、まず2m四方の調査坑を設定して耕作土を除去したのち、土色・土質を見極めながら層位ごとに掘削を行った。掘削は耕作土を含めてすべて人力である。遺物の出土が見られたときは、攪乱土や造成土の場合は、一括で取り上げることとし、遺物包含層である可能性が高いと判断された場合には、いったん出土地点に残したまま同一層分を掘削し、検出状況の写真撮影を行ってから一括で取り上げを行った。各層位の掘削が終わった段階で遺構確認を行い、必要に応じて遺構の検出状況、完掘状況の写真撮影と平面実測を行った。

およそ1万年前とされる土石流堆積物の検出をもって一応の掘削完了と定め、その時点で土層断面の実測図作成と写真撮影を行った。

掘削・記録完了後については、土層ごとに分別して置いておいた廃土を逆順で埋め戻し、途中適宜踏み固め、最後に耕作土をかぶせた。

3 調査の成果

深江町域での発掘調査によって確認・整理されている基本土層は、おおよそ以下のとおりである。

I層 暗褐色土。耕作土。

II層 暗褐色土。近世以降の造成土。

III層 黒色～暗褐色土。縄文時代後期～中世の遺物を包含する場合が多い。

IV層 浅黄橙色火山灰。眉山の火山活動に伴う火山灰。権現脇火砕サージ。

V層 明黄褐色～暗黄褐色土。縄文時代早期の遺物を包含する場合が多い。

VI層 黒色土。

VII層 灰白色砂礫。火山噴火に伴う厚い土石流堆積物。

試掘調査においては、おおむね深江町域における基本土層と同様の層序が見られたが、Ⅳ層・Ⅴ層については確認されなかった。Ⅳ層は雲仙眉山の縄文時代の噴火活動に伴う火山灰層(権現脇火砕サージ)であり、眉山にほど近い山麓遺跡である権現脇遺跡ではこの活動時の爆風でなぎ倒された倒木痕も多数検出されているが、今回の諏訪地区の事業区域内では少なくとも肉眼観察においての層位の確認には至っておらず、噴火活動の直接的な影響範囲を推定するうえで重要な情報となろう。また、Ⅲ層については、黒色土(Ⅲa層)と暗褐色土(Ⅲb層)に分層が可能であった。いずれの調査坑においても最下層でⅦ層を確認したが、このⅦ層は土石流堆積物と考えられ、通称「深江原(ふかえばる)」と呼ばれる扇状地の基盤となっており、雲仙火山の活動に伴って形成されたものと判断された。

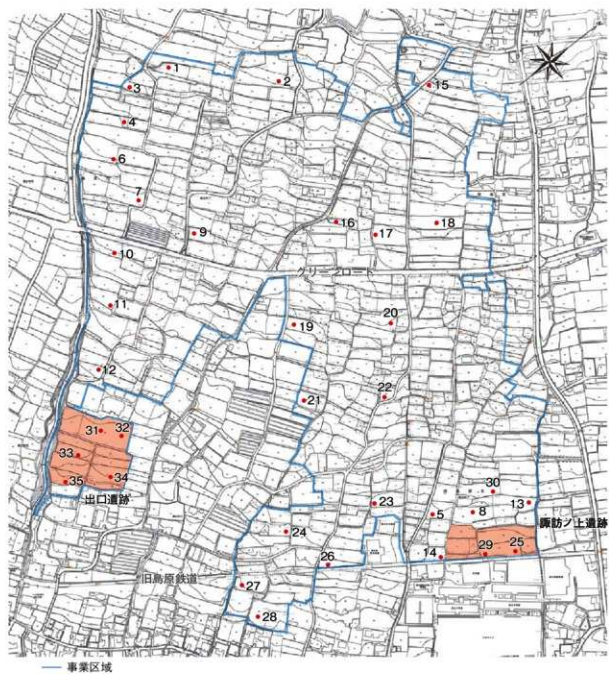
全体的にⅦ層より上位に堆積する土壌は、他の深江町域の遺跡に比べれば層厚が薄い傾向がみられ、これは扇状部に立地することが要因であるものと考えられる。遺構や遺物の検出も全体としては少なく、これも水資源に乏しい扇状部という立地条件を反映しているものと思われる。

その中でTP.25及びTP.29においては良好な遺物の出土がみられた。遺物の多くはⅢ層からの出土で、縄文時代末～弥生時代初頭に位置づけられる資料が大半であった。また、TP.25においては、Ⅶ層より縄文時代早期の押型土器がわずかではあるが確認された。追加工区に設定したTP.31～TP.35においては、縄文時代晩期の遺物の出土が多くみられ、中世の土師皿などの出土もあった。

以上の試掘調査によって諏訪ノ上遺跡および出口遺跡の存在が明らかとなり、新規発見の遺跡として登録を行った。面積は、諏訪ノ上遺跡が約6,000㎡、出口遺跡が約11,000㎡である。

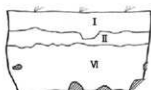


試掘調査状況



第3図 諏訪地区調査坑配置図 (S=1/6,000)

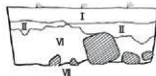
TP.1 南壁 L=72.700m



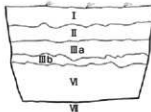
TP.2 西壁 L=75.300m



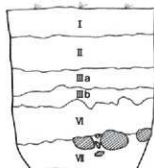
TP.3 南壁 L=69.700m



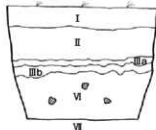
TP.4 南壁 L=66.200m



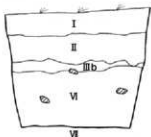
TP.5 南壁 L=36.200m



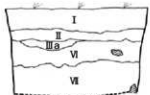
TP.6 南壁 L=63.000m



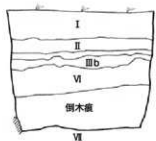
TP.7 南壁 L=60.000m



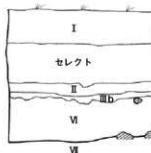
TP.8 南壁 L=36.800m



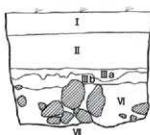
TP.9 南壁 L=58.400m



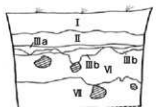
TP.10 南壁 L=55.000m



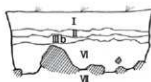
TP.11 南壁 L=50.500m



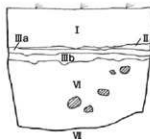
TP.12 西壁 L=44.200m



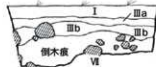
TP.13 南壁 L=37.600m



TP.14 南壁 L=32.100m



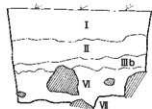
TP.15 南壁 L=79.800m



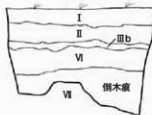
0 2m

第4図 探訪地区調査坑土層実測図① (S=1/50)

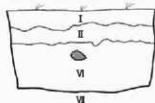
TP.16 南壁 L=62.900m



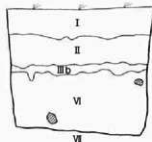
TP.17 南壁 L=64.000m



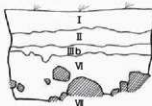
TP.18 南壁 L=67.800m



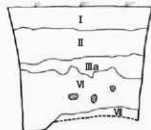
TP.19 南壁 L=52.700m



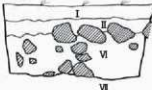
TP.20 南壁 L=56.300m



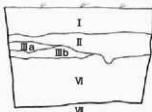
TP.21 南壁 L=47.000m



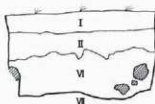
TP.22 南壁 L=51.000m



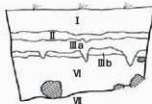
TP.23 南壁 L=37.200m



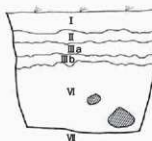
TP.24 南壁 L=22.900m



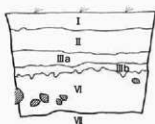
TP.25 南壁 L=33.100m



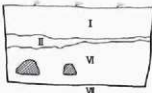
TP.26 南壁 L=32.600m



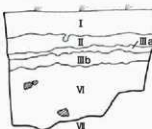
TP.27 南壁 L=29.200m



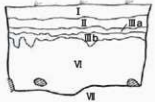
TP.28 南壁 L=26.800m



TP.29 南壁 L=32.800m



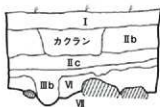
TP.30 南壁 L=38.600m



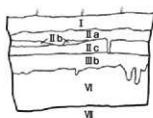
0 2m

第5図 諏訪地区調査坑土層実測図② (S=1/50)

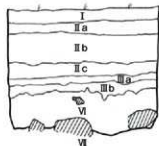
TP.31 南西壁 L=39.200m



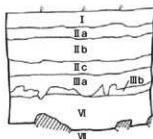
TP.32 南西壁 L=39.200m



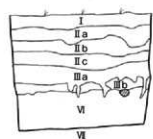
TP.33 南西壁 L=39.200m



TP.34 南西壁 L=36.400m



TP.35 南西壁 L=35.400m



0 2m

第6図 諏訪地区調査坑土層実測図③ (S=1/50)

第三章 本調査

1 調査の方法

調査の実施にあたっては、調査範囲の設定後にまず重機による表土剥ぎを行い、その後、調査グリッドの設定を行った。調査グリッドは世界測地系に則って、 $X = -30180$ 、 $Y = 79920$ の地点をA1として基点に定め、遺跡全体を網羅するように4m四方のグリッドを配置し、北から南へアルファベットを、西から東へアラビア数字を順に割りあて、北西隅の地点名をもって各々のグリッド名称とした(第7図)。また、調査グリッドとは別に調査運営上の便宜的な調査区の部分的呼称として調査小区(1区~7区)を設定し、記録作業などにおいて用いた(第8図)。

表土剥ぎ後の掘削は人力によって行い、攪乱部を取り除いたのちに主要な遺物包含層であるⅢa層とⅢb層を対象として層位ごとに作業を進めた。Ⅲa層、Ⅲb層の出土遺物については、座標観測を行って出土地点の記録を取り、ドットマップを作成した。

遺構の検出作業は、層位ごとの遺物の検出・観測と取り上げの作業が終わった段階で行った。遺構の掘削については、半載して遺構の規模や深さ、堆積状況、性格などを把握したうえで完掘するように努め、遺構内に出土遺物があった場合には、それぞれの遺構ごとに整理番号を振って取り上げた。各検出面での遺構を完掘した段階で遺構配置図の作成を行うとともに、完掘状況の写真撮影を行った。必要に応じて、個別の遺構について平面図と断面土層図の作図と写真撮影を行った。

調査区の全体的な堆積状況については、調査小区の境界部分などに設けた土層観察用ベルトを残して確認しながら掘削し、遺物包含層の掘削が完了した時点で調査区壁面と合わせて写真撮影及び土層実測図の作成を行った。すべての掘削作業が完了した段階で航空写真撮影を行い、調査完了後は完掘状態のまま事業者へ調査現場の引き渡しを行った。

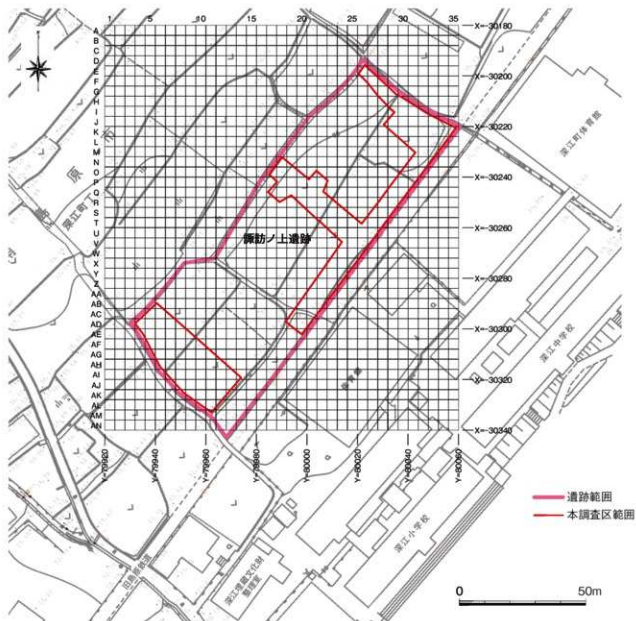
2 基本土層

調査ノ上遺跡における基本土層については、以下のとおりである。基本的には、試掘調査の結果とも変わらない。深江町域において整理されつつある基本層序に対応が可能である。

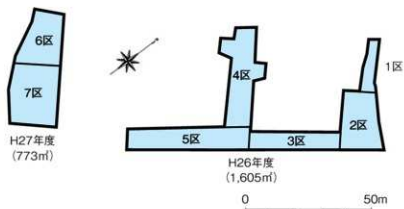
- I層 暗褐色土。耕作土。
- II層 暗褐色土。近世以降の造成土。
- Ⅲa層 黒色土。突帯文期を主体とする遺物包含層。
- Ⅲb層 暗褐色土。突帯文期を主体とする遺物包含層。
- VI層 褐色土~黒色土。
- VII層 灰白色砂礫。土石流堆積物

平成26年度の本調査区については、近世以降に大規模に行われてきた耕作地の造成によって、各ほかの山手部分(は場間石垣の海手側)でⅢ層より下位まで削平が及んでいる状況が確認され、そこでは遺物の出土はほとんどみられなかった。

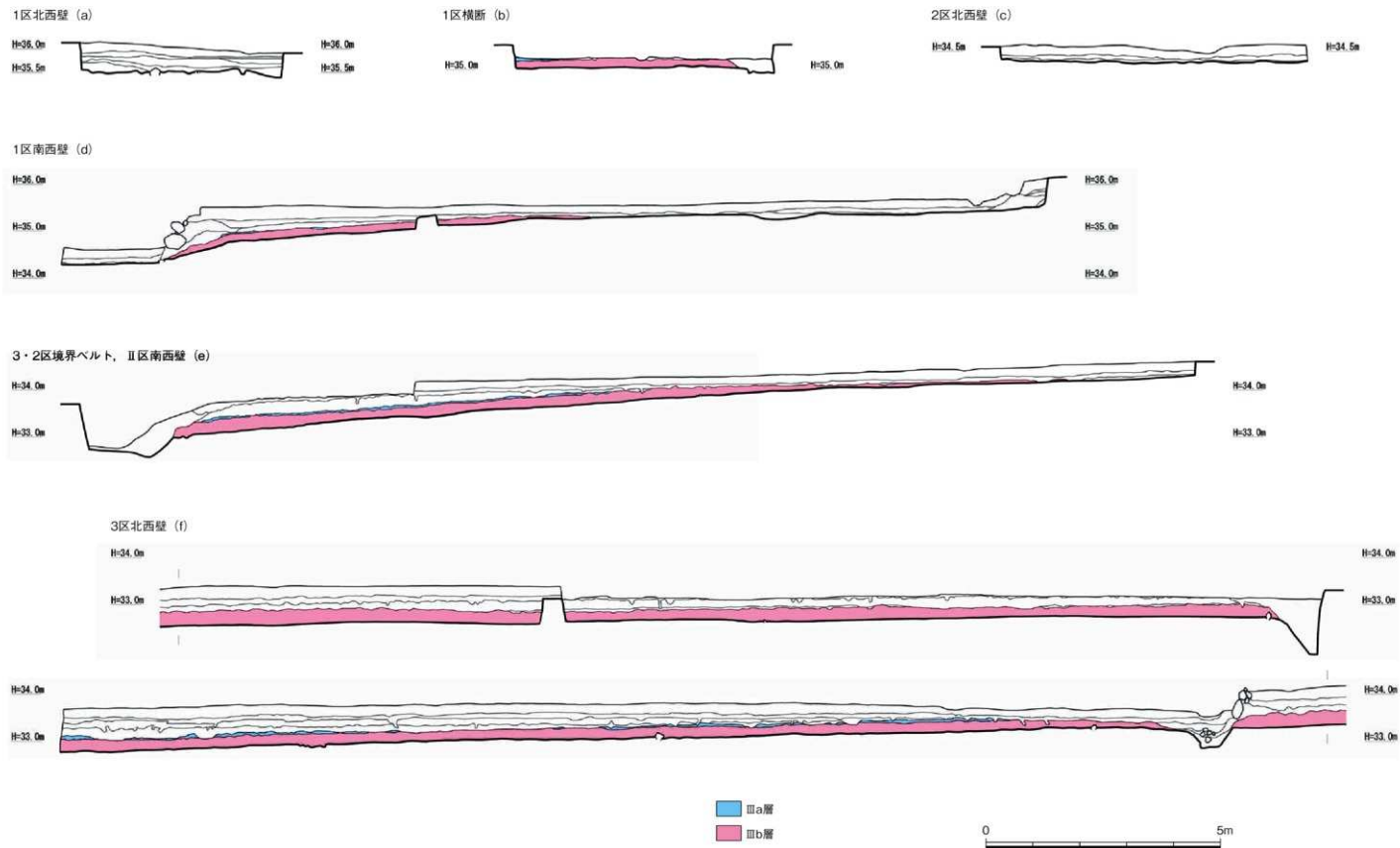
出土遺物の主体を占めるのは突帯文期の資料で、Ⅲa層及びⅢb層からそのほとんどを検出した。それより上位層は近世以降の堆積である。後世の人為的な削平を受けていないと考えられる地点においては、Ⅲa層は層厚5cm程度、Ⅲb層は層厚25cm程度の堆積をみせた。Ⅲa層、Ⅲb層ともに



第7図 グリッド配置図 (S=1/1,500)

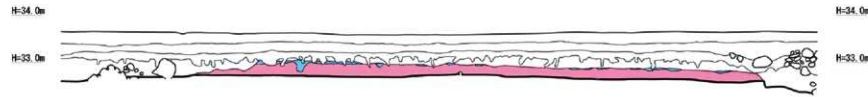


第8図 調査小区配置図 (S=1/1,500)

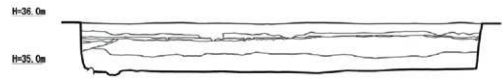


第9図 土層実測図① (S=1/80)

3区南東壁 (g)



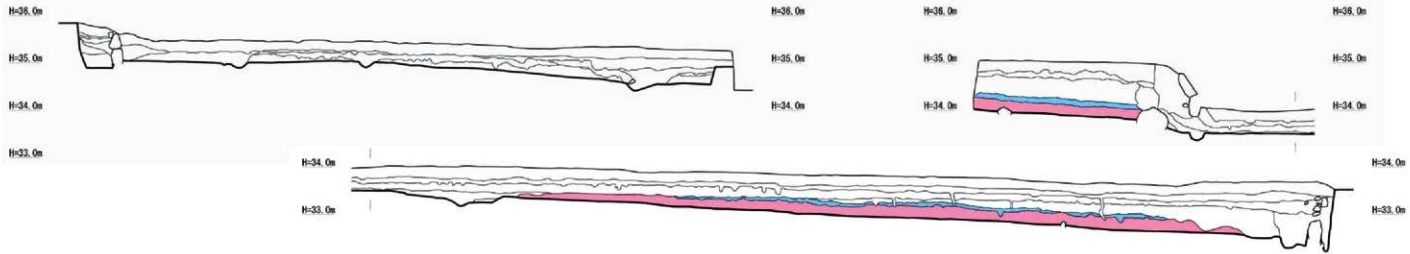
4区北西壁 (h)



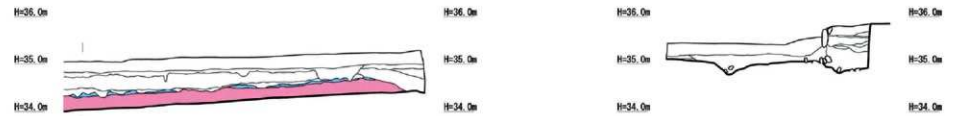
4区横断壁 (i)



4区北東壁, 3・5区境界ヘルト (j)

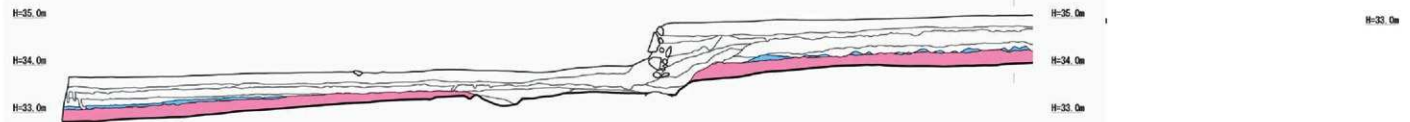


4区南西壁 (k)



III a層
III b層

0 5m



第10図 土層実測図② (S=1/80)

4区南西側張出部西壁 (l)



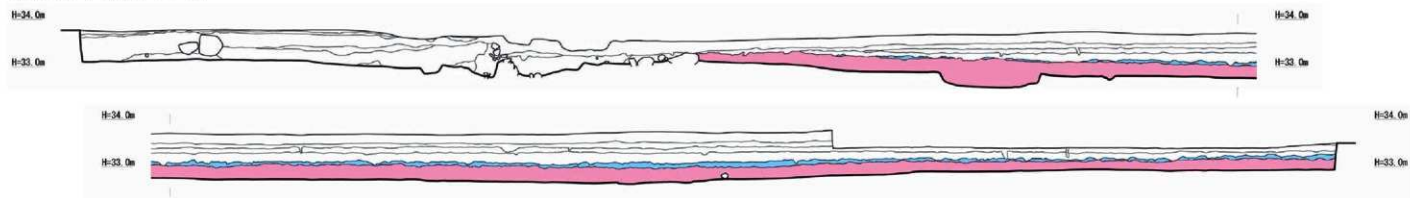
4区南西側張出部北西壁 (m)



4区南西側張出部南東壁 (n)



5区北西壁、4・5区境界ベルト (o)



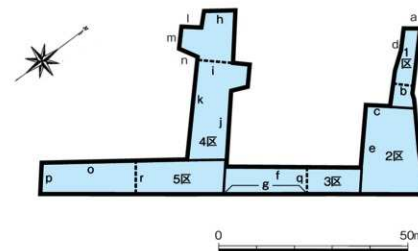
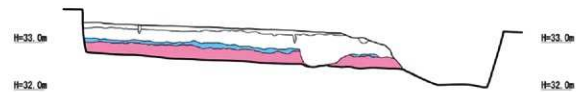
5区南西壁 (p)



3区縦断ベルト (q)

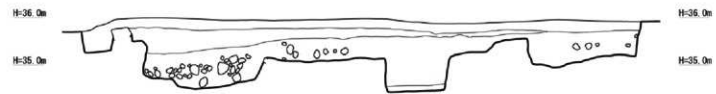


5区縦断ベルト (r)



第11図 土層実測図③ (S=1/80)

6区北西壁 (s)



6区横断ベルト (t)



7区横断ベルト (u)



7区横断トレンチ (v)

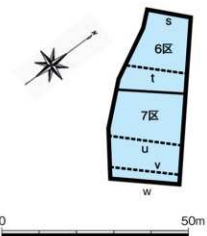


7区南東壁 (w)



IIIa層
IIIb層

第12図 土層実測図④ (S=1/80)



きめの細かい火山灰質土であるが、Ⅲ a層はほとんど礫を含まずやや粘性を有するのに対し、Ⅲ b層は2cm以下程度の小礫を含み、Ⅲ a層に比べれば粘性は低い。深江町域でも比較的標高の高い地点で確認される雲仙眉山の縄文噴火による浅黄橙色の火山灰層（Ⅳ層）は認められなかった。一方、本来Ⅳ層中に含まれる火山煉瓦については、掘削中に小片がわずかに認められ、これらは山手からの二次堆積とみられる。

平成27年度の本調査区については、Ⅲ a層及びⅢ b層の大部分が削平を受けており、造成土であるⅡ層を除去するとⅥ層以下が広く露出する状況であった。調査区南西側の調査区壁面近くでは、固結した土石流堆積物のⅦ層が耕作土下に露出する部分もみられ、この付近では近世以降の耕作地造成のための削平が平成26年度調査区付近よりも大きいことがわかった。

3 遺構

平成26年度調査（1～5区）

2・3区及び5区においては、南東側（海手側）で大きく段差を形成する落ち込みが確認され、これを埋め込む状況が見られた。旧島原鉄道南目線の敷設に伴う埋め立て造成であると考えられた。また、5区南西部では大きく削平・攪乱が及んでおり、遺物包含層の残存は認められなかった。3区では縦長の調査区の中ほどを横断するようには場の境界に沿って溝状の遺構が確認され、通路であろうか。突帯文期の遺構と考えられるものとしては、2区において土坑の検出があった。

土坑（第15図）

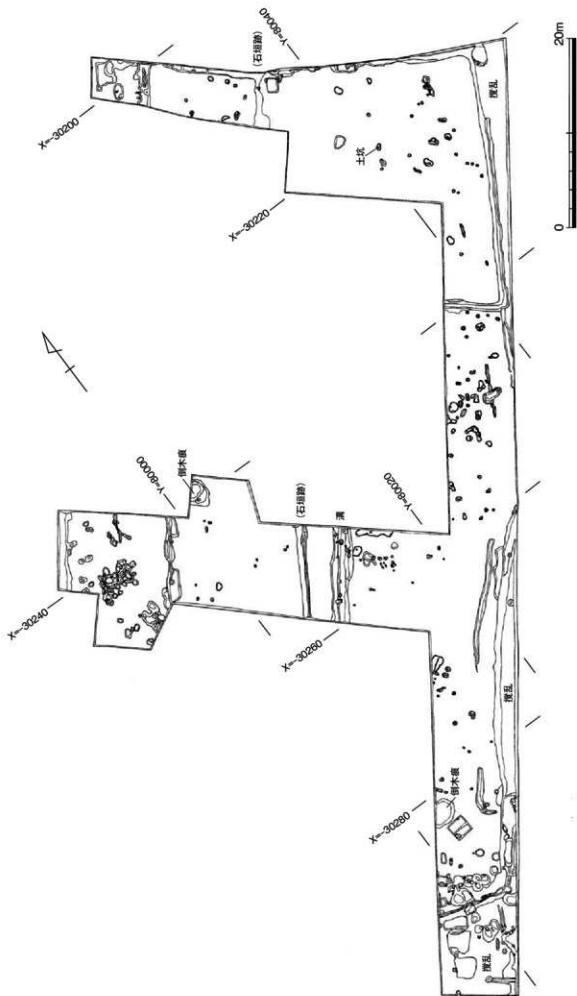
平成26年度調査の2区、調査グリッドK31において、Ⅳ層上面より不整形の土坑を検出した。長軸79cm、短軸50cmを測り、主軸を傾斜と直交する方向にとる。底面はわずかに段差をもっており、最深部で15cmの深さである。遺構内より砂岩製の有溝砥石（第52図118）の出土があった。

平成27年度調査（6・7区）

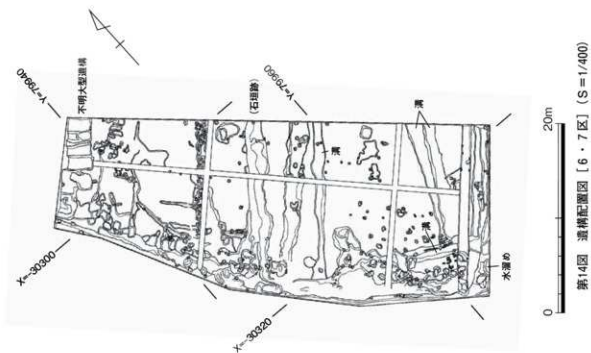
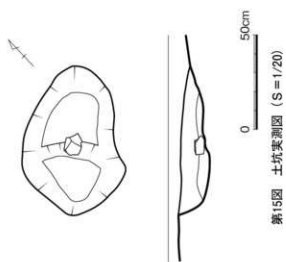
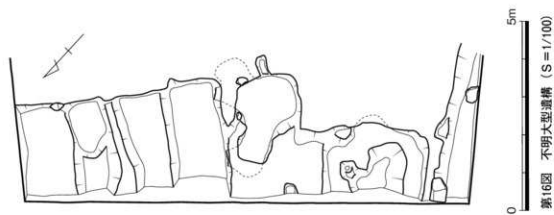
調査区全体が大きく後世の削平・攪乱を受けており、明確に突帯文期の遺構と判断されるものの検出には至らなかった。調査区南西壁付近は地割の石垣造成によって攪乱を受けていた。また、南東壁付近は現代物を多く含む埋め立て造成で、これを除去すると肥溜めが確認されるなどした。27年度調査区をほぼ中央で6区と7区に分断するは場境界石垣の海手では、3区と同様の溝状の遺構が確認され、おそらく3区のものとして連続すると考えられる。また、調査グリッドAK10、AK11では左岸に石列を伴う幅約1.4m、深さ約40cmのU字溝を検出した。近世以降の所産と考える。調査区の最も山手では方形の区画が並ぶ性格不明の大型遺構が確認された。

不明大型遺構（第16図）

6区の最も山手の地点において、Ⅶ層に掘り込む大型で方形の区画が複数並んで確認された。土石流起因の水成堆積をみせるⅦ層は固結が一定程度進行しており、それを掘り込んだ区画は壁面を作って隣り合っていた。また、埋土はⅦ層の砂礫とⅡ層土が攪乱して堆積しており、ガラスなどの現代物を含んでいることから、ごく新しい時期に埋没したことがうかがえた。おそらく厚い堆積をみせるⅦ層の半固結した砂礫層を、壁や天井を残して掘り込んだ地下式の室のような構造で、天井の落盤によってその機能が失われたものと判断した。遺構の性格や造成時期を断定するには至っていないが、近世以降のものと考えておきたい。



第13区 遺構配置図 [1~5区] (S=1/400)



4 出土遺物

(1) 土器・陶磁器

諏訪ノ上遺跡より出土した土器・陶磁器類は、時期別に以下のように大別される。

- 1群 縄文時代早期の土器
- 2群 縄文時代後期の土器
- 3群 縄文時代晩期・突帯文期の土器
- 4群 弥生時代中期～古墳時代の土器
- 5群 中・近世の土器・陶磁器

1群 縄文時代早期の土器

1・2ともに小片であるが、1は山形押型文、2は楕円押型文が外面に観察される。



第17図 出土土器実測図① (S=1/3)

2群 縄文時代後期の土器

3は鉢もしくは深鉢の資料で、内外面ともに研磨調整を施し、肥厚する口唇部外面には縄文と沈線の施文がある。4～6は深鉢の口縁部で、いずれも口唇部を肥厚させ、内外面ともに研磨調整を施す。7は波状をなす鉢口縁部の波頂部で、外面には2条の沈線を引く。8は外反する頸部に内湾する口縁部がつく。口唇部は欠損するが、外面に凹線が認められる。



第18図 出土土器実測図② (S=1/3)

3群 縄文時代晩期・突帯文期の土器

9～44はいずれも深鉢の資料である。全体的な器形がわかるものはないが、砲弾形をなすもの、胴部上位で屈曲するもの、肩部をもつか緩いS字状のカーブをなして外傾もしくは外反する口縁部へと至るものがあると考えられる。

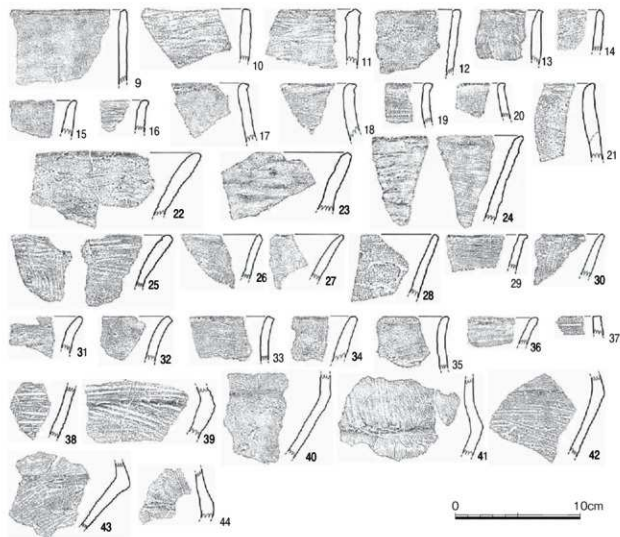
9は直立する口縁部で、内外面ともに丁寧なナデ調整を見せる。あるいは2群土器に含まれる可能性もある。10は口唇部を平坦に整える。15～21の口唇部は内面をナデ調整により丸く収め、外端に稜を作る。17～21は内傾しており、胴部上位で屈曲するものか。

22～36は大きく外傾もしくは外反しており、黒川式期に見られる深鉢の資料であると考えられる。22は厚手で、大きく外反する。23は内面に指頭圧痕を残す。24は外面に横方向の指ナデがみられる。25は

強く外反しており、内外面に横方向の貝殻条痕調整を施すが、外面にはその後縦方向の研磨調整を行っている。27、29・30、32・33は口唇部上面を平坦に整える。

37・38は間隔の広い平行な沈線文を外面に引く。

39～44は胴部の資料である。39の外面は、屈曲部より下位に斜方向の、上位に横方向の貝殻条痕調整が認められる。41の外面には横方向の貝殻条痕調整のちに縦方向の粗い研磨調整が施される。43は屈曲が強く、あるいは肩部となって口縁部へは大きく開いて立ち上がるかもしれない。



第19図 出土土器実測図③ (S=1/3)

45～184は刻目突帯文土器の甕である。

45～87は指先による刻目が施されている資料である。

45は強く屈曲する2条甕で、口縁部の突帯は口唇部に近接して貼りつけられる。外面においての調整は、胴部が斜方向の貝殻条痕をそのまま残し、胴部突帯の下位から口縁部にかけては横方向の貝殻条痕調整ののちにナデ調整を施している。内面の調整は、横方向の貝殻条痕調整ののちにナデ調整である。内外面ともにわずかではあるが炭化物の付着が認められる。復元口径は24.0cm、復元胴部最大径は29.6cmを測る。46は内傾する口縁部の資料で、口唇部からやや下がった位置に背の高い三角突帯を張りつけている。外面には横方向の貝殻条痕調整を残し、内面は擦過調整ののちにナデ調整を施す。復元口径は35.8cmを測り、口径のわりに薄手のつくりである。47は胴部突帯から下位の資料である。外面には指先で器面を掻き取るような調整が行われ、横方向に粗い筋状の痕跡が残る。内面には横方向の貝殻条痕調整ののちにナデ調整が行われている。外面には炭化物の付着が認められる。復元胴部最大径は45.0cmである。

48は内傾する口縁部で、口唇部断面は先細りとなって外反する。外面に炭化物の付着が認められる。49の口縁部には直接刻目が施される。51の突帯は低く、刻目は小ぶりである。52は内傾が強く、外反して立ち上がる。66は焼成が甘く器面の状態が良くない。低い突帯が口唇部に接して貼り付けられており、線刻が認められる。

68は強く屈曲し、口縁部へは内傾する。69は明瞭には屈曲をせず、影らむ胴部の最大径部分に突帯を張り付けている。68～70の外面調整は、いずれも突帯より上位を丁寧にナデ調整によって仕上げている。72の刻目は突帯をこえて胴部まで深く達している。77は強い屈曲をみせ、突帯への刻目は指刻みにしてはやや小ぶりである。突帯より下位には斜方向の貝殻条痕調整が認められる。82、85の刻目は大ぶりである。

88～134は棒状工具の側面押しあてによる刻目を施した資料である。

88～117は口縁部の資料、118～134は胴部の資料である。

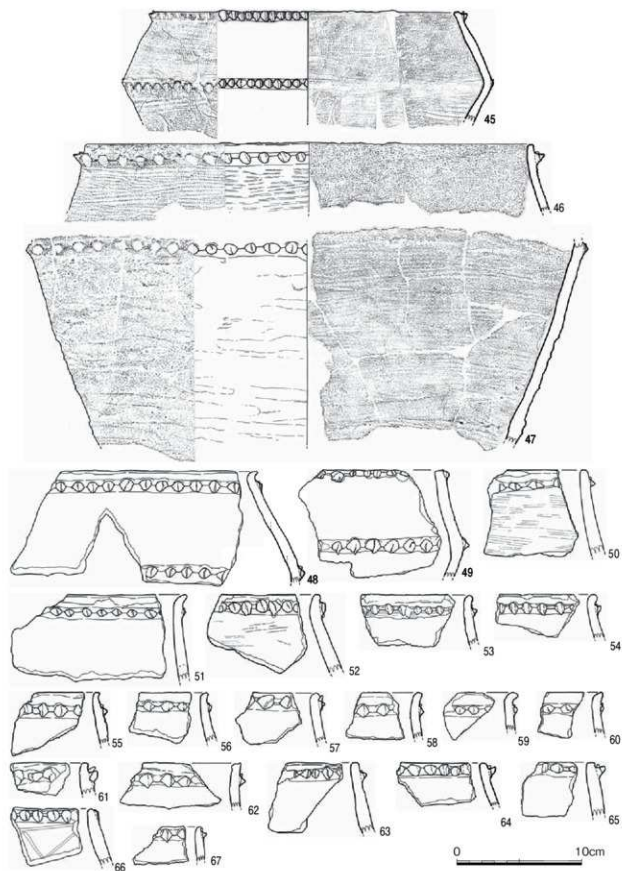
88は強く内傾する口縁部で、復元口径27.4cmを測る。89は口縁部と胴部に刻目突帯をもち、復元口径17.8cm、復元胴部最大径22.4cmを測る。胴部突帯は下向きに貼りつけられ、2条の突帯間は丁寧にナデ調整が施されている。90、92は薄手の器壁で、口唇部は外反する。97、99～101、104は細めの工具で細かく刻目が入る。112は口縁部と胴部に2条の刻目突帯文をもつが幅が狭く、小型品か鉢である可能性もある。外面に炭化物の付着がある。113の突帯は細く、刻目も細い。114には焼成後に内外面から作業した穿孔がみられる。

122、125、128、130はいずれも非常に薄手のつくりで、屈曲部の突帯は細く、刻目も細かい。128は明瞭に屈曲せず、最大径部分に突帯を張りつけ、突帯より下位には斜方向の貝殻条痕調整が残る。126も明瞭には屈曲せず最大径部分に突帯を貼りつけている。刻目は大ぶりである。127、129～131の外面には炭化物の付着が認められる。133には突帯下に横方向の貝殻条痕調整が施されている。

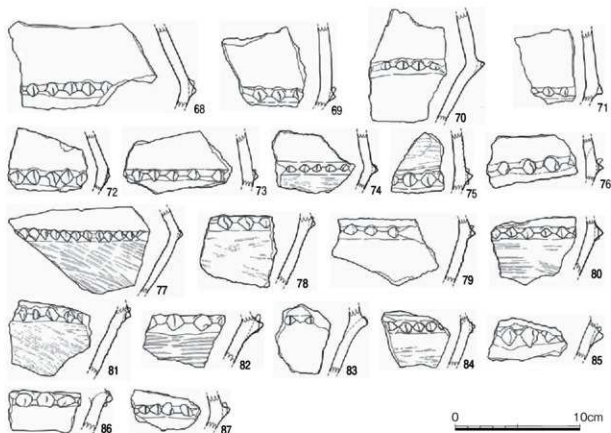
135～176はヘラ状工具による刻目が施された資料である。

135～139は2条の刻目突帯が認められる資料、140～158は口縁部の資料、159～176は胴部の資料である。

135は復元口径26.6cm、復元胴部最大径31.2cmを測る。内外面ともにナデ調整を施す。胴部から



第20图 出土土器实测图④ (S=1/3)

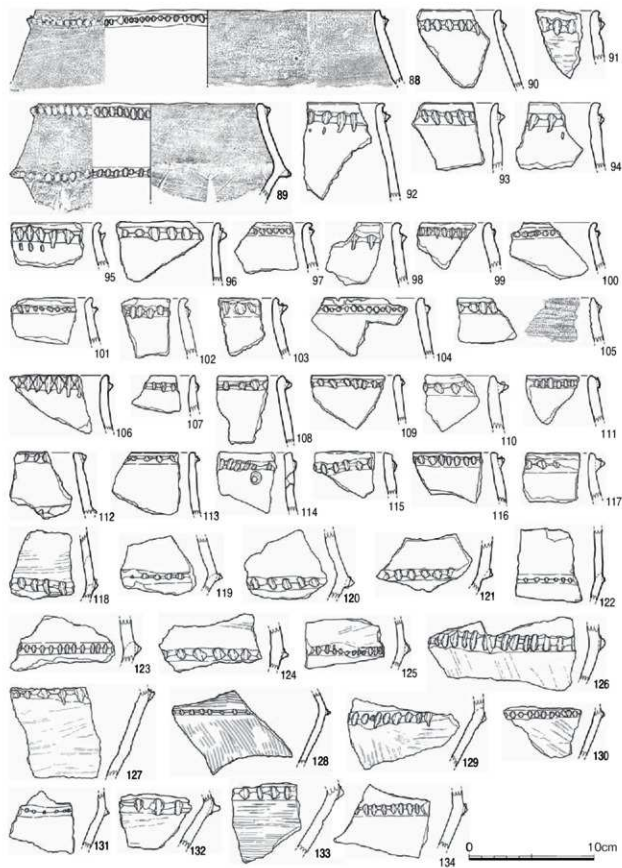


第21図 出土土器実測図⑤ (S=1/3)

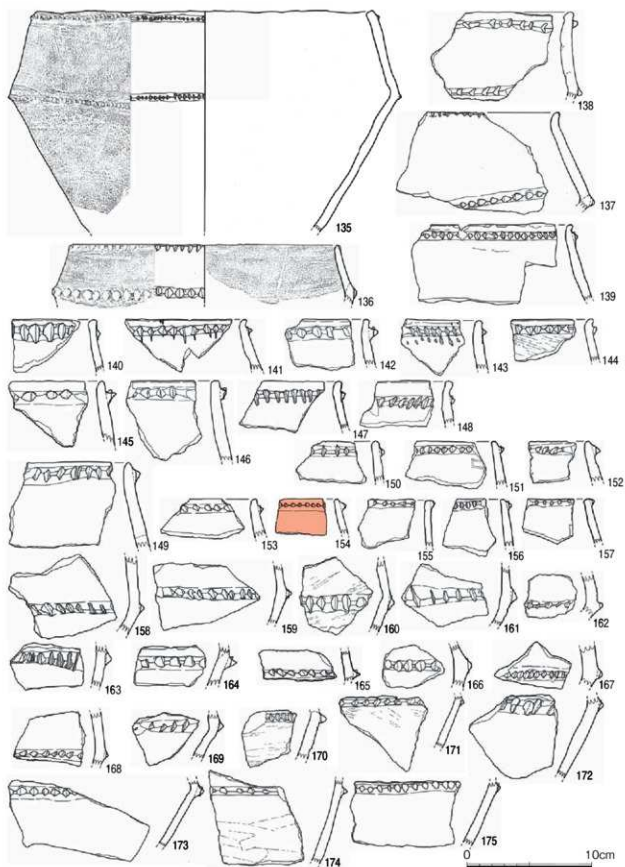
しっかりと屈曲した口縁部は直線的に内傾して、口縁部は丸く収める。2条の突帯は非常に細く、刻目も細かい。胴部突帯より下位には炭化物が付着する。胎土に2mm大の石英を多量に含むのが、他の資料と異なり特徴的である。136は内外面ともに丁寧なナデ調整が行われている。口唇部には突帯を張りつけることなく直接刻目を施している。あるいは鉢形となるか。137は強く屈曲して内傾する口縁部の資料で、外反する口唇部に直接刻目を入れる。外面は丁寧なナデ調整である。口縁部と胴部突帯が平行しておらず、波状口縁になることも考えられる。

138は細めの突帯を2条貼りつけるが、どちらもなでつけが十分でない。141は非常に鋭利な工具を用いており、器面にまで痕跡が残る。148は比較的薄手の器壁で細い突帯を貼りつけるが、深めの刻目は器壁まで及んでいる。151は外面にナデ調整を施し、線刻を入れる。154～157は薄手の資料で、丁寧なナデ調整によって仕上げられている。突帯は口唇部に接して貼りつけられ、刻目は非常に細かい。154の外面には丹塗りが施され、鉢である可能性もある。

161には大ぶりの刻目が施される。163の屈曲は不明瞭である。165は薄手の器壁で、細くて背の高い三角突帯を貼りつける。167は厚手の器壁のわりに刻目が細かく入る。171は薄手の器壁で外面には貝殻条痕調整を残す。174は外面に擦過調整が残り、細い突帯には間隔の広い細かい刻目が入る。171、173、176の外面には炭化物が付着する。



第22图 出土土器实测图⑥ (S=1/3)



第23图 出土土器实测图⑦ (S=1/3)

176・177は異種原体による刻目を施した資料である。176は内傾する口縁部の資料で、口縁部突帯は指先による刻目を、胴部突帯にはヘラ状工具による刻目を施す。177は胴部突帯には大ぶりの指先による刻目が入る。口縁部には突帯の貼りつけはなされず、口唇部外端に1箇所のみヘラ状工具によるものと思われる刻目が入るが連続してはならず、意図的なものかは不明である。

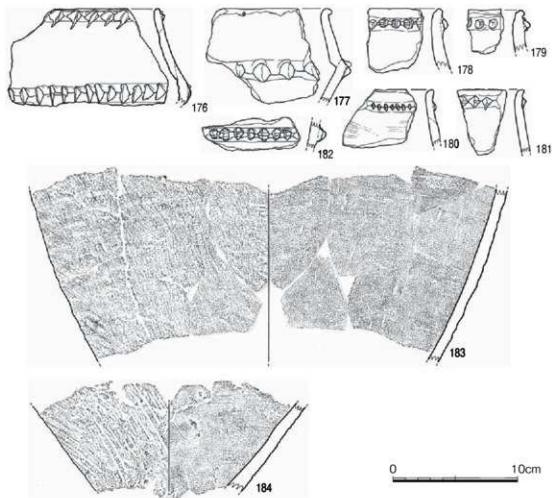
178・179は棒状工具の小口部分の刺突による刻目が施された資料である。180～182は貝殻腹縁による刻目の資料である。

183・184は胴部の資料である。おそらく刻目突帯文土器の甕下部と考えてよからう。183の外面は縦方向の擦過調整が施されている。184は斜方向の貝殻条痕調整が外面に施されている。

185～228は深鉢もしくは刻目突帯文土器の底部である。185～187については、2群である可能性が高いと考えるが、底部としてここで一括して報告する。

185～188はわずかに上げ底となっており、外面は底部と胴部とが境界を作らず直線的に外へと広がるものである。185・186は内外面に、187は外面に研磨調整が施されている。185は復元底径9.0cm、186は復元底径7.0cmを測る。

189～193は外面が底部と胴部に境界をもつものの、はっきりとした張り出し底とはならないものである。189はわずかに底面に組織痕が残るものの、ナデ調整によって不明瞭である。190も底面に組織



第24図 出土土器実測図⑧ (S=1/3)

痕が残る。籠目であろうか。192の底面には研磨調整が施される。193の外面には縦方向の擦過調整が施されており、底面には不明瞭であるが組織痕が残る。復元底径は、189が9.0cm, 190が7.3cm, 191が10.0cm, 192が8.3cm, 193が7.6cmを測る。

194～215は張り出し底の資料である。194～202は平底のもの、203～215は上げ底のものである。194は底面に種子圧痕の可能性のある凹みが残る。198は外面に貝殻条痕調整を施す。復元底径は、194が6.9cm, 195が10.2cm, 196が10.0cm, 197が10.1cmである。また、198が8.6cm, 199が8.2cm, 200が8.5cmを測る。203の底面は指先によって粘土の掻き取りが行われ、高台状の上げ底となっている。底径は7.6cmを測る。204は復元底径6.1cmとやや小ぶり、鉢の底部である可能性もある。205・206は底面に掻き取り痕が残る。207の底面には凹凸が認められ、籠目などの組織痕の可能性もある。208・213の底面は輪郭部を残して内部は丁寧にナデ調整が行われている。209の底面には擦過調整が明瞭に残る。復元底径は205が9.1cm, 206が7.5cm, 207が8.9cm, 208が7.3cmである。また、209が8.7cm, 210が7.8cmである。

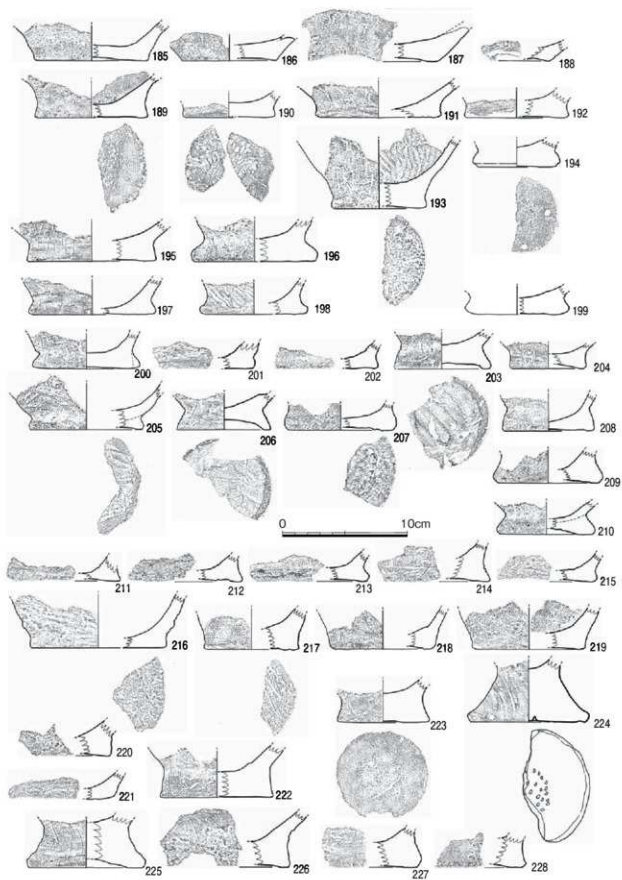
216～221は直線的に胴部へと開いて立ち上がるが、185～188のように研磨調整などは行われず、やや粗い作りのものである。216は組織痕の可能性のある圧痕が底面に残り、外面には貝殻条痕調整が施されている。217の底面には工具による擦過調整が明瞭に観察される。218はわずかに上げ底となる。219は底面及び外面に擦過調整が観察される。復元底径は、216が10.9cm, 217が7.6cm, 218が8.4cm, 219が9.1cmである。

222～228は厚底の資料である。222は底面に擦過調整が残る。224は底面の中心部付近のみわずかに上がる。224は張り出しが強く、あるいは脚台を意識した作りかもしれない。胴部への立ち上がり部分の復元径は4.9cmと小さく、深鉢や突帯文土器の甕ではなく、別器種の可能性もある。底面中央付近に集中的に細い工具による刺突が認められ、おおよそ6mm程度の深さがある。225の底面は非常に滑らかで、磨石などを台として製作した結果かもしれない。復元底径は、223が7.4cm, 224が9.6cm, 225が9.5cmを測る。

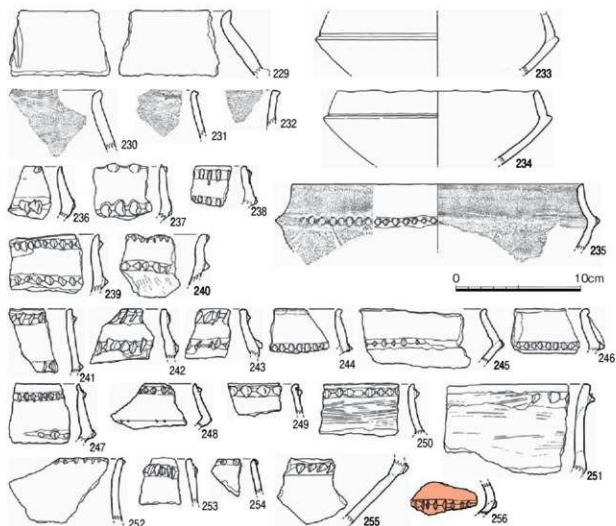
229～256は鉢形の土器である。229は内傾する口縁部の資料で、口唇部は先細りとなり外反する。外面に線刻が認められる。内外面ともにナデ調整である。230も内傾する口縁部の資料で、229同様口唇部が外反する。231・232は薄手の器壁で、口唇部外端が張り出す。233・234は同一個体の可能性が高い。屈曲部で段を作り、その直上に1条の沈線を引く。外面は研磨調整が施され、本来の口縁部はおそらく製作時の粘土積み上げの境界部分で欠損したものと恐れ、破断面を研磨することにより口縁部を再生している。233は復元口径17.6cm, 復元胴部最大径19.5cm, 234は復元口径16.0cm, 復元胴部最大径18.2cmである。

235は胴部突帯にヘラ状工具による刻目を施した資料である。外面は突帯より下位は擦過調整、上位はナデ調整、内面はナデ調整である。復元口径は23.2cm, 復元胴部最大径は25.4cmである。236・237はともに突帯を貼りつけることなく口縁部と胴屈曲部に指先によって刻目を施した資料である。236は先細りとなる口唇部、237は平坦に整えた口唇部である。

238・239はヘラ状工具による刻目を突帯に施した資料である。240は口縁部に直接、胴部には突帯を貼り付けて刻目を入れる。外面の胴部突帯より下位は貝殻条痕調整が認められる。241・242・243は口縁部と胴部に刻目突帯をもつ資料である。刻目はいずれもヘラ状工具によるものである。244・



第25图 出土土器实测图⑨ (S=1/3)



第26図 出土土器実測図⑩ (S=1/3)

245・246は胴部だけに突帯を貼りつけて刻目を施すものである。いずれもヘラ状工具による刻目である。246には口唇部から胴部の突帯への垂下する粘土紐の貼り付けが行われている。247は2条の突帯をもち、口縁部突帯は半裁竹管状工具による刺突によって、胴部突帯は指先によって刻目が施されている。胴部突帯は途中で途切れており、突帯の粘土紐の継ぎ目で剥落したものか意図的なものかははっきりしない。248は口縁部突帯には半裁竹管状工具の小口刺突によって刻目が入れられる。胴屈曲部には突帯を貼りつけることなく直接ヘラ状工具による刻目が入れられる。口縁部突帯直下には炭化物の付着が認められる。249は細い突帯に指先で大ぶりの刻目が入れられる。250の外面には横方向の刷毛目状の調整が施され、口縁部の突帯には棒状工具の側面押し当てによる刻目が入れられる。251は口縁部突帯にヘラ状工具による刻目が認められる。突帯の剥落した部分にも貝殻条痕調整が確認でき、器面調整ののちに突帯が貼りつけられたことがわかる。屈曲直上に炭化物の付着が認められる。252は外反する口縁部で、口唇部にヘラ状工具によって刻目が施される。253・254はヘラ状工具による刻目である。

255・256は胴部の資料で、ヘラ状工具による刻目が施される。255の外面には縦方向の研磨調整が認められる。256は屈曲部に直接刻目が入れられ、外面には赤色顔料の塗布が認められる。

257～518は浅鉢の資料である。

257・258は大きく開く頸部に短い口縁部が立ち上がり、口縁部外面には1条の沈線を引く。

259～269は波状口縁となる資料である。259～267には刻目突帯がつく。259は、口縁部突帯は口唇部に接しており、胴部突帯部分では屈曲しない。刻目は細い棒状工具によるものである。260は屈曲部に突帯を貼りつけ、ヘラ状工具によって刻目を施す。261は口縁部が玉縁状となって肥厚しており、刻目は指先によるものである。262・263・264は内外面ともに研磨されており、ヘラ状工具による刻目である。265は器面の状態があまりよくないが、細い棒状工具先端による刺突列点を突帯上に施す。266は口唇部に接して貼りつけた突帯に棒状工具による刻目を施す。267は肥厚させた口唇部のやや下がった位置に突帯を貼りつけ、その頂端部にヘラ状工具によって小刻みの刻目を入れる。268は内外面ともによく研磨されている。269は屈曲に粘土紐を貼りつけて段を強調しており、口縁部は外反する。外面と内面口縁部付近は研磨調整である。

270～280は壙形もしくは皿形になる資料である。270の外面はナデ調整、内面は研磨調整で、外面には炭化物の付着が認められる。272・273は内外面ともに研磨調整が施されている。275～280はいずれも内外面ともに赤色顔料の塗布が行われ、280は器面の状態が良くないが、それ以外は研磨調整が施されている。

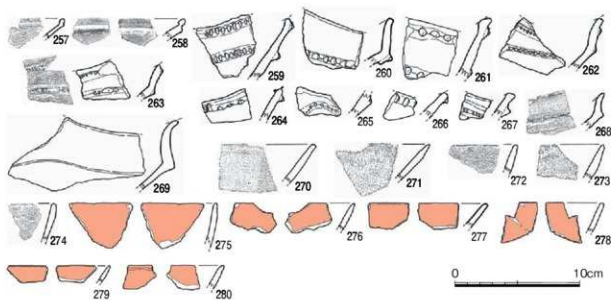
281～337は逆「く」字状に屈曲する浅鉢である。

281は口唇部が外へと屈曲して外面で段を作る。

282～299は外面に段をもつものである。282は黒色磨研で非常によく研磨されている。287の屈曲部は外面に稜を作らない。294は屈曲が弱い。

300・301は外面口唇部直下に沈線を引く資料である。

302～314は口縁部が外反し、口唇部外端に稜をつくるものである。304は口縁部のつくりが分厚く、特徴的である。311は黒色磨研土器で、外面の屈曲より下位に赤色顔料の塗布がある。312の外面にも赤色顔料が観察される。314には焼成前の穿孔が認められる。



第27図 出土土器実測図⑩ (S=1/3)

315～332は外反する口縁部で、口唇部を丸く整えるものである。315は粘土紐の積み上げが観察される。器壁に無数の細かい間隙があり、有機質もしくは水溶性の混和物が胎土に含まれていたものと考えられる。復元口径30.8cm、復元胴部最大径31.6cmである。316は復元口径が21.0cm、復元胴部最大径が22.7cmである。317の外面は屈曲部より上位は研磨調整を施しているが、屈曲より下位は貝殻痕調整を残す。318は315同様、細かい間隙の多い器壁である。321は外面及び口縁部内面に丹塗りを施す。329の屈曲より下位の胴部は非常に器壁が薄い。

333は口縁部が強く外側へ折れる資料である

334・335は口唇部を欠く資料である。

336は薄手の器壁で直立する口縁部の先端は外に折れる。337は大きく外反する口縁部である。336・337については、逆「く」字形浅鉢の範疇に含まれない可能性もある。

338～445はボール形あるいは洗面器形の器形をなすものである。うち338～409は刻目突帯を口縁部にもつもの、410・411は口唇部に直接刻目を施すものである。

338～366は指先による刻目が施されたものである。339、343、346には外面に吹きこぼれと思われる分厚い炭化物の付着がある。350の内面は研磨調整が施される。338、366は突帯が口唇部に接して貼りつけられる。

367～393は棒状工具の側面押し当てによって刻目が入れられる。369、373、379は背の高い突帯が特徴的である。381の器壁は他と比べ非常に薄く、傾きに不安がある。あるいは鉢であることも考慮しておく必要がある。356、393には外面に吹きこぼれと考えられる炭化物の付着が認められる。

394～408はヘラ状工具による刻目が施されたものである。394・395、402・403、406の外面には炭化物の付着がある。396は比較的薄手の器壁で、突帯も細い。内面には貝殻痕調整を残す。

409は半截竹管状工具による刺突を施す。外面の調整は擦過で、炭化物の付着が認められる。

410・411は口唇部上面に直接刻目を施す。どちらも指先によるものである。

412～437は刻目突帯をもたない資料である。414～418、426、429・430には外面に炭化物の付着がある。412には焼成後の穿孔が内外の両方から行われている。429は口縁部が外反する。432は内外面ともに研磨調整が施される。435～437はいずれも内外面ともに研磨調整が施される。435は外面に赤色顔料が塗布され、内面は黒色である。436・437は内外面ともに赤色顔料が塗布される。

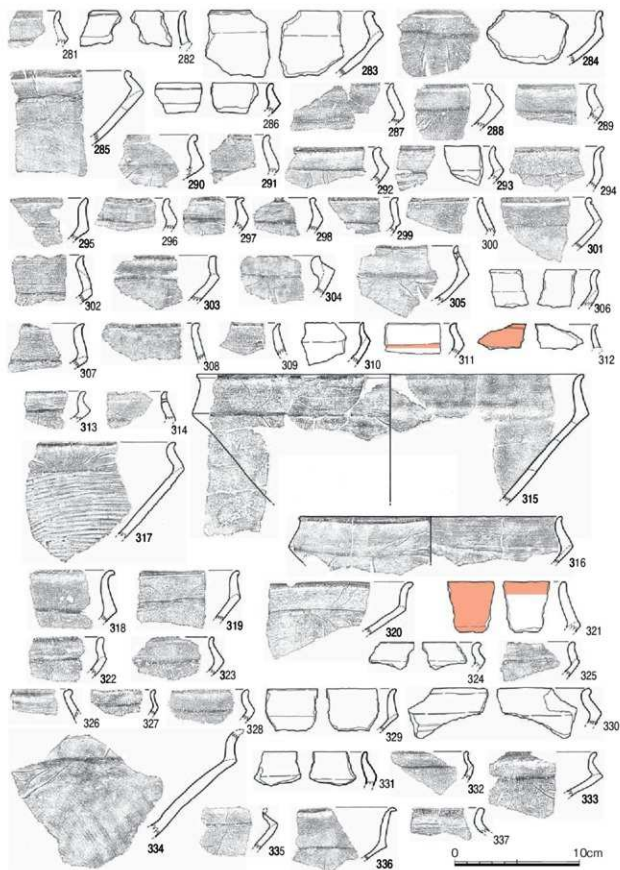
438～445は胴部・底部の資料である。438、442の外面には炭化物が残る。438～440は外面に擦過調整が施される。445は平底をなし、底径7.3cmを測る。

446～473は型取り成型によって製作された組織痕土器である。

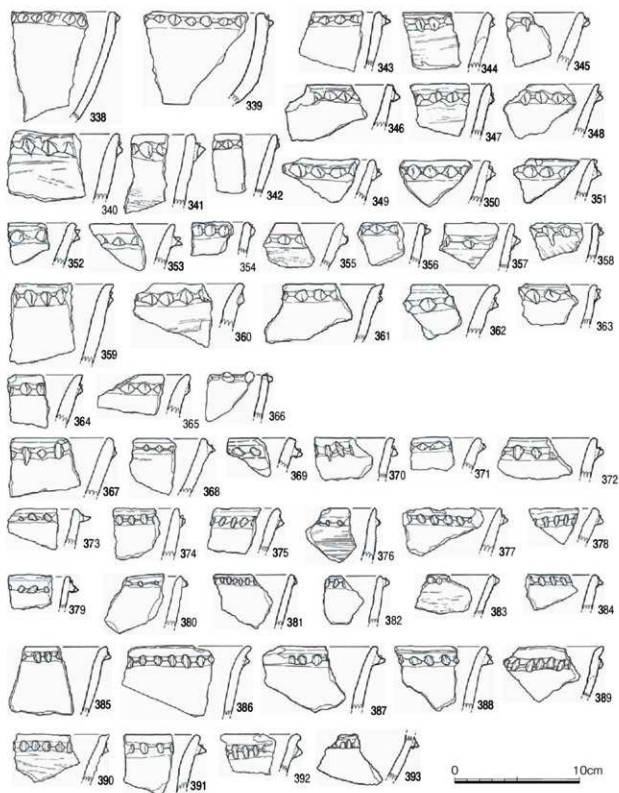
446～451はアンギンの痕跡が残る。447、450は明瞭に組織痕が確認できるが、他はその後のナデ調整により不鮮明である。446の外面は、屈曲部より下位にアンギンの痕跡が認められ、屈曲部より上位には炭化物の付着が認められる。

452～463は籠目の痕跡が認められるものである。456は底部付近の資料で、復元底径は11.8cmを測る。型取り後に貝殻痕調整・ナデ調整が施され、組織痕は不鮮明である。463は底部から胴部への立ち上がり部分で、型取り後に擦過調整による器面の掻き取りが行われ、組織痕は不鮮明である。

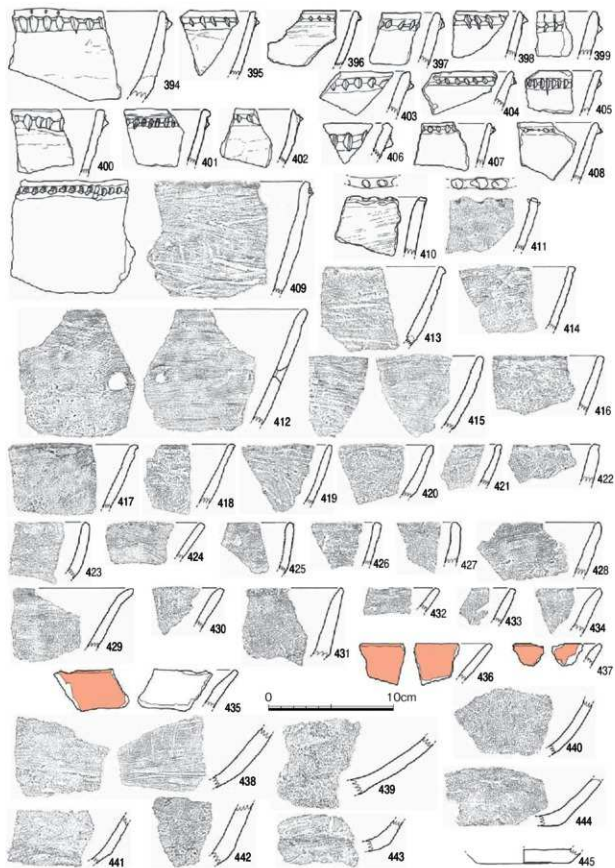
464～473は型取りとそれより上位の粘土紐積み上げとの境界となる屈曲部もしくは段をもつ資料である。464は口縁部にヘラ状工具による刻目突帯をもち、外面は擦過調整である。段下の組織痕につ



第28图 出土土器实测图⑫ (S=1/3)



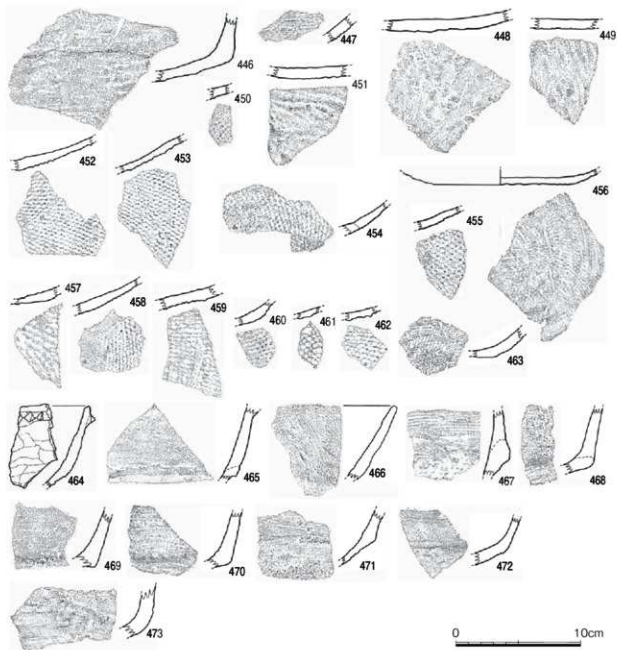
第29图 出土土器実測図⑬ (S=1/3)



第30图 出土土器实测图⑭ (S=1/3)

いてはナデ調整により不明瞭で種類までは判別できない。465も同様に刻目突帯をもつものと思われ、段下にはナデ調整が行われている。466もナデ調整により段下の組織痕は不明瞭である。467は粘土紐積み上げの接合痕が残る。段下に組織痕が残るも、不鮮明である。468～473は外面に炭化物が付着する。いずれもナデ調整により組織痕の種類までは観察できない。

474は黒色磨研で、口縁部はやや内傾し、口唇部は外側へ張り出して段を作る。復元口径18.0cmを測る。475は大きく開く胴部から直立口縁部をもち、外面に凹線3条を引く。476は胴の張る精製品である。口縁部は波状となる可能性もある。477は波状口縁の資料である。内外面ともに研磨され、外面には2条の沈線が引かれる。478～481は屈曲部から外反して立ち上がる口縁部の資料である。481は器面の状態が良くないが、他は研磨調整が施される。482は扁球状の胴部になるものと考え。口



第31図 出土土器実測図⑯ (S=1/3)

縁部は玉縁状となることなく直立する。484は波状口縁の頂部で、外面に段をもつ。485は内外面ともに丁寧に研磨調整が施されており、屈曲して口縁部に至ると考えられるが、粘土組織み上げの接合部分で剥離欠損している。屈曲部には段を作る。486・487は胴屈曲の資料でどちらも研磨調整が施されている。486は屈曲部で段を作る。488は黒色磨研の胴部の資料である。489は肩部の資料で口縁部へは大きく開くものと思われる。

490・491・492は赤色顔料の観察される資料である。490は線刻を境界として赤色顔料を塗り分ける。491・492は屈曲部より上位に赤色顔料を塗布する。493の外面屈曲部より下位と内面には擦過調整が施される。494は隆起部分と沈線部分を作って文様とする。よく研磨調整がなされている。495は屈曲部直下に焼成後の穿孔を行っている資料である。外面には未貫通の穿孔が接する。

496～518は精製浅鉢の底部資料である。498の外面には縦方向の研磨調整が確認できる。504の底面は粘土の掻き取りにより上げ底となり、研磨調整が施されている。506の外面底部付近には赤色顔料の塗布が認められる。復元底径は、496が10.4cm、497が11.0cm、498が5.6cm、499が7.8cm、500が8.2cm、501が7.7cmである。また、502が7.0cm、503が8.3cm、504が10.3cm、505が7.9cm、506が9.8cm、507が6.7cmである。

508～514は丸底の器面に粘土紐を円形に貼りつけて高台状の底部にしている。復元底径は、508が8.9cm、509が9.0cm、510が6.8cm、511が5.0cmである。また、512が6.8cm、513が7.4cm、514が6.4cmである。

517は丸底気味の平底で、復元底径は5.8cmである。518は脚台状の底部で、復元底径は4.5cmである。

519～601は壺の資料である。

519～536は頸部から口縁部にかけての資料である。いずれも口縁部は外反するが、519や531のように外面に段をもつもの、535のように肥厚部をもつものもある。519・520、530、531の頸部には横方向の研磨調整が観察される。また、523、527、531の頸部には縦方向の研磨調整が施される。復元口径は519が17.1cm、520が16.4cm、521が13.4cm、522が9.7cm、523が9.6cm、524が13.3cmである。525が11.0cm、526が10.8cm、527が10.8cm、528が8.2cm、529が9.5cm、530が8.3cmである。531が9.1cm、532が8.1cm、533が8.5cm、534が8.0cm、535が7.4cmである。

537は底部から頸部までの資料で、平底から境界を設けず胴部に移行し、なで肩の肩部をもち、明確な境界を作らずに頸部が立ち上がる。胴部最大径が18.2cm、底部径が8.0cmである。538は胴部から頸部にかけての資料である。丸い胴部・肩部から外面は境界を作らずに頸部が立ち上がるが、内面では稜をつくる。内外面ともに横方向の研磨調整が施される。復元胴部最大径は20.7cmである。539は肩部から頸部にかけての資料である。内外面ともに肩部と頸部の境界が明瞭である。540は肩部から頸部にかけての資料である。極端ななで肩で、肩部と頸部の境界に圏線を入れる。541は胴部・肩部の資料で、丸みを帯びた器形である。復元胴部最大径は15.5cmを測る。542は大型の壺の底部と判断した。底面部分まで丹塗りが施される。復元底径は12.2cmを測る。543は丸底気味の平底と思われる。復元底径は6.0cmである。544は張り出しをもつ底部である。内面は剥落により欠損している。復元底径は8.8cmを測る。

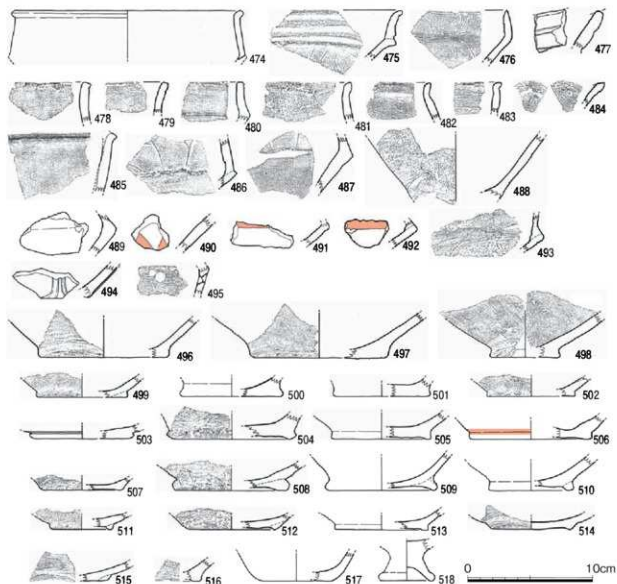
545～576は口縁部の破片資料である。いずれも外反するが、553、555、560、562、570、571は外面

で段を作る。また、547、549、551、553、557、563・564、566、571には丹塗りは行われておらず、うち547、549、553、563は黒色磨研である。

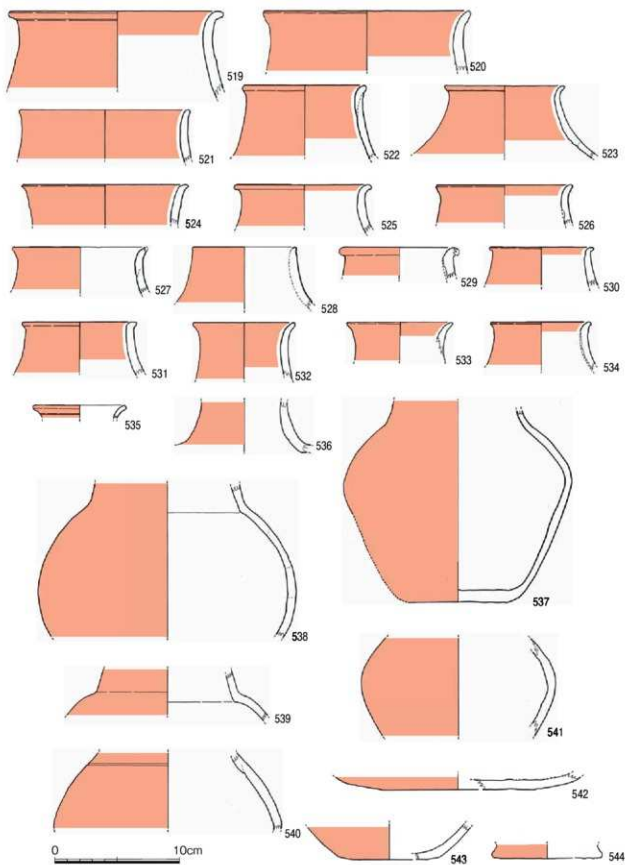
577・578は頸部の資料、579～590は肩部から頸部にかけての資料である。577は丹塗りをせず、外面の肩部と頸部の境界に沈線を引く。578は肩部と頸部の境界に段を設ける。582、583、585は丹塗りを行わない。581、585、589には肩部と頸部との境界に圏線が入る。

591～598は胴部の資料である。591は丹塗りがなされていない。592は比較的大型品の胴部で、外面には大きく黒斑が入る。593、596には外面に炭化物の付着がある。594は外面に貝殻条痕調整を残し、その上に丹塗りが行われている。595には外面に黒斑が認められる。598は底部近くの資料と考えられ、途中で器壁の厚さが変わる。

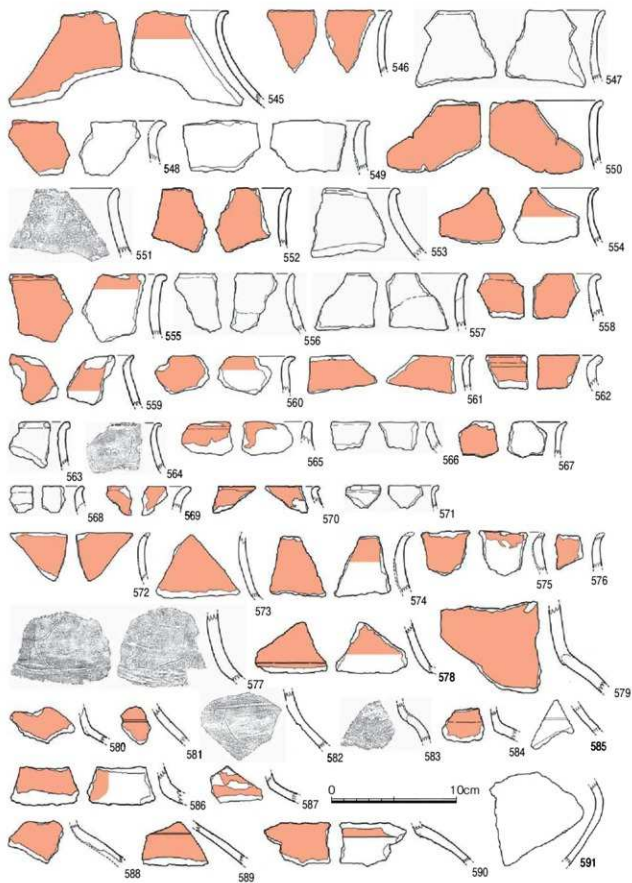
599・600・601は底部の資料である。599は円盤貼り付け底で、底面に明瞭ではないが組織痕らしき痕跡が一部に残る。600も円盤貼り付け底で、底部外面の直上に突帯をめぐらす。601は底部から張り出すことなく胴部へと立ち上がる。



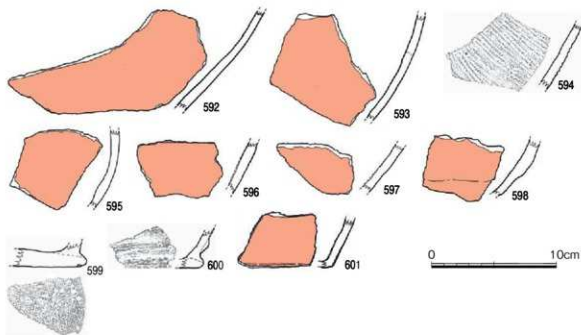
第32図 出土土器実測図⑩ (S=1/3)



第33图 出土土器实测图⑰ (S=1/3)



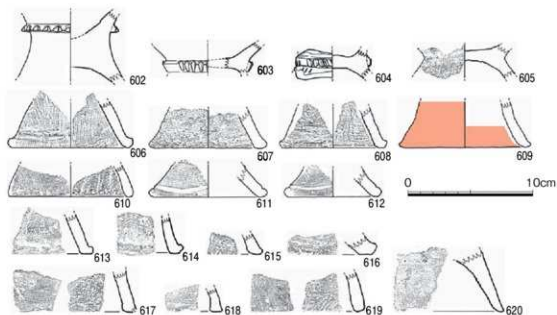
第34图 出土土器实测图⑩ (S=1/3)



第35図 出土土器実測図⑱ (S=1/3)

602～620は、高坏もしくはその他土器の脚台部と思われるものを一括した。

602は高坏の資料で、くびれ部のやや上位に突帯をめぐらし、指先による刻目を施す。603・604はヘラ状工具による刻目が入る。606～620は脚台部の資料である。606、608、613、614、616の端部は外面に張り出しをもつ。611・612は外面端部に沈線をめぐらす。610は外面に赤色顔料の塗布が行われる。復元底径は、606が10.0cm。607が9.4cm、608が8.5cm、609が10.4cmである。また、610が9.8cm、611が9.4cm、612が7.7cmである。



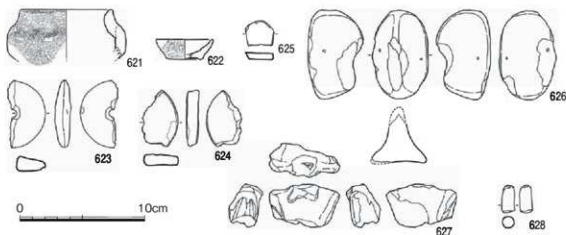
第36図 出土土器実測図㉔ (S=1/3)

621～628は土製品の類である。

621・622はミニチュア土器である。621は復元口径7.2cm、復元胴部最大径9.4cmで口縁部は胴部からすぼまる形状をなす。622は皿形をなし、高台状の底部である。復元口径4.5cm、復元底径は3.0cmである。

623は紡錘車である。中央部分が厚い形状で、器面はよく研磨されている。復元径は5.4cmで、軸穴が中央に通る。624は紡錘車の可能性が高いと考えるが、軸穴がやや中心から外れている。扁平な形状で、器面は研磨されている。

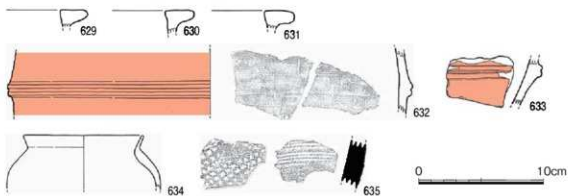
625～628は不明土製品である。625は精製土器片の割れ口に研磨が観察され、再加工品であることがわかる。626は長さ7.1cm、幅4.5cmを測る土製品で、非常に細い焼成前の穿孔が2か所に貫通する。器面は全体によく研磨されている。627は大きく下部を欠損しており、上部にも何らかの突起物がついていたものと考えられる。全体の形状はわからないが、左右対称のつくりとなっており、土偶の可能性も考えられる。628は直径0.9cmの円柱状の製品である。下部は欠損している。



第37図 出土土器実測図② (S=1/3)

4群 弥生時代中期～古墳時代の土器

629～631は弥生時代中期前半の甕口縁部である。いずれも外側への張り出しをもつ。632・633は丹塗り壺の胴部の資料である。どちらも2条の突帯をめぐらす。632の突帯部分での復元径は32.2cmである。634は古墳時代の土師質土器の小壺である。丸みを帯びた胴部に短い口縁部が立ち上がる。復元口径9.6cm、復元胴部最大径12.2cmを測る。635は須恵器片である。内外面に叩きと当て具の痕跡を残す。

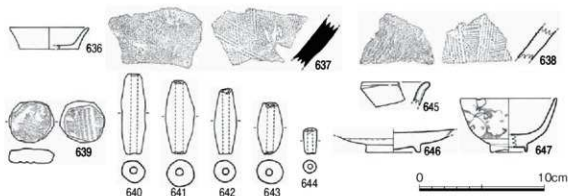


第38図 出土土器実測図② (S=1/3)

5群 中・近世の土器・陶磁器

636～647は中・近世の土器・陶磁器類である。

636は土師皿で、底面に回転糸切りの痕跡が認められる。復元口径6.3cm、復元底径4.7cmである。637は須恵質の播鉢である。638は瓦質の播鉢である。7本単位のケシ目が入る。639は瓦質の播鉢片を再加工して円形に整えた円盤状土製品である。640～644は土錘である。646は輸入青磁碗の外反する口縁部である。646は唐津焼の皿である。高台付近は露胎である。復元底径4.4cmを測る。647は肥前磁器の小碗である。復元口径7.6cm、復元底径2.8cmを測る。



第39図 出土土器・陶磁器実測図 (S=1/3)

第1表 出土土器観察表①

目	番号	取上番号	器種	グツノ	属性	文様・彫刻		色調		胎土	備考
						片側	内側	片側	内側		
17	1	SNT-0176	深鉢	S7	Ba	山形押型文	十字	褐色顔色	褐色顔色	焼附石・灰白・石灰	
	2	-	深鉢	AG7	V	指形押型文	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
3	-	深鉢 or 鉢	K21	Bc	横文・波線・環線	環線	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子		
	4	-	深鉢	F29	E	環線	環線	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	
5	SNT-05103	深鉢	Q30	Bb	環線	環線	褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰		
	6	SNT-05105	深鉢	F30	Bb	環線	環線	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
7	SNT-05709	深鉢	T27	Bb	波線/十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子		
	8	-	深鉢	W26	Bc	片側/十字	十字	褐色顔色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	
9	SNT-06947	深鉢	T21	Bb	十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰		
	10	SNT-06128	深鉢	V25	Bb	波線・環線	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
11	SNT-06071	深鉢	J10	Bb	波線・環線・十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰		
	12	SNT-01730	深鉢	S9	Ba	環線	十字	褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
13	SNT-02947	深鉢	F12	Ba	十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・石灰		
	14	SNT-02770	深鉢	T25	Ba	環線	十字	褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰	
15	SNT-06003	深鉢	Z1	Bb	環線	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰		
	16	SNT-0132	深鉢	F30	Ba	波線・環線・十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白	
17	SNT-05133	深鉢	F30	Bb	十字	十字	褐色顔色	褐色	焼附石・灰白・石灰		
	18	SNT-0121	深鉢	N11	Ba	十字	十字	褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
19	SNT-06913	深鉢	S28	Bb	十字	十字	紅褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰		
	20	SNT-06915	深鉢	L23	Bb	環線	十字	褐色顔色	褐色顔色	焼附石・灰白・石灰	
21	SNT-0640	深鉢	K21	Bb	十字	十字	紅褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰		
	22	SNT-0527 SNT-0730	深鉢	M2 M2	Bb Bb	環線	十字	褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
23	SNT-0270	深鉢	A21	Bb	十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白		
	24	SNT-0136	深鉢	J12	Ba	波線・環線・十字	環線	褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰	
25	SNT-0189	深鉢	S28	Ba	波線・環線・十字	波線・環線・十字	紅褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子		
	26	SNT-0592	深鉢	L30	Bb	環線・十字	十字	ナリフ環文	紅褐色・褐色	焼附石・灰白・石灰	
27	SNT-02647	深鉢	A21	Bb	十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白		
	28	SNT-0121	深鉢	O11	Ba	波線・環線・十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・白色粒子	
29	SNT-0262	深鉢	Z1	Bb	波線・環線・十字	十字	褐色顔色・褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰		
	30	SNT-01008	深鉢	Q30	Ba	十字	十字	紅褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰	
31	SNT-06138	深鉢	Z21	Bb	十字	十字・波線	褐色顔色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰		
	32	SNT-06926	深鉢	S29	Bb	十字	十字	褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰	
33	SNT-0736	深鉢	F19	Bb	十字	十字	褐色	紅褐色	焼附石・石灰		
	34	SNT-0511	深鉢	M2	Bb	十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・石灰	
35	SNT-06729	深鉢	T28	Bb	波線・環線・十字	波線・環線・十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰		
	36	SNT-0741	深鉢	F21	Bb	十字	十字	紅褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰	
37	SNT-0440	深鉢	U5	Bb	波線/十字	十字	褐色	褐色	焼附石		
	38	-	深鉢	5766666	焼瓦	波線・波線・環線	十字	褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰・白色粒子	
39	SNT-07075 SNT-07081	深鉢	Z1 Z1	Bb Bb	波線・環線	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・赤色粒子		
	40	SNT-0754	深鉢	E20	Bb	十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
41	SNT-0692 SNT-0693	深鉢	E20 E20	Bb Bb	環線	十字	褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰		
	42	SNT-0632	深鉢	G28	Bb	波線・環線	十字	褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰	
43	-	深鉢	5766666	焼瓦	波線・環線・十字	十字	褐色	褐色	焼附石・石灰		
	44	SNT-0698	深鉢	E29	Bb	環線	十字	褐色	紅褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	
45	SNT-0206 SNT-0207 SNT-0208	甕	Z1 Z1 Z1	Bb Bb Bb	横目(筋)/十字・波線・環線	十字・波線・環線・十字	赤色・紅褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰・白色粒子	片丸焼成試料之	

第2表 出土土器観察表②

品目	取上番号	種類	グツク	属性	文様・図様		色調		胎土	備考
					外周	内周	外周	内周		
46	SU1-0405	甕	Z21	Ⅱb	縦目(筋)/貝殻糸織	十字	暗褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰・塗母	
	SU1-0666									
47	SU1-0192		K3	Ⅱa						
	SU1-0623		K3	Ⅱb						
	SU1-0624		K3	Ⅱb						
	SU1-0625		K3	Ⅱb						
	SU1-0626	甕	K3	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	暗褐色	黒褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	年代測定記録①
	SU1-0628		K3	Ⅱb						
	SU1-0631		K3	Ⅱb						
	SU1-0682		K3	Ⅱb						
48	SU1-0725		L1	Ⅱa						
	SU1-0726	甕	L1	Ⅱa	縦目(筋)/十字	十字	暗褐色	黒褐色・暗褐色	焼附石・石灰	
	SU1-0987		L3	Ⅱb						
49	SU1-0724	甕	L1	Ⅱb	縦目(筋)/十字	縦溝+十字	紅褐色・暗褐色・黒褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	年代測定記録④
	SU1-0724									
50	-	甕	S2	Ⅱc	縦目(筋)/貝殻糸織+十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	
	SU1-0686	甕	L1	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
51	SU1-0742	甕	L1	Ⅱb	縦目(筋)/貝殻糸織+十字	十字	紅褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
	SU1-0747		L1	Ⅱb						
52	SU1-0729	甕	M2	Ⅱa	縦目(筋)/十字	十字	淡黄褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
	SU1-0569		M2	Ⅱb						
53	SU1-0621	甕	K3	Ⅱb	縦目(筋)/十字	縦溝+十字	黒色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
	SU1-0716		K3	Ⅱb						
54	SU1-0523	甕	L3	Ⅱb	縦目(筋)/縦溝	縦溝+十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
55	SU1-0806	甕	K21	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
56	SU1-0806	甕	K21	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
57	SU1-0809	甕	Z22	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
58	SU1-0725	甕	W26	Ⅱb	縦目(筋)/十字	貝殻糸織+十字	紅褐色・灰色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
59	SU1-0582	甕	A42	Ⅱb	縦目(筋)/十字	貝殻糸織+十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰・白色粒子	
60	SU1-0965	甕	M2	Ⅱa	縦目(筋)/十字	十字	暗褐色	灰色	焼附石・灰石・石灰	
61	SU1-0298	甕	S2	Ⅱa	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・石灰	
62	SU1-0424	甕	W31	Ⅱb	縦目(筋)/貝殻糸織+十字	十字	暗褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
63	SU1-0229	甕	U25	Ⅱa	縦目(筋)/十字	十字	淡黄褐色	淡黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
64	SU1-0425	甕	W31	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	淡黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
65	SU1-0627	甕	T28	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字・縦溝	暗褐色	紅褐色	焼附石・灰石	
66	SU1-0401	甕	V25	Ⅱb	縦目(筋)/縦溝+十字	十字	紅褐色	淡黄褐色	焼附石・灰石・石灰	黒染あり
67	SU1-0780	甕	AR22	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	紅褐色・暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
68	SU1-0420	甕	V21	Ⅱb	縦目(筋)/十字・縦溝	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
69	SU1-0781	甕	K30	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
70	-	甕	T28	Ⅱ	縦目(筋)/十字・縦溝	十字	暗褐色	淡黄褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	
71	SU1-0961	甕	L1	Ⅱb	縦目(筋)/十字	縦溝	紅褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
72	-	甕	5貝殻糸織	Ⅱa	縦目(筋)/十字	貝殻糸織+十字・十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
73	SU1-0622	甕	K3	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
74	-	甕	5貝殻糸織	Ⅱa	縦目(筋)/十字・貝殻糸織	十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
75	SU1-0790	甕	O9	Ⅱb	縦目(筋)/貝殻糸織+十字	貝殻糸織+十字	淡黄褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
76	SU1-0407	甕	V25	Ⅱb	縦目(筋)/十字	十字	紅褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	
77	SU1-0673	甕	Z21	Ⅱb	縦目(筋)/十字・貝殻糸織	貝殻糸織+十字	紅褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
78	SU1-0193	甕	K32	Ⅱa	縦目(筋)/貝殻糸織	十字	暗褐色	紅褐色	焼附石・灰石・石灰	
79	SU1-0623	甕	T27	Ⅱb	縦目(筋)/十字	縦溝+十字	紅褐色	淡黄褐色	焼附石・灰石・石灰	

第3表 出土土器観察表③

目録番号	取上番号	種類	グツク	属性	文様・図様		色調		出土	備考
					外周	内周	外周	内周		
80	SU-0580	甕	K30	B	無文様 / 貝殻文様	貝殻文様・十字	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
81	SU-0587	甕	L31	B	無文様 / 貝殻文様	十字	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
82	-	甕	1尺以上	石製	無文様 / 貝殻文様	十字	こみ・褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰・黒母	
83	SU-0595	甕	U30	B	無文様 / 無文様	十字	こみ・褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
84	SU-0598	甕	O30	B	無文様 / 貝殻文様	十字・貝殻文様・十字	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
85	SU-0606	甕	T27	B	無文様 / 十字	無文様・十字	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰・赤色灰子	
86	SU-0607	甕	K30	B	無文様 / 十字	十字	褐色・こみ・黄褐色	こみ・褐色	焼陶器・灰白・石灰	
87	SU-0605	甕	T29	B	無文様 / 無文様	十字	褐色	黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
88	SU-0610	甕	Z1	B	無文様 / 貝殻文様・十字	無文様	黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
89	SU-0607	甕	K30	B	無文様 / 十字	十字	褐色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
90	SU-0579	甕	K30	B	無文様 / 十字・貝殻文様・十字	貝殻文様・十字	こみ・黄褐色・褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
91	SU-0626	甕	J30	B	無文様 / 十字・貝殻文様・十字	貝殻文様・十字	こみ・褐色	褐色	灰石・石灰	
92	SU-0632	甕	K30	B	無文様 / 十字	貝殻文様・十字	こみ・黄褐色・灰白色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
93	SU-0420	甕	V25	B	無文様 / 十字	十字・貝殻文様	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
94	SU-0385	甕	Z22	B	無文様 / 十字	無文様	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
95	SU-0389	甕	A42	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
96	SU-0390	甕	U30	B	無文様 / 十字	無文様	褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
97	SU-0606	甕	Z21	B	無文様 / 貝殻文様・十字	無文様	褐色・灰色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
98	-	-	-	-	無文様 / 十字	十字	浅黄色	同黄色・褐色	焼陶器・灰白・石灰	
99	SU-0367	甕	Q30	B	無文様 / 十字	十字	浅黄色	こみ・褐色・灰色	焼陶器・灰白・石灰	
100	SU-0287	甕	Z22	B	無文様 / 十字・貝殻文様・十字	無文様	こみ・黄褐色	黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
101	SU-0323	甕	ME	B	無文様 / 十字・貝殻文様・十字	無文様・十字	褐色・褐色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色・褐色・褐色	焼陶器・灰白・石灰	
102	SU-0532	甕	J30	B	無文様 / 十字	十字	褐色・褐色	褐色・褐色	焼陶器・灰白・石灰	
103	SU-0272	甕	X20	B	無文様 / 十字	無文様・十字	こみ・黄褐色	同黄色	焼陶器・灰白・石灰	
104	SU-0258	甕	X30	B	無文様 / 十字	無文様	こみ・黄褐色・褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
105	SU-0380	甕	Z22	B	無文様 / 十字	無文様	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
106	SU-0330	甕	Q2	B	無文様 / 十字	貝殻文様	褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
108	SU-0302	甕	Z21	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
107	SU-0459	甕	Z21	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	同黄色	焼陶器・灰白・石灰	
108	SU-0363	甕	R29	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
109	SU-0324	甕	Q2	B	無文様 / 十字	十字	褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
110	-	甕	-	-	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
111	SU-0383	甕	ME	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・石灰	
112	SU-0358	甕	Q30	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
113	SU-0354	甕	A32	B	無文様 / 十字	無文様	こみ・黄褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
114	SU-0285	甕	A42	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	焼土穿孔
115	SU-0384	甕	Z22	B	無文様 / 十字	十字	褐色	こみ・褐色	焼陶器・灰白・石灰	
116	SU-0236	甕	X30	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
117	SU-0326	甕	Q2	B	無文様 / 十字	無文様	褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
118	SU-0335	甕	K30	B	無文様 / 十字・貝殻文様・十字	十字	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
119	SU-0237	甕	V28	B	無文様 / 十字	十字	こみ・黄褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
120	SU-0459	甕	U35	B	無文様 / 十字	十字	褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
121	SU-0430	甕	V25	B	無文様 / 十字	貝殻文様・十字	浅黄色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
122	SU-0568	甕	K30	B	無文様 / 十字	十字	こみ・褐色	こみ・褐色	灰石・石灰	
123	SU-0300	甕	M2	B	無文様 / 十字	十字	こみ・褐色	同黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
124	-	甕	-	-	無文様 / 貝殻文様・十字	十字	褐色	褐色・こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰	
125	SU-0398	甕	ME	B	無文様 / 十字	十字	褐色	こみ・黄褐色	焼陶器・灰白・石灰・黒母	
126	SU-0296	甕	R29	B	無文様 / 十字	十字	褐色	褐色	焼陶器・灰白・石灰	
	SU-0301	甕	R29	B	無文様 / 十字	十字				

第4表 出土土器観察表④

目録番号	取上番号	種類	グロウ	属性	文様・図様		色調		土質	備考	
					外周	内周	外周	内周			
120	127	SU-0635	壺	K3L	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	128	SU-0597	壺	S9	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	129	SU-0525	壺	Q3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	年代測定資料6
	130	SU-0610	壺	K3E	B	無文	無文	褐色	褐色	灰石・石灰	
	131	SU-0543	壺	M3	B	無文	無文	褐色	褐色	灰石・石灰	
	132	SU-0596	壺	U57	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	133	SU-0578	壺	T3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	134	-	壺	Q3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	135	-	壺	S9	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	年代測定資料6
	136	SU-0694	壺	Z1	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	137	SU-0445	壺	Z1	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	138	SU-0584	壺	Q3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	139	SU-0436	壺	Y2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
SU-0414		壺	Y2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
SU-0416		壺	Y2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
SU-0415		壺	Y2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
SU-0595		壺	Z1	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
141	SU-0573	壺	K3L	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
142	SU-0529	壺	Q3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
143	SU-0587	壺	F2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
144	SU-0583	壺	Z2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
145	SU-0581	壺	Z2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
146	-	壺	S9	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
147	SU-0585	壺	Y2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
148	SU-0523	壺	N3L	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
149	SU-0526	壺	E3	B	無文	無文	褐色	褐色	灰石・石灰		
150	SU-0585	壺	Z2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
151	SU-0589	壺	M3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	年代測定資料6	
152	SU-0588	壺	S9	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
153	SU-0572	壺	A4E	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
154	SU-0573	壺	T3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	年代測定資料6	
155	-	壺	S9	B	無文	無文	褐色	褐色	灰石・石灰		
156	SU-0584	壺	M2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
157	SU-0586	壺	M2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
158	SU-0469	壺	T57	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
159	SU-0430	壺	W31	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・灰母		
160	SU-0584	壺	K3L	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
161	SU-0587	壺	Y2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色灰土		
162	SU-0602	壺	Q3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
163	SU-0694	壺	T3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
164	SU-0570	壺	T3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
165	SU-0507	壺	L32	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
166	SU-0557	壺	Z2	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
167	SU-0640	壺	Q3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
168	SU-0585	壺	S3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
169	SU-0423	壺	S3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
170	SU-0523	壺	E3	B	無文	無文	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
171	SU-0596	壺	Z2	B	無文	無文	褐色	褐色	灰石・石灰・灰母	年代測定資料6	
		SU-0587	Z2	B	無文	無文	褐色	褐色	灰石・石灰・灰母		

第5表 出土土器観察表⑤

目録番号	取上番号	種類	グロフ	属性	文様・図様		色類		土質	備考	
					外周	内周	外周	内周			
13	172	SU1-0303	甕	F21	Ba	無目(ハナ) / ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	173	SU1-0629	甕	Z21	Ba	無目(ハナ) / 段縁部・ナテ	ナテ	浅黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	174	SU1-0333	甕	F22	Ba	無目(ハナ) / ナテ・溝縁	ナテ	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	175	-	5口陶甕	甕	無目	無目(ハナ) / 溝縁	ナテ	浅黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	年代測定済み
	176	SU1-0699	甕	Z21	Ba	無目(ハナ) / ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・遺母	
	177	SU1-0592	甕	U27	Ba	無目(溝) / ナテ	溝縁・ナテ	こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・遺母	
	178	SU1-0444	甕	U25	Ba	無目(溝縁部) / 溝縁・ナテ	ナテ・溝縁	褐色	浅黄褐色・褐色	焼附石・灰石・石灰・遺母	
	179	SU1-0247	甕	A42	Ba	無目(溝縁部) / ナテ	ナテ	褐色・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	180	SU1-0380	甕	Q20	Ba	無目(溝) / ナテ・段縁部	ナテ	浅黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	181	SU1-0649	甕	K22	Ba	無目(溝) / ナテ	ナテ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	182	SU1-0246	甕	K20	Ba	無目(溝)	ナテ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	14	SU1-0302		F20	Ba						
		SU1-0308		F20	Ba						
		SU1-0311		F20	Ba						
		SU1-0506	甕	F20	Ba	無目	ナテ	黄褐色・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
		SU1-0600		F20	Ba						
		SU1-0603		F20	Ba						
SU1-0682			F20	Ba							
184	SU1-0490 SU1-0492	甕	Y23	Ba	段縁部	ナテ	こみ・褐色・褐色黄褐色	黄黄褐色・黄褐色	焼附石・灰石・石灰・遺母・白色粒子		
15	185	SU1-0646	深鉢・甕	S21	Ba	段縁	段縁	こみ・黄褐色	黄褐色・こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰・遺母	底面：ナテ
	186	SU1-0403	深鉢・甕	Y23	Ba	ナテ	段縁	黄褐色	灰色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
	187	SU1-0728	深鉢・甕	F22	Ba	段縁	ナテ	こみ・黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	188	SU1-0284	深鉢・甕	U26	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	189	SU1-0636	深鉢・甕	Z21	Ba	ナテ	ナテ	黄褐色・こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	底面：ナテ
	190	SU1-0490 SU1-0492	深鉢・甕	S27 S27	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：縦溝(蓋目)
	191	SU1-0477	深鉢・甕	K20	Ba	ナテ	ナテ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	192	SU1-0315	深鉢・甕	K20	Ba	ナテ	段縁	褐色	褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：段縁
	193	SU1-0682	深鉢・甕	K20	Ba	段縁	段縁	黄褐色	こみ・黄褐色	灰石・石灰	底面：縦溝
	194	SU1-0386	深鉢・甕	F20	Ba	ナテ	ナテ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	底面：ナテ
	195	SU1-0683	深鉢・甕	U26	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
	196	SU1-0471	深鉢・甕	S27	Ba	ナテ	ナテ	黄黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰・遺母・赤色粒子	底面：ナテ
	197	SU1-0629 SU1-0705	深鉢・甕	K22 L22	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
	198	SU1-0628	深鉢・甕	T28	Ba	段縁部	ナテ	こみ・黄褐色	黄黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：溝縁
	199	SU1-0286	深鉢・甕	V28	Ba	ナテ	ナテ	褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
	200	SU1-0309 SU1-0335	深鉢・甕	F20 F20	Ba	ナテ	ナテ	褐色	褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	201	SU1-0329	深鉢・甕	A022	Ba	段縁部	ナテ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	202	SU1-0329	深鉢・甕	K22	Ba	ナテ	ナテ	黄黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
	203	SU1-0494 SU1-0524	深鉢・甕	R28 Q28	Ba	ナテ	ナテ	褐色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：縦溝(蓋目)
	204	SU1-0271	深鉢・甕	A42	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
205	SU1-0363	深鉢・甕	L21	Ba	段縁	ナテ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
206	SU1-0247	深鉢・甕	N24	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：溝縁	
207	SU1-0471	深鉢・甕	S27	Ba	ナテ	段縁	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
208	SU1-0626	深鉢・甕	M2	Ba	ナテ	ナテ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ	
209	SU1-0384	深鉢・甕	L23	Ba	ナテ	ナテ	浅黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：溝縁	
210	SU1-0373	深鉢・甕	K20	Ba	ナテ	ナテ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ	

第6表 出土土器観察表⑥

器名	取上番号	種類	グロフ	属性	文様・図様		色調		胎土	備考
					外周	内周	外周	内周		
211	SN1-0538	深鉢・甕	M2	B3	ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・赤色灰子	底面：ナテ
212	SN1-0490	深鉢・甕	S2	B3	ナテ	ナテ	じいみ-褐色	褐色	焼附石・灰石	
213	SN1-0435	深鉢・甕	T2	B3	ナテ	ナテ	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
214	SN1-0702	深鉢・甕	T2B	B3	ナテ	ナテ	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
215	SN1-0529	深鉢・甕	Q30	B3	ナテ	ナテ	浅黄色	浅黄色	灰石・石灰	底面：ナテ
216	SN1-0312	深鉢・甕	T23	B3	瓦器系類	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：縦線溝
217	SN1-0678	深鉢・甕	K3	B3	ナテ	縦溝	褐色	灰褐色	焼附石・灰石・石灰・炭母	底面：横溝
218	SN1-0397 SN1-0565	深鉢・甕	L32 L32	B3 B3	ナテ	ナテ	じいみ-褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
219	-	深鉢・甕	5区横溝底	横溝	ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：横溝
220	SN1-0615	深鉢・甕	K3	B3	ナテ	ナテ	褐色	浅黄色	焼附石・灰石・石灰	
221	SN1-0709	深鉢・甕	P31	B3	ナテ	ナテ	暗褐色	暗褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
222	SN1-0840	深鉢・甕	K31	B3	ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
223	SN1-0516	深鉢・甕	Q30	B3	ナテ	ナテ	褐色	じいみ-褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：横溝
224	SN1-0760	深鉢・甕	U27	B3	瓦器系類・ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面に刺突
225	SN1-0549	深鉢・甕	T2B	B3	ナテ	ナテ	じいみ-褐色	じいみ-黄褐色	石灰	底面：ナテ
226	SN1-0738	深鉢・甕	M3	B3	ナテ	ナテ	黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
227	SN1-0312	深鉢・甕	P22	B3	ナテ	ナテ	褐色	じいみ-褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
228	SN1-0280	深鉢・甕	V25	B3	ナテ	ナテ	じいみ-褐色	明褐色・じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナテ
229	SN1-0421	鉢	Z21	B3	ナテ	ナテ	暗灰褐色	暗灰色	焼附石・灰石・石灰・炭母	縦溝あり
230	SN1-0975	鉢	L31	B3	ナテ	ナテ	浅黄褐色	灰褐色	焼附石・灰石・石灰・炭母	
231	SN1-0743	鉢	T21	B3	ナテ	縦溝	浅黄色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
232	SN1-0613	鉢	J22	B3	ナテ	ナテ	黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
233	SN1-0369	鉢	Z21	B3	縦溝	ナテ	褐色・黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
234	SN1-0672	鉢	Z21	B3	縦溝	ナテ	明褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰・炭母	
235	SN1-0197 SN1-0674	鉢	K3 L31	B3 B3	横目(ハタ) / ナテ・横溝	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・炭母	年代測定済み
236	SN1-0245	鉢	V21	B3	横目(横) / ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
237	SN1-0653	鉢	H21	B3	横目(横) / ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
238	SN1-0201	鉢	J32	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	明黄褐色・じいみ-褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・石灰	
239	SN1-0309	鉢	Q20	B3	横目(ハタ) / ナテ	縦溝・ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
240	SN1-0612	鉢	V21	B3	横目(ハタ) / ナテ・貝殻系類	ナテ	明褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
241	SN1-0407	鉢	S21	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	黄褐色	灰黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
242	SN1-0209	鉢	V21	B3	横目(ハタ) / ナテ・横溝	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
243	SN1-0467	鉢	P21	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	灰色・じいみ-黄褐色	暗灰褐色	焼附石・灰石・石灰	
244	SN1-0773	鉢	L32	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	明黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
245	SN1-0618	鉢	K30	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	じいみ-褐色	じいみ-褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色灰子	
246	SN1-0631	鉢	L31	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	灰褐色	焼附石・灰石・石灰	粘土線刻
247	SN1-0447	鉢	T2	B3	縦目(横) / ナテ	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
248	SN1-0438	鉢	G21	B3	横目(横) / ナテ	ナテ	黄褐色・黄褐色	じいみ-褐色・暗灰褐色	焼附石・灰石・石灰・白色灰子	
249	SN1-0392	鉢	T2	B3	横目(横) / ナテ	ナテ	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
250	SN1-0425	鉢	T21	B3	横目(横) / 瓦器系類	ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
251	SN1-0200	鉢	K3	B3	横目(ハタ) / 瓦器系類	ナテ	じいみ-黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
252	SN1-0518	鉢	N3	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	褐色	灰褐色	焼附石・石灰	年代測定済み
253	SN1-0532	鉢	P21	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	褐色・黄褐色	じいみ-褐色・灰褐色	焼附石・灰石・石灰	
254	SN1-0324	鉢	A42	B3	横目(ハタ) / ナテ	瓦器系類・ナテ	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	石灰	
255	SN1-0637	鉢	L31	B3	横目(ハタ) / 縦溝	瓦器系類・ナテ・縦溝	じいみ-褐色	暗灰色	灰石・石灰	
256	SN1-0242	鉢	M2	B3	横目(ハタ) / ナテ	ナテ	じいみ-褐色	暗灰褐色	焼附石・灰石・石灰	赤色線刻
257	SN1-0423	浅鉢	X21	B3	縦溝	縦溝	じいみ-黄褐色	じいみ-黄褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色灰子	
258	SN1-0215	浅鉢	W31	B3	縦溝	縦溝	浅黄色	じいみ-褐色	焼附石・灰石	

第7表 出土土器観察表⑦

目	番号	取上番号	器種	グリップ	属性	文様・彫刻		色調		胎土	備考	
						外周	内周	外周	内周			
5	259	SU-0961	浅鉢	L2	B	顔付(横)/ナデ	ナデ	褐色色	褐色色	焼附石・灰石・石灰		
	260	SU-0929	浅鉢	K3	B	顔付(ハナ)/ナデ	ナデ	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰		
	261	SU-0649	浅鉢	V25	B	顔付(横)/ナデ	ナデ	褐色色	こみい栗褐色・褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
	262	SU-0207	浅鉢	S2	B	顔付(ハナ)/縁部	縁部	褐色色	褐色色	焼附石・灰石・石灰		
	263	SU-0569	浅鉢	S2	B	顔付(ハナ)/縁部	縁部	こみい栗褐色・黒褐色	こみい褐色・褐色色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子		
	264	SU-0303	浅鉢	T8	B	顔付(ハナ)/ナデ	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・雲母		
	265	SU-0328	浅鉢	T9	B	顔付(横)/ナデ	ナデ	こみい栗褐色	褐色色	焼附石・灰石・石灰		
	266	SU-0226	浅鉢	P20	B	顔付(横)/ナデ	ナデ	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石		
	267	SU-0691	浅鉢	K2	B	顔付(ハナ)/ナデ	ナデ	黒褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰		
	268	SU-0629	浅鉢	L3	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・雲母		
	269	SU-0960	浅鉢	K3	B	縁部	縁部、ナデ	褐色色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰		
	270	SU-0625	浅鉢	K3	B	縁部	縁部	褐色色・褐色黄褐色	褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
	271	SU-0325	浅鉢	O2	B	縁部	縁部	褐色黄褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・雲母		
	272	SU-0525	浅鉢	X3	B	縁部	縁部	灰黄色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰		
	273	SU-0371	浅鉢	L3	B	ナデ	ナデ	こみい褐色	褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰・雲母		
	274	SU-0375	浅鉢	M2	B	縁部	縁部	黒褐色	灰黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
	275	-	-	-	重土	縁部	縁部	赤褐色・こみい栗褐色	赤褐色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料	
	276	SU-0628	浅鉢	J2	B	縁部	縁部	褐色黄褐色	赤褐色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料	
	277	SU-0862	浅鉢	K3	B	縁部	縁部	赤褐色	赤褐色	灰石・石灰	赤色顔料	
	278	SU-0543 SU-0584	浅鉢	M2	B	縁部	縁部	褐色黄褐色	褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料	
	279	SU-0323	浅鉢	P21	B	縁部	縁部	褐色黄褐色	赤褐色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料	
	280	SU-0532	浅鉢	K2	B	不明	不明	こみい栗褐色	灰黄色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料	
	3	281	SU-0563	浅鉢	M2	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰	
		282	-	浅鉢	2H	B	縁部	縁部	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
		283	SU-0926	浅鉢	J2	B	縁部	縁部	黒褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
		284	SU-0759	浅鉢	P20	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	黒褐色	焼附石・灰石・石灰	
		285	SU-0649	浅鉢	B28	B	縁部	縁部	褐色色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	
286		SU-0274	浅鉢	H29	B	縁部	縁部	褐色	黒褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子		
287		SU-0379 SU-0491	浅鉢	T28 T28	B B	縁部	縁部	こみい褐色	褐色色	焼附石・灰石・石灰		
288		SU-0679	浅鉢	B28	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	黒褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子		
289		SU-0695	浅鉢	L30	B	縁部	縁部	褐色色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・雲母		
290		SU-0370	浅鉢	T27	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	褐色黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
291		SU-0393	浅鉢	S28	B	縁部	顔面・縁部	こみい褐色	こみい褐色	焼附石・灰石・石灰		
292		SU-0397	浅鉢	M2	B	縁部	縁部	褐色	こみい褐色	焼附石・灰石・石灰		
293		SU-0939	浅鉢	J2	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	褐色色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子		
294		SU-0289 SU-0728	浅鉢	O2 P21	B B	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	焼附石・灰石・石灰		
295		SU-0230	浅鉢	H28	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰		
296		SU-0360	浅鉢	T28	B	縁部	縁部	褐色黄褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子		
297		SU-0387	浅鉢	B28	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子・白色粒子		
298		SU-0458	浅鉢	B28	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子	赤色顔料・雲母	
299		SU-0594	浅鉢	L31	B	縁部	縁部	褐色黄褐色・黒褐色	褐色黄褐色・黒褐色	焼附石・灰石・石灰		
300		SU-0375	浅鉢	T28	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい褐色	焼附石・灰石・石灰		
301		SU-0324	浅鉢	P21	B	縁部	縁部	褐色黄褐色	褐色色	焼附石・灰石・石灰		
302		SU-0390	浅鉢	T29	B	ナデ	縁部、ナデ	こみい褐色	褐色色	焼附石・灰石・石灰		
303		SU-0426 SU-0364	浅鉢	Z21 Z22	B	縁部	縁部	こみい栗褐色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・白色粒子		
304		SU-0316	浅鉢	K30	B	縁部	縁部	褐色色	こみい栗褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色粒子		

第8表 出土土器観察表⑧

目	番号	取上番号	器種	グロフ	属性	文様・図様		色調		土質	備考
						外周	内周	外周	内周		
S	305	SU1-0280	浅鉢	E22	Ba	研磨	研磨	こみ・褐色	褐色色	焼附石・灰石・石灰	焼成跡等孔
	306	SU1-0339	浅鉢	Q21	Ba	研磨	研磨	褐色色	褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
	307	SU1-0463	浅鉢	T28	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色	こみ・褐色	焼附石・灰石・石灰	
	308	SU1-0702	浅鉢	T25	Bb	研磨	磨蝕	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
	309	SU1-0485	浅鉢	S28	Ba	ナブ	研磨・ナブ	褐色色	こみ・褐色・黒色	焼附石・灰石	
	310	SU1-0629	浅鉢	N22	Ba	研磨	研磨	黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	311	-	浅鉢	Z21	Ec	研磨	研磨	黄褐色色	こみ・黄褐色色	灰石・石灰・赤色砂子・褐色砂子	赤色顔料
	312	SU1-0669	浅鉢	K22	Bb	ナブ	磨蝕・ナブ	こみ・黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料
	313	SU1-0638	浅鉢	K38	Ba	研磨	ナブ	黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	314	SU1-0995	浅鉢	M22	Ba	研磨	ナブ	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	焼成跡等孔
	315	SU1-0430	浅鉢	W25	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	褐色黄色・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
		SU1-0454		V21	Bb			黄褐色色			
		SU1-0480		V25	Bb			黄褐色色			
		SU1-0428		W25	Bb			黄褐色色			
	316	SU1-0302	浅鉢	H28	Ba	研磨	研磨	こみ・黄褐色色・黄褐色色	こみ・黄褐色色・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	317	SU1-0286	浅鉢	I20	Ba	研磨・黄褐色	研磨	こみ・黄褐色色	褐色黄色	焼附石・灰石・石灰	
	318	SU1-0379	浅鉢	AA22	Bb	研磨	研磨	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	319	SU1-0384	浅鉢	GA2	Bb	研磨	研磨	黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
	320	SU1-0607	浅鉢	J23	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
	321	SU1-0393	浅鉢	L21	Bb	研磨	研磨	赤褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	赤色顔料
	322	SU1-0240	浅鉢	Y21	Ba	研磨	ナブ	黄褐色色	褐色黄色	焼附石・灰石・石灰	
	323	SU1-0626	浅鉢	K21	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
	324	SU1-0230	浅鉢	H28	Ba	研磨	研磨	灰色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	325	SU1-0582	浅鉢	J21	Ba	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	326	SU1-0549	浅鉢	Q20	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	327	SU1-0373	浅鉢	AA22	Bb	不明	不明	褐色	黄褐色色	焼附石・石灰	
	328	SU1-0537	浅鉢	Z21	Ba	研磨	研磨	褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	
	329	SU1-0751	浅鉢	Q22	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色・褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	330	SU1-0611	浅鉢	J21	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色・黄褐色色	褐色色	焼附石・灰石・石灰	
	331	SU1-0527	浅鉢	N20	Bb	研磨	研磨	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母・赤色砂子	
332	SU1-0707	浅鉢	Z21	Bb	研磨	ナブ	赤褐色色・黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
333	SU1-0321	浅鉢	AR22	Bb	研磨	研磨	褐色黄色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
334	SU1-0145	浅鉢	K22	Bb	研磨	研磨	褐色黄色・黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
335	SU1-0370	浅鉢	AR21	Bb	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
336	SU1-0598	浅鉢	L21	Ba	研磨	研磨	こみ・黄褐色色	褐色黄色	焼附石・灰石・石灰・雲母		
337	SU1-0284	浅鉢	X20	Ba	研磨	研磨	褐色・褐色黄色	褐色・褐色黄色	焼附石・灰石・石灰		
	SU1-0256										
338	SU1-0535	浅鉢	AA22	Bb	磨目(磨) / ナブ	ナブ	こみ・黄褐色色	こみ・黄褐色色・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
339	SU1-0281	浅鉢	S21	Ba	磨目(磨) / ナブ・磨蝕	ナブ	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・雲母	年代測定結果	
340	SU1-0495	浅鉢	S28	Bb	磨目(磨) / 磨蝕	ナブ	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰・赤色砂子		
341	SU1-0718	浅鉢	Q2	Bb	磨目(磨) / 磨蝕	ナブ	黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
342	SU1-0464	浅鉢	I27	Bb	磨目(磨) / 磨蝕	磨蝕・ナブ	こみ・黄褐色色	黄褐色色・褐色色	焼附石・灰石		
343	SU1-0764	浅鉢	T26	Bb	磨目(磨) / 黄褐色	黄褐色・ナブ	黄褐色色・黄褐色色	灰色	焼附石・灰石・石灰		
344	SU1-0753	浅鉢	K20	Bb	磨目(磨) / 黄褐色	ナブ	こみ・黄褐色色	こみ・褐色色	焼附石・灰石・石灰		
345	SU1-0235	浅鉢	I20	Ba	磨目(磨) / ナブ	ナブ	黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
346	SU1-0794	浅鉢	N22	Bb	磨目(磨) / 磨蝕	ナブ	こみ・黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
347	-	浅鉢	-	属土	磨目(磨) / 黄褐色	ナブ	ナリーブ褐色色・褐色色	褐色黄色	焼附石・灰石・石灰		
348	SU1-0822	浅鉢	L21	Ba	磨目(磨) / ナブ	ナブ	黄褐色色	黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		
349	SU1-0600	浅鉢	J22	Ba	磨目(磨) / ナブ	磨蝕・ナブ	黄褐色色	こみ・黄褐色色	焼附石・灰石・石灰		

第9表 出土土器観察表⑨

目	番号	取上番号	器種	グッチ号	属性	文様・図様		色調		出土	備考
						外周	内周	外周	内周		
	330	SU-0946	浅鉢	L32	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	351	SU-0533	浅鉢	Q3	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	352	SU-0856	浅鉢	Q3D	Ba	無目(無)/ナナ	貝殻条線・ナナ	オリーブ黒色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	353	SU-0262	浅鉢	Z22	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	354	SU-0382	浅鉢	Y22	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	355	SU-0108	浅鉢	M2	Ba	無目(無)/貝殻条線	ナナ	褐色	暗赤褐色・こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	356	SU-0940	浅鉢	L31	Ba	無目(無)/ナナ	無通	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	357	SU-0245	浅鉢	Y22	Ba	無目(無)/貝殻条線	ナナ	こみ・黄褐色・灰色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	358	SU-0187	浅鉢	P30	Ba	無目(無)/貝殻条線	ナナ	こみ・黄褐色・オリーブ色	オリーブ黄色	陶器・灰石・石灰	
	359	SU-0726	浅鉢	K3	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色・黒褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	360	SU-0472	浅鉢	S27	Ba	無目(無)/貝殻条線・ナナ	ナナ	黒色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰・赤色粘土	
	361	SU-0982	浅鉢	K30	Ba	無目(無)/ナナ	貝殻条線・ナナ	黒色・黄褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	362	SU-0261	浅鉢	Q3D	Ba	無目(無)/貝殻条線	ナナ	褐色・黒褐色	赤褐色・こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	363	SU-0673	浅鉢	L31	Ba	無目(無)/無通	ナナ	こみ・黄褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	364	SU-0628	浅鉢	K3	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色・黒色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	365	SU-0627	浅鉢	K32	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	366	SU-0569	浅鉢	K30	Ba	無目(無)/貝殻条線・ナナ	ナナ	黒褐色・黄褐色	黄褐色・灰黄色	陶器・灰石	
	367	SU-0261	浅鉢	Z22	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ・無通	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	368	SU-0495	浅鉢	Y22	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	369	SU-0745	浅鉢	P30	Ba	無目(無)/ナナ	貝殻条線・ナナ	黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	370	SU-0266	浅鉢	Y22	Ba	無目(無)/無通・ナナ	無通・ナナ	褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	371	SU-0572	浅鉢	P30	Ba	無目(無)/無通・ナナ	ナナ	褐色・黄褐色	こみ・黄褐色・黒褐色	陶器・灰石・石灰	
	372	SU-0757	浅鉢	A42	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	373	SU-0263	浅鉢	Z22	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色・黒褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	374	SU-0264	浅鉢	A42	Ba	無目(無)/貝殻条線	貝殻条線・ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	375	SU-0265	浅鉢	A42	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	376	SU-0265	浅鉢	Z22	Ba	無目(無)/貝殻条線	貝殻条線・ナナ	黄褐色	黄褐色	陶器	
	377	-	浅鉢	S18440	焼瓦	無目(無)/ナナ・無通	無通・ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	378	SU-06749	浅鉢	S29	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	褐色	こみ・黄褐色・黒色	陶器・灰石・石灰・黒母	
	379	SU-0526	浅鉢	Q3D	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	黒色	黄褐色	陶器・灰石	
	380	SU-0422	浅鉢	X23	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	褐色	褐色	陶器・灰石・石灰	
	381	SU-0536	浅鉢	M2	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	黄褐色・暗赤褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰・黒母	
	382	SU-0489	浅鉢	T27	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	暗赤褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	383	SU-0630	浅鉢	K32	Ba	無目(無)/無通	ナナ・無通	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	384	SU-0530	浅鉢	Q3D	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	黄褐色・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	385	SU-0387	浅鉢	K29	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	386	SU-0605	浅鉢	G28	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ・無通	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	387	SU-0303	浅鉢	P30	Ba	無目(無)/ナナ	貝殻条線・ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	灰石・石灰・黒母	
	388	SU-0747	浅鉢	Q3D	Ba	無目(無)/ナナ	無通・ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	389	SU-0545	浅鉢	Q3D	Ba	無目(無)/無通	ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	390	SU-0674	浅鉢	J23	Ba	無目(無)/貝殻条線・ナナ	ナナ	暗赤褐色	暗赤褐色	陶器・灰石・石灰	
	391	SU-0266	浅鉢	P30	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	暗赤褐色	陶器・灰石・石灰	
	392	SU-0263	浅鉢	L33	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	暗赤褐色・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	393	SU-0101	浅鉢	L32	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	暗赤褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	394	SU-0986	浅鉢	L31	Ba	無目(無)/無通・ナナ・貝殻条線	ナナ	こみ・黄褐色	黄褐色	陶器・灰石	
	395	SU-0256	浅鉢	L32	Ba	無目(無)/無通	ナナ	褐色	黄褐色	陶器・灰石・石灰・黒母	
	396	SU-0267	浅鉢	Z22	Ba	無目(無)/貝殻条線・ナナ	ナナ・貝殻条線	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	397	SU-0382	浅鉢	S29	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	暗赤褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰・黒母	
	398	SU-0277	浅鉢	S28	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石・石灰	
	399	SU-0277	浅鉢	A42	Ba	無目(無)/ナナ	ナナ	こみ・黄褐色・黄褐色	こみ・黄褐色	陶器・灰石	

第10表 出土土器観察表⑩

目	番号	取上番号	器種	グリップ	属性	文様・図様		色調		胎土	備考	
						片側	内側	片側	内側			
400	SU1-0225	浅鉢	K28	Ⅱb	無目(ヘラ)/ナナ	ナナ	褐色・黒灰色	褐色・灰褐色	陶質	長石・石灰・雲母		
401	SU1-0428	浅鉢	T28	Ⅱb	無目(ヘラ)/ナナ	ナナ	こみゆせ褐色・黒色	同前	陶質	長石・石灰・雲母		
402	SU1-0430	浅鉢	X29	Ⅱa	無目(ヘラ)/漆漕	ナナ	無文褐色	同前	陶質	長石・石灰		
403	SU1-0525	浅鉢	L32	Ⅱa	無目(ヘラ)/ナナ	ナナ	こみゆせ褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰		
404	SU1-0594	浅鉢	E20	Ⅱa	無目(ヘラ)/ナナ	ナナ	浅黄褐色	同前	陶質	長石・石灰・赤色粒子		
405	SU1-0599	浅鉢	F22	Ⅱa	無目(ヘラ)/ナナ	無文・ナナ	こみゆせ褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰		
406	SU1-0716	浅鉢	H29	Ⅱb	無目(ヘラ)/ナナ	無文	黒色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰		
407	SU1-0781	浅鉢	M2	Ⅱa	無目(ヘラ)/器底縁・ナナ	器底縁・ナナ	こみゆせ褐色・灰黄褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰・雲母		
408	SU1-0781	浅鉢	E21	Ⅱa	無目(ヘラ)/ナナ	器底縁・ナナ	浅黄色	同前	陶質	長石・石灰		
409	SU1-0808	浅鉢	A42	Ⅱb	無目(器底縁)/器底縁・器底縁	器底縁・ナナ	明黄褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・白色粒子	年代測定用口	
410	SU1-0852	浅鉢	X25	Ⅱb	無目(器)/器底縁・ナナ	ナナ	こみゆせ褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰		
411	SU1-0421	浅鉢	W31	Ⅱb	無目(器)/ナナ	ナナ	浅黄褐色	同前	陶質	長石・石灰・雲母		
412	SU1-0808	浅鉢	K20	Ⅱb	無文	器底縁・ナナ	こみゆせ褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰・雲母	焼成跡あり	
413	SU1-0352	浅鉢	Q20	Ⅱa	器底縁	器底縁・ナナ	こみゆせ黄褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰		
414	SU1-0523	浅鉢	K32	Ⅱa	無文	ナナ	褐色・こみゆせ褐色	こみゆせ褐色	陶質	長石・石灰		
415	SU1-0750	浅鉢	J31	Ⅱb	器底縁	器底縁・ナナ	こみゆ褐色・黒色	同前	陶質	長石		
416	SU1-0380	浅鉢	N3	Ⅱb	無文	ナナ	こみゆ黄褐色	こみゆ褐色・褐色	陶質	長石		
417	SU1-0849	浅鉢	L31	Ⅱa	無文	ナナ	褐色・黄褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰		
418	SU1-0352	浅鉢	M2	Ⅱa	無文	器底縁・ナナ	同前	同前	陶質	長石・石灰		
419	SU1-0282	浅鉢	E22	Ⅱa	器底縁・ナナ	ナナ	こみゆ黄褐色	褐色	陶質	長石・石灰		
420	SU1-0294	浅鉢	A42	Ⅱb	無文	器底縁・ナナ	黒褐色・こみゆ褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰		
421	SU1-0686	浅鉢	L31	Ⅱb	無文	ナナ	褐色褐色	こみゆ褐色	陶質	長石・石灰		
422	SU1-0645	浅鉢	W23	Ⅱb	無文	無文	褐色・こみゆ黄褐色	褐色	陶質	長石		
423	SU1-0710	浅鉢	S8	Ⅱa	研盤	無文・研盤	こみゆ黄褐色	黒灰色・こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰		
424	SU1-0701	浅鉢	K3	Ⅱb	研盤	研盤	明褐色	同前	陶質	長石・石灰・雲母		
425	SU1-0256	浅鉢	T28	Ⅱa	研盤	無文	明黄褐色・こみゆ黄褐色	こみゆ黄褐色・褐色褐色	陶質	長石・石灰		
426	SU1-0728	浅鉢	L31	Ⅱa	無文	ナナ	こみゆ黄褐色	褐色	陶質	長石・石灰		
427	SU1-0285	浅鉢	F21	Ⅱa	無文・ナナ	ナナ	こみゆ黄褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰		
428	SU1-0462	浅鉢	H29	Ⅱa	無文・ナナ	ナナ	褐色	褐色	陶質	長石・石灰・赤色粒子		
429	-	浅鉢	5区南東部	黄灰	無文	無文・ナナ	ナナ	ナナ	褐色褐色・こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰・雲母	
430	SU1-0254	浅鉢	M2	Ⅱb	ナナ	研盤	こみゆ黄褐色	褐色	陶質	長石・石灰		
431	SU1-0129	浅鉢	M2	Ⅱa	ナナ	ナナ	褐色・こみゆ黄褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰		
432	SU1-0228	浅鉢	V25	Ⅱa	研盤	研盤	褐色褐色	褐色	陶質	長石・石灰		
433	SU1-0256	浅鉢	E21	Ⅱa	研盤	研盤	こみゆ黄褐色	同前	陶質	長石・石灰・黄褐色		
434	SU1-0523	浅鉢	M2	Ⅱb	ナナ	ナナ	こみゆ黄褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰・雲母		
435	SU1-0729	浅鉢	J32	Ⅱa	研盤	研盤	赤褐色	褐色	陶質	長石・石灰・雲母	赤色顔料	
436	SU1-0675	浅鉢	L31	Ⅱa	研盤	研盤	赤褐色	褐色褐色	陶質	長石・石灰	赤色顔料	
437	SU1-0682	浅鉢	K32	Ⅱa	研盤	研盤	明黄褐色・灰黄褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰	赤色顔料	
438	SU1-0489	浅鉢	Y25	Ⅱb	無文	無文	こみゆ黄褐色	褐色	陶質	長石・石灰		
439	SU1-0223	浅鉢	Y25	Ⅱa	無文	ナナ	赤褐色	こみゆ黄褐色・褐色	陶質	長石・石灰		
440	SU1-0829	浅鉢	K32	Ⅱa	無文	ナナ	赤褐色・褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰・雲母		
441	SU1-0787	浅鉢	T28	Ⅱa	無文・ナナ	無文・ナナ	褐色	浅黄色	陶質	長石・石灰		
442	SU1-0303	浅鉢	N32	Ⅱb	ナナ	無文	こみゆ黄褐色・褐色	こみゆ黄褐色・褐色	陶質	長石		
443	-	浅鉢	5区南東部	黄灰	無文・ナナ	ナナ	明黄褐色	褐色	陶質	長石		
444	SU1-0324	浅鉢	F21	Ⅱa	ナナ	ナナ	こみゆ褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石		
445	SU1-0388	浅鉢	Z22	Ⅱb	ナナ	ナナ	赤褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰	無文・ナナ	
446	SU1-0465	浅鉢	V26	Ⅱb	無文 アンゴシ	ナナ	こみゆ黄褐色	こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰	年代測定用口	
447	SU1-0586	浅鉢	M3	Ⅱb	アンゴシ	研盤	明黄褐色	同前	陶質	長石・石灰・赤色粒子		
448	SU1-0474	浅鉢	T28	Ⅱb	アンゴシ	研盤	こみゆ褐色・褐色	褐色・こみゆ黄褐色	陶質	長石・石灰・雲母・白色粒子		
449	SU1-0284	浅鉢	V26	Ⅱb	アンゴシ	研盤	褐色	褐色	陶質	長石・石灰		

第11表 出土土器観察表①

目	番号	取上番号	種類	グツド	属性	文様・図様		色調		胎土	備考
						外周	内周	外周	内周		
11	43	SU-0401	浅鉢	V25	B3	アソビシ	ナシ	こみ・黄褐色	浅黄色	焼附石・灰白	
	44	-	浅鉢	1/1644	黄灰	アソビシ	緑褐色	こみ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	45	SU-0500 SU-0529	浅鉢	K31 K31	B3 B3	黒田	ナシ	黒褐色・褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・白色粒子	
	46	SU-0600	浅鉢	K31	B3	黒田	貝殻破片・ナシ	こみ・黄褐色・灰色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	47	SU-0609 SU-0661	浅鉢	L32 L32	B3 B3	黒田	ナシ	こみ・黄褐色・褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	48	SU-0709	浅鉢	S20	B3	黒田	ナシ	灰褐色	灰黄色	焼附石・灰白・石灰	
	49	SU-0803 SU-0816 SU-0818	浅鉢	V25 V25 V25	B3 B3 B3	不明	ナシ	こみ・黄褐色・こみ・褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	黒田・黒田
	50	SU-0902	浅鉢	F21	B3	黒田	ナシ	黄褐色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	51	SU-0901	浅鉢	L31	B3	黒田	ナシ	こみ・褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	52	SU-0908	浅鉢	A42	B3	黒田	緑褐色	黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	53	SU-0909	浅鉢	M32	B3	黒田	ナシ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	54	SU-0926	浅鉢	E20	B3	黒田	ナシ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	55	SU-0928	浅鉢	K31	B3	黒田	ナシ	褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・白色粒子	
	56	SU-0930	浅鉢	N22	B3	黒田・黒田	ナシ	褐色・こみ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・白色粒子	
	57	SU-0935	浅鉢	K31	B3	黒田(ハナ)/黒田	ナシ	こみ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	58	SU-0976	浅鉢	A42	B3	黒田(ハナ)/ナシ	ナシ	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	59	SU-0980	浅鉢	A42	B3	ナシ	ナシ	こみ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	60	-	浅鉢	J32	Bc	長谷本郷, ナシ, 黒田	ナシ	こみ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	
	61	SU-0988	浅鉢	J32	B3	黒田, ナシ	ナシ	黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	62	SU-0946	浅鉢	O31	B3	ナシ	ナシ	こみ・黄褐色・黄褐色	こみ・褐色	焼附石・灰白・石灰	
	63	SU-0969	浅鉢	J30	B3	黒田	ナシ	黄褐色・こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	64	SU-0923	浅鉢	J30	B3	ナシ	緑褐色	褐色・こみ・黄褐色	褐色	焼附石・灰白・雲母・白色粒子	
	65	SU-0948	浅鉢	Q30	B3	ナシ	ナシ	黄褐色・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	66	SU-0962	浅鉢	L31	B3	ナシ	ナシ	黄褐色	黄褐色	焼附石・石灰・雲母	
	67	SU-0949 SU-0966 SU-0968	浅鉢	E28 E28 S28	B3 B3 B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	68	SU-0938	浅鉢	Q30	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	
	69	SU-0958	浅鉢	E20	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色・赤褐色・白色粒子	
	70	SU-0938	浅鉢	W25	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	71	SU-0945	浅鉢	N31	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	72	SU-0951	浅鉢	M32	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	こみ・褐色・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	73	SU-0969	浅鉢	M31	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	74	SU-0940 SU-0947	浅鉢	M31 M31	B3 B3	不明	緑褐色	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	75	SU-0900	浅鉢	L28	B3	緑褐色	緑褐色	こみ・黄褐色	浅黄色	灰石・石灰	
	76	SU-0955	浅鉢	Z21	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白	
	77	SU-0925	浅鉢	O30	B3	緑褐色	緑褐色	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色・黄褐色	焼附石・灰白・石灰・石灰・白色粒子	
	78	SU-0934	浅鉢	Q29	B3	緑褐色	緑褐色	こみ・黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	79	SU-0906	浅鉢	K32	B3	緑褐色	緑褐色	褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	80	SU-0909	浅鉢	V24	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	こみ・黄褐色	焼附石・灰白・石灰	
	81	SU-0907 SU-0970	浅鉢	K31 L30	B3 B3	緑褐色	緑褐色	褐色・黄褐色	浅黄色	焼附石・灰白・石灰・雲母	
	82	SU-0906	浅鉢	S22	B3	緑褐色	緑褐色	黄褐色	こみ・褐色	焼附石・灰白・石灰・赤色粒子	
	83	SU-0907	浅鉢	M31	B3	緑褐色	ナシ	こみ・黄褐色・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰白・石灰	黒田赤3, 赤色顔料
	84	SU-0936	浅鉢	K33	B3	緑褐色	ナシ, 緑褐色	浅黄色	浅黄色	焼附石・灰白・石灰	赤色顔料

第12表 出土土器観察表⑫

目	番号	取上番号	器種	グツノ	属性	文様・図様		色調		出土	備考
						外周	内周	外周	内周		
2	492	SN1-0792	浅鉢	M2	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	黄色顔料
	493	SN1-0400	浅鉢	V25	Ⅱb	緑褐色・黄褐色	黄褐色・緑褐色	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	494	SN1-0732	浅鉢	S7	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	495	-	浅鉢	M2	Ⅱc	緑褐色	ナツ	こぶ・黄褐色	黄白色	焼附石・灰石・石灰・赤色顔料	焼成痕穿孔
	496	SN1-0695	浅鉢	T3	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナツ
	497	SN1-0678 SN1-0623	浅鉢	K3 K2	Ⅱb Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色	こぶ・褐色	焼附石・灰石・石灰	
	498	SN1-0630	浅鉢	E9	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色・褐色	褐色	焼附石・灰石	
	499	SN1-0311	浅鉢	J11	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・石灰	
	500	SN1-0294	浅鉢	O2	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	501	SN1-0425	浅鉢	M2	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	502	SN1-0690	浅鉢	J11	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	灰黄褐色・褐色	褐色	焼附石・石灰	底面：黄褐色
	503	SN1-0154	浅鉢	N1	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	浅黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	504	SN1-0421	浅鉢	L31	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	505	SN1-0439	浅鉢	G8	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	506	SN1-0792	浅鉢	Z1	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	黄褐色・褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色・赤色顔料
	507	SN1-0636	浅鉢	K2	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	508	SN1-0520	浅鉢	K3	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	黄褐色・灰黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：ナツ
	509	SN1-0471	浅鉢	A12	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・褐色・黒色	褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	510	SN1-0670	浅鉢	S7	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色・灰黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	511	SN1-0768	浅鉢	F10	Ⅱb	ナツ	ナツ	こぶ・黄褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・石灰・赤色顔料	底面：ナツ
	512	SN1-0732	浅鉢	P22	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	浅黄褐色	浅黄褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色顔料	底面：緑褐色
	513	SN1-0335	浅鉢	K3	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	こぶ・褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰・赤色顔料	底面：緑褐色
	514	SN1-0666 SN1-0374	浅鉢	S2 G2	Ⅱb Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	515	SN1-0343	浅鉢	O2	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	こぶ・褐色	焼附石・灰石・石灰	底面：緑褐色
	516	SN1-0112	浅鉢	M2	Ⅱa	黄褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	517	SN1-0639	浅鉢	J12	Ⅱb	緑褐色	ナツ	黄褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	518	SN1-0284	浅鉢	T3	Ⅱa	ナツ	ナツ	こぶ・黄褐色	こぶ・黄褐色	焼附石・石灰	底面：ナツ
	519	SN1-0129 SN1-0121	甕	K2 K2	Ⅱb Ⅱb	緑褐色	緑褐色・ナツ	赤褐色	褐色・赤褐色・灰黄褐色	灰石・石灰	
	520	SN1-0717	甕	T3	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色	褐色	焼附石・灰石	
	521	SN1-0156 SN1-0281 SN1-0393 SN1-0156 SN1-0393	甕	N2 N2 N2 N2	Ⅱa Ⅱb Ⅱa Ⅱb	ナツ	ナツ	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
	522	SN1-0413	甕	E3	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	褐色	赤褐色・こぶ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰	
	523	SN1-0492	甕	J12	Ⅱa	緑褐色	緑褐色・灰黄褐色・ナツ	褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰	
524	SN1-0475 SN1-0463	甕	A12 A12	Ⅱb Ⅱb	緑褐色	ナツ	褐色	赤褐色	焼附石・灰石・石灰		
525	SN1-0747	甕	K2	Ⅱb	緑褐色	ナツ	赤褐色	褐色	焼附石・石灰		
526	SN1-0382	甕	O2	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	赤色	黄褐色	石灰		
527	SN1-0316	甕	J1	Ⅱa	緑褐色	不明	褐色	黄褐色	灰石・石灰		
528	SN1-0340	甕	E2	Ⅱb	不明	不明	こぶ・褐色・褐色	褐色	焼附石・灰石・石灰		
529	SN1-0286	甕	F10	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	こぶ・黄褐色	黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
530	SN1-0340 SN1-0392	甕	L32 M2	Ⅱa Ⅱa	緑褐色	ナツ	褐色・赤褐色・黄褐色	褐色・赤褐色・黄褐色	焼附石・灰石・石灰		
531	SN1-0296 SN1-0396	甕	Z1 Z2	Ⅱb Ⅱb	緑褐色	緑褐色	こぶ・赤褐色・黒色	こぶ・黄褐色	焼附石・灰石・石灰		

第13表 出土土器観察表⑬

目	番号	取上番号	種類	グロウ	属性	文様・図案		色調		出土	備考
						外周	内周	外周	内周		
33	332	SN1-0718	甕	S21	Ⅱb	緑褐色	緑褐色、十字	赤褐色	赤褐色、こぶし赤褐色	焼附石、炭石	
	333	SN1-0860	甕	F21	Ⅱb	十字		十字	赤褐色、明赤褐色	焼附石、炭石、石灰	
	334	SN1-0820	甕	K33	Ⅱb	十字		十字	明赤褐色	赤褐色	焼附石、炭石、石灰
	335	SN1-0619	甕	K33	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	緑褐色	こぶし赤褐色	赤褐色	焼附石、炭石、石灰
	336	SN1-0468	甕	V25	Ⅱb	緑褐色		十字	こぶし赤褐色	淡黄色	焼附石、炭石、石灰
		SN1-0671		Z21	Ⅱb						
		SN1-0674		Z21	Ⅱb						
		SN1-0676		Z21	Ⅱb						
		SN1-0681		Z21	Ⅱb						
		SN1-0706	甕	Z21	Ⅱb	緑褐色	十字	明赤褐色	褐色		焼附石、炭石、石灰、赤色粒子
		SN1-0709		Z21	Ⅱb						
		SN1-0783		Z21	Ⅱb						
		SN1-0789		Z21	Ⅱb						
		SN1-0492		Z21	Ⅱb						
		SN1-0664		Z21	Ⅱb						
		SN1-0665	甕	Z21	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	赤色	明赤褐色		焼附石、炭石、赤色粒子、白色粒子
		SN1-0666		Z21	Ⅱb						
		SN1-0667		Z21	Ⅱb						
		SN1-0738		Z21	Ⅱb						
		SN1-0781		Z21	Ⅱb						
	339	SN1-0382	甕	Z21	Ⅱb	緑褐色	不明	赤褐色	明褐色		炭石、石灰、赤色粒子
		SN1-0828		Z21	Ⅱb						
		SN1-0849		Z21	Ⅱb						
	340	SN1-0558	甕	Z22	Ⅱa	緑褐色	十字	こぶし赤褐色、赤褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰、赤色粒子、白色粒子
		SN1-0397		Z22	Ⅱb						
		SN1-0343		Z22	Ⅱb						
		SN1-0576		Z22	Ⅱb						
	341	SN1-0804	甕	Z21	Ⅱb	緑褐色	十字	明赤褐色	褐色		炭石、石灰
		SN1-0730		Z21	Ⅱb						
	342	SN1-0347	甕	I38	Ⅱa	-	十字	明赤褐色、こぶし赤褐色	褐色		焼附石、炭石、石灰
	343	SN1-0862	甕	L32	Ⅱb	十字	十字	褐色	淡黄色		焼附石、炭石、石灰
	344	SN1-0639	甕	K32	Ⅱb	十字	-	明赤褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰
	345	SN1-0475	甕	S27	Ⅱb	緑褐色	緑褐色、十字	赤褐色	こぶし赤褐色、赤褐色		焼附石、炭石、石灰
SN1-0476			S27	Ⅱb							
346	SN1-0506	甕	M32	Ⅱb	緑褐色	十字	赤褐色	赤褐色、褐色		焼附石、炭石、石灰	
347	SN1-0787	甕	T25	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	暗灰褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
348	SN1-0729	甕	K33	Ⅱb	緑褐色	十字	明赤褐色	明赤褐色		焼附石、石灰	
349	SN1-0725	甕	Q33	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	黒色、褐色	黒色、灰赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
350	SN1-0511	甕	Q33	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	明赤褐色	明赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
351	SN1-0549	甕	K33	Ⅱa	十字	十字	こぶし赤褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰、赤色粒子	
352	SN1-0394	甕	K33	Ⅱb	緑褐色	十字	赤褐色	赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
353	-	甕	K33	Ⅱc	緑褐色	十字	こぶし赤褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰、赤色粒子	
354	SN1-0542	甕	F21	Ⅱb	緑褐色	緑褐色	明赤褐色	明赤褐色、こぶし赤褐色		焼附石、石灰	
355	SN1-0198	甕	L31	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	赤褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
356	SN1-0380	甕	L32	Ⅱa	緑褐色	緑褐色	こぶし赤褐色	赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
357	SN1-0258	甕	L32	Ⅱa	緑褐色	緑褐色、十字	こぶし赤褐色	こぶし赤褐色		焼附石、炭石、石灰	
358	SN1-0313	甕	J33	Ⅱa	赤褐色	緑褐色	赤褐色	赤褐色、こぶし赤褐色		炭石、石灰、灰層	
359	SN1-0313	甕	J38	Ⅱa	緑褐色	十字	赤褐色	褐色		焼附石、炭石、石灰	
360	SN1-0329	甕	AA2	Ⅱb	緑褐色	緑褐色、十字	赤褐色	赤褐色、明赤褐色		焼附石、炭石、石灰、黒母、白色粒子	
	SN1-0329		AA2	Ⅱb							

第14表 出土土器観察表⑭

目	番号	取上番号	器種	グロウ	属性	文様・図様		色調		出土	備考
						外周	内周	外周	内周		
Ⅲ	561	SU-0982	甕	A3C	Ⅱb	ナツ	ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	562	SU-0926	甕	J32	Ⅱa	緑釉	緑釉	赤褐色	赤褐色	灰石・石灰	
	563	SU-0925	甕	M3	Ⅱb	緑釉	ナツ	こい・赤褐色	こい・赤褐色	灰石・石灰	
	564	SU-0635	甕	K3C	Ⅱb	ナツ	ナツ	灰褐色	こい・褐色	陶器・灰石・石灰・白色粒子	
	565	SU-0297	甕	Y3	Ⅱa	緑釉	緑釉	赤色	赤色	陶器・灰石・石灰	
	566	SU-0107	甕	M2	Ⅱb	緑釉	緑釉	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	567	SU-0986	甕	V25	Ⅱb	緑釉	緑釉・ナツ	赤褐色	灰褐色	陶器・灰石・白色粒子	
	568	SU-0722	甕	Q3	Ⅱb	緑釉	緑釉	こい・赤褐色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	569	SU-0720	甕	K3	Ⅱb	緑釉	緑釉	褐色色	褐色色	石灰	
	570	SU-0733	甕	J3	Ⅱb	緑釉	緑釉	赤褐色	赤褐色・こい・褐色	石灰	
	571	SU-0729	甕	K3C	Ⅱb	緑釉	緑釉	褐色色	こい・赤褐色	灰石・石灰	
	572	SU-0397	甕	K3	Ⅱb	緑釉	緑釉	赤褐色	赤褐色	石灰	
	573	SU-0622	甕	K3D	Ⅱb	緑釉	ナツ	赤色	褐色色	灰石・石灰	
	574	SU-0641	甕	S3	Ⅱa	緑釉	緑釉	褐色色	こい・赤褐色	陶器・灰石	
	575	SU-0628	甕	K3C	Ⅱb	緑釉	緑釉	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	576	SU-0675	甕	K3D	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色	褐色色・褐色色	灰石・石灰	
	577	SU-0603	甕	K3	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色・褐色褐色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	578	SU-0387	甕	Y2	Ⅱb	緑釉	ナツ	赤褐色	褐色色・褐色褐色	陶器・灰石・石灰	
	579	SU-0357	甕	R28	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色褐色	こい・赤褐色	陶器・石灰	
	580	SU-0564	甕	L3	Ⅱb	緑釉	ナツ	赤褐色	こい・赤褐色	陶器・石灰	
	581	SU-0466	甕	Z2	Ⅱb	文様・緑釉	ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	582	SU-1435	甕	V25	Ⅱb	ナツ	ナツ	褐色色	こい・赤褐色	陶器・灰石・石灰	
	583	SU-0130	甕	N3	Ⅱa	緑釉	ナツ	こい・赤褐色	褐色色	灰石・石灰・黒緑	
	584	SU-0368	甕	T28	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色	淡黄色	陶器・灰石・石灰	
	585	SU-0906	甕	Z2	Ⅱb	文様・緑釉	ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	586	SU-0125	甕	K3A	Ⅱb	緑釉	ナツ	赤褐色・褐色色	淡黄色	灰石・石灰	
	587	SU-0266	甕	T25	Ⅱa	緑釉	ナツ	褐色色	淡黄色	灰石・石灰	
	588	SU-0531	甕	F3	Ⅱb	緑釉	ナツ	赤褐色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	589	SU-0362	甕	Z2	Ⅱb	緑釉	緑釉	褐色色・黄色	淡黄色	陶器・灰石・石灰	
	590	SU-0361	甕	A42	Ⅱb	緑釉	緑釉・ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	
	591	SU-0375	甕	Z2	Ⅱb	緑釉	ナツ	黒色	こい・褐色	陶器・灰石・石灰	
	592	SU-0394 SU-0382	甕	L3	Ⅱb	緑釉	ナツ	赤褐色・褐色褐色	褐色色	灰石・石灰	
	593	SU-0395	甕	Z2	Ⅱb	緑釉	不明	赤褐色	こい・褐色	灰石・石灰	
	594	SU-0204	甕	K2	Ⅱa	文様赤釉	ナツ	褐色色	褐色色	灰石・石灰	
	595	SU-0576	甕	L3	Ⅱb	緑釉	緑釉	こい・赤褐色・黒色	淡黄色	灰石・石灰	
	596	SU-0428	甕	T2	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色	こい・赤褐色	陶器・石灰	
597	SU-0621	甕	Z2	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色褐色・こい・赤褐色	褐色色	陶器・灰石・石灰・白色粒子		
598	SU-0517	甕	M2	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色・褐色褐色	こい・褐色	陶器・灰石・石灰		
599	SU-0284	甕	R29	Ⅱa	ナツ	ナツ	褐色色	こい・赤褐色	陶器・灰石・石灰	底面・ナツ	
600	SU-0292	甕	F2	Ⅱa	ナツ	ナツ	こい・赤褐色	褐色色	灰石・石灰	底面・ナツ	
601	SU-0984	甕	V21	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色	淡黄色	陶器・灰石・石灰		
602	SU-0461	高坏・甕付	T28	Ⅱb	無目(無)/ナツ	無目・ナツ	こい・褐色	褐色色	陶器・灰石・石灰	底面・無目・ナツ	
603	SU-0295	高坏・甕付	F2	Ⅱa	無目(ナツ)/ナツ	ナツ	こい・赤褐色	淡黄色	陶器・灰石・石灰・白色粒子	底面・ナツ	
604	SU-0313	高坏・甕付	L3	Ⅱb	無目(ナツ)/ナツ	ナツ	褐色色	こい・赤褐色・褐色色	陶器・灰石・石灰	底面・ナツ	
605	SU-0330	高坏・甕付	L2	Ⅱa	ナツ	ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰	底面・ナツ	
606	SU-0619	高坏・甕付	J32	Ⅱb	無目・ナツ	ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰		
607	SU-0311	高坏・甕付	Q28	Ⅱa	ナツ	ナツ	褐色色	褐色色	陶器・灰石・石灰		
608	SU-0575	高坏・甕付	J4	Ⅱb	ナツ	文様赤釉・ナツ	こい・赤褐色	褐色色	石灰・白色粒子		
609	SU-0356	高坏・甕付	L3	Ⅱb	緑釉	ナツ	褐色色	褐色色・黒色	陶器・灰石	赤色原料	

第15表 出土土器観察表⑮

目	番号	取上番号	種類	グロウ	属性	文様・図様		色澤		土質	備考
						外周	内周	外周	内周		
3	610	SNI-0982	高坪-磨石	T28	Bb	ナテ	磨面	淡黄色	淡黄色	焼閉石・灰石	
	611	SNI-0985	高坪-磨石	K22	Ba	研盤	研盤	褐色	褐色	石灰	
	612	SNI-0986	高坪-磨石	Z21	Bb	研盤	研盤	淡黄色・褐色	黄褐色	石灰	
	613	-	高坪-磨石	K30	Bc	ナテ	乱色条線・ナテ	黄褐色	淡黄色	焼閉石・灰石・赤色粒子	
	614	-	高坪-磨石	J2	Bc	ナテ	ナテ	淡黄色	黄褐色	焼閉石・灰石・赤色粒子・黒色粒子	
	615	SNI-0952	高坪-磨石	K30	Ba	ナテ	ナテ	褐色	黄褐色	焼閉石・石灰	
	616	SNI-0928	高坪-磨石	K30	Bb	ナテ	ナテ	淡黄色	-	焼閉石・灰石・石灰	
	617	SNI-0926	高坪-磨石	K30	Ba	ナテ	磨面・ナテ	褐色	褐色	焼閉石・灰石・石灰	
	618	SNI-0490	高坪-磨石	Z21	Bb	ナテ	ナテ	褐色	淡黄色	焼閉石・石灰	
	619	SNI-0484	高坪-磨石	T28	Bb	ナテ	磨面	淡黄色	淡黄色	焼閉石・灰石・石灰	
	620	SNI-0907	高坪-磨石	T28	Bb	ナテ	乱色条線・ナテ	黄褐色	黄褐色	焼閉石・灰石・石灰	
	621	SNI-0574	高坪-磨石	Q30	Bb	ナテ	ナテ	淡黄色	黄褐色	焼閉石・灰石・石灰	
	622	SNI-0856	高坪-磨石	F21	Bb	ナテ	ナテ	黄褐色	黄褐色	焼閉石・灰石・石灰	
	623	SNI-0596	研盤	N3	Bb	研盤	-	淡黄色	淡黄色	焼閉石・灰石・石灰	
	624	SNI-0596	研盤	L31	Bb	研盤	-	淡黄色	淡黄色	焼閉石・灰石・石灰	
	625	SNI-0897	土製品	L31	Ba	研盤	-	黄褐色	黄褐色	焼閉石・灰石・石灰・赤色粒子	
	626	SNI-0826	土製品	F31	Bb	研盤	-	黄褐色	-	焼閉石・灰石・石灰・黒色・赤色粒子	
	627	-	土製品	Z22	Bc	ナテ	-	淡黄色	-	焼閉石・灰石・石灰・赤色粒子	
	628	SNI-0920	土製品	J2	Ba	ナテ	-	淡黄色	-	焼閉石・灰石・石灰	
	629	-	磨	L38	B	ナテ	ナテ	淡黄色	淡黄色	灰石・石灰・赤色粒子	
630	-	磨	F29	Bc	ナテ	ナテ	褐色	褐色	灰石・石灰・赤色粒子		
631	-	磨	J31	B	ナテ	ナテ	黄褐色	淡黄色	灰石・石灰・赤色粒子・黒色粒子		
632	SNI-0688	磨	Z21	Bb	研盤	ナテ	黄褐色	褐色	焼閉石・灰石・石灰		
	Z21		Bb								
633	SNI-0364	磨	Z22	Bb	研盤	ナテ	黄褐色	褐色	焼閉石・灰石・石灰		
	SNI-0295		AA2	Bb							
634	SNI-0228	小磨	V25	Ba	ナテ	ナテ	褐色	淡黄色	焼閉石・灰石・石灰		
635	-	磨	Q39	B	ナテ	ナテ	黄褐色	黄褐色	灰石・石灰・赤色粒子		
636	-	磨	K22	Bc	ナテ	ナテ	淡黄色	淡黄色	焼閉石・灰石・石灰・赤色粒子		
637	SNI-0299	磨	A32	Bb	ナテ	磨面・ナテ	灰色	灰色	焼閉石・灰石・石灰		
638	SNI-0326	磨	T25	Ba	ナテ	磨面	黄褐色	淡黄色	焼閉石・灰石・石灰		
639	-	土製品	S24	B	-	-	黄褐色	黄褐色	灰石・石灰		
640	-	土練	2-334832	焼先	ナテ	-	淡黄色	-	赤色粒子		
641	-	土練	731	石研盤	ナテ	-	黄褐色	-	焼閉石・灰石		
642	-	土練	2-334832	焼先	ナテ	-	褐色	-	灰石・石灰		
643	-	土練	2-334832	焼先	ナテ	-	淡黄色	-	灰石・石灰・赤色粒子		
644	SNI-0924	土練	J2	Ba	ナテ	-	淡黄色	-	赤色粒子・灰石		

第16表 出土陶磁器観察表

目	番号	取上番号	種類	グロウ	属性	文様・図様		色澤		土質	備考
						外周	内周	外周	内周		
3	645	-	半磁筒	2-334832	焼先	-	-	灰白色	灰白色	-	
	646	-	陶器蓋	2-334832	焼先	-	-	淡黄色・赤褐色	灰白色	-	磨面
	647	-	鉢片断	731	石研盤	磨面	-	黄褐色	黄褐色	-	

(2) 石器

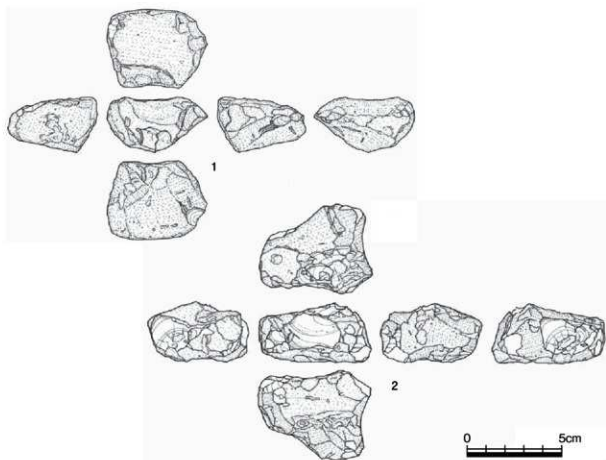
1・2は黒曜石の原石である。1は亜角礫で、自然面には細かい爪痕状の溝が入る。2は角礫状で、剥離面もみられるが、風化が進み、不純物が多く入る。

3～25は石核である。3～7はサスカイト、8～25は黒曜石である。

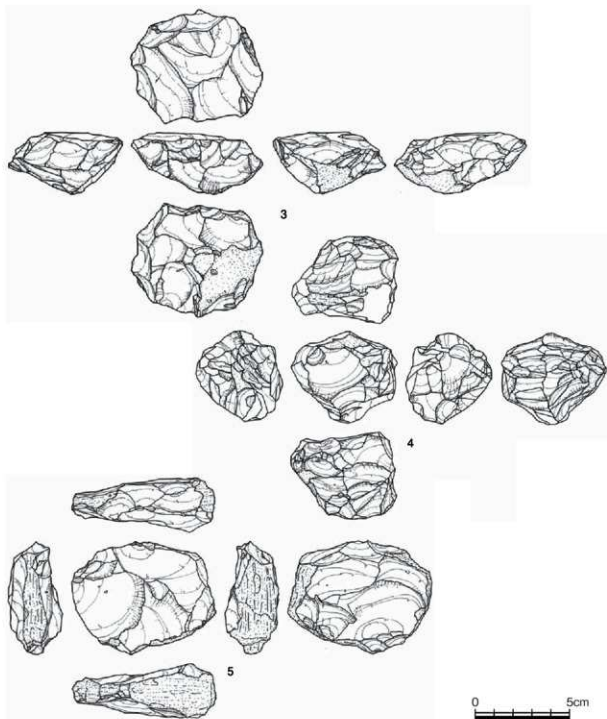
3は部分的に自然面を残し、扁平な形状をなす。周縁から中心に向かって剥離作業が行われる。4は打面転換をしながら作業を行っており、剥離が全体に及んでいる。二次移動によるものか、稜線上には潰れが観察される。5は扁平な形状で、上下面は周縁から中心に向かって剥離が行われ、側面をめぐるように自然面が残る。6は一部に自然面を残し、多方向から剥離が行われる。7はおもに自然面を打面とする剥離がみられる。

8は黒曜石角礫を素材としており、黒曜石の石核としては大型である。平坦な自然面を打面として、集中的に剥離が観察される。9は自然面を打面として連続的に同一方向に剥離が行われる。10は扁平な形状で、上下面に求心的な剥離が認められる。一部稜線上に潰れが観察される。11は打面を転換させながら数度の剥離を行う。12は上面から求心的な剥離が行われ、角錐状の形状となる。13は最終的に剥離面である上面を打面として、連続的な剥離を行っている。

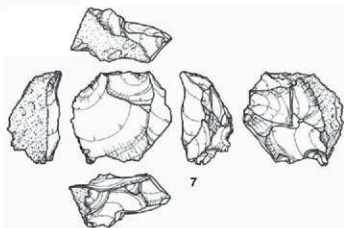
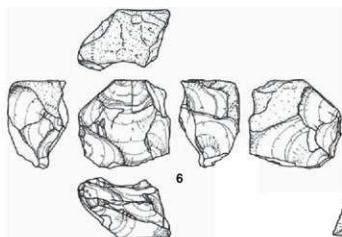
14は多方向からの剥離作業により、サイコロ状の形状となる。15は大きく自然面を残しており、3 cm 角程度の非常に小さい角礫が素材であったことがうかがえる。16は打面を変えながらごく小さい



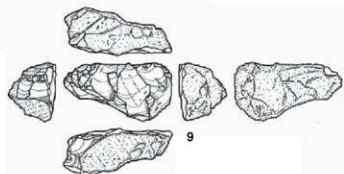
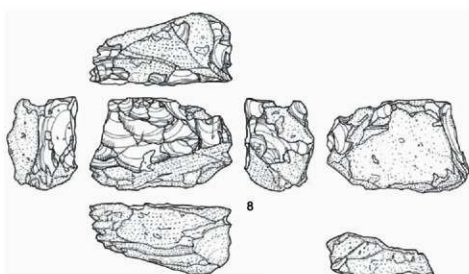
第40図 出土石器実測図① (S=1/2)



第41图 出土石器实测图② (S=1/2)

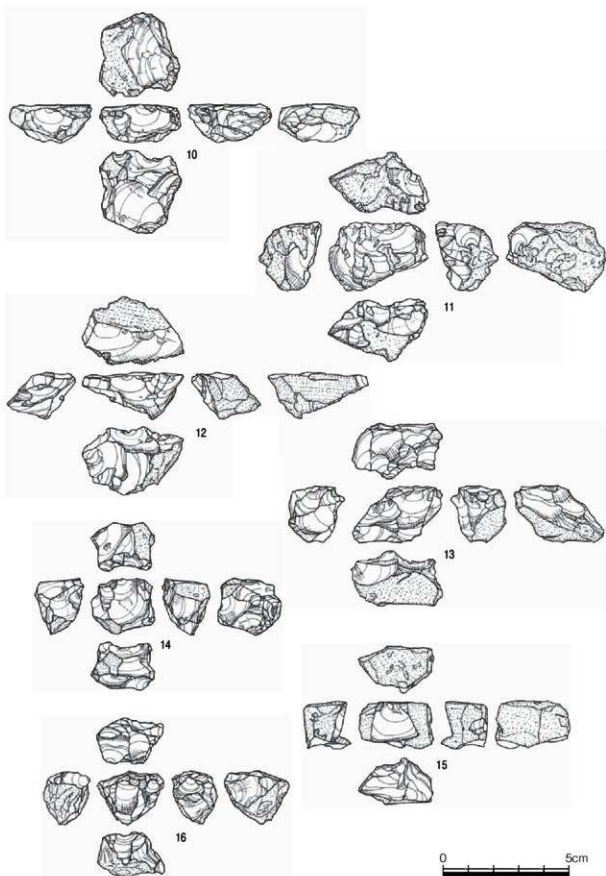


0 5cm

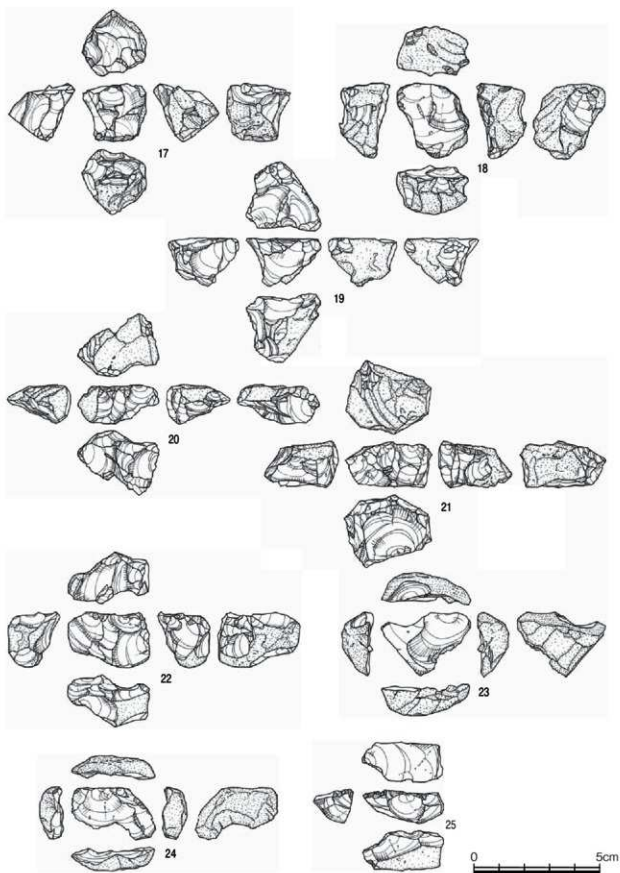


0 5cm

第42図 出土石器実測図③ (6・7 : S=1/2, 8・9 : S=2/3)



第43图 出土石器实测图④ (S=2/3)



第44图 出土石器实测图⑤ (S=2/3)

剥片を作出する。17は自然面、剥離面両方を打面として、打面転換しながら剥離作業を行っている。18は素材の長軸方向に剥離作業を行っている。19は暗青灰色の黒曜石である。20は平坦な自然面から連続的な剥離が行われている。21は不純物の多い黒曜石で、上面から側面をめぐるように剥離作業が行われている。22は多方向からの剥離が認められる。23・24は大きく自然面をとどめており、垂円礫を素材としていることがわかる。どちらも限界まで剥離作業が行われた残骸である。25は剥離面を打面として最終的な剥離が行われている。

26～39はスクレイパーである。26は安山岩製、27～33、35～39はサスカイト製、34は黒曜石製である。

26は片面に大きく自然面を残し、両側縁に連続的な剥離が認められる。27は片面に大きく自然面を残す。裏面は求心的な剥離面に覆われ、一側縁に細かい連続的な調整剥離を入れて刃部となす。28は剥片素材の末端付近を切断し、打点付近に両面から円弧状に調整を行う。29は素材剥片の打点付近と片方の側縁を切断し、もう片方の側縁に両面から調整剥離を施し、刃部は弧状となる。30は縦長の先細りとなる素材剥片の両側縁に主要剥離面側から調整剥離を行う。31は自然面を打面とする縦長剥片素材で、末端にも自然面を施す。右側縁に両面からの調整剥離が認められる。また、左側縁上半にも主要剥離面側からの細かい連続的な剥離が認められ、使用によるものかもしれない。32は縦長剥片素材で、打点付近は切断する。右側縁に主要剥離面側からの連続的な調整剥離が認められる。左側縁の中ほどに挟入するやや大きめの剥離が認められるが、反対側縁が発掘調査時の欠損のため対になるものかはわからない。33はやや小ぶりの縦長剥片を素材としており、両側縁に連続的な剥離が認められる。34は先細りとなる縦長の剥片素材を用いる。一部に自然面を残し、左側縁に主要剥離面側から連続的な調整剥離が行われる。

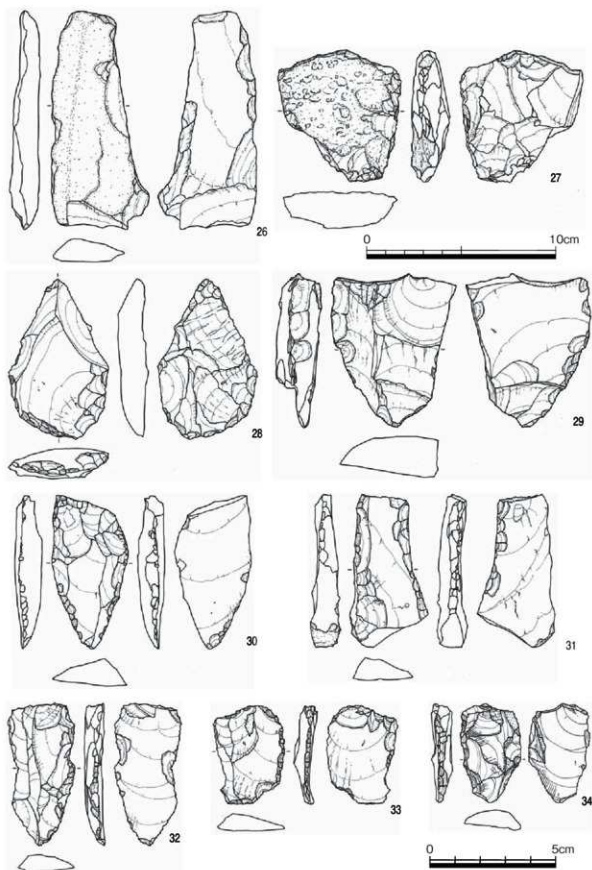
35は厚みがあり片方の側縁に自然面が残る縦長剥片を素材とし、もう片方の側縁に細かい剥離が主要剥離面側から入る。36は打点付近に数度の切断作業を行い、両側縁に主要剥離面側からの調整剥離を施す。片方は90度近くの急角度である。37は横長の剥片の打点付近を除去し、弧状をなす末端部に主要剥離面側から細かい調整剥離を行う。38は幅広の剥片素材の打点付近を除去し、末端部に細かい調整剥離を行う。39は幅広で末端部に自然面を残す剥片素材で、片方の側縁に調整剥離を行う。

40～53は石鏃である。54～58は石鏃未成品である。40、43・44、47、50～52、54～58は黒曜石製、41・42、45・46、53はサスカイト製である。また、49はチャート製である。

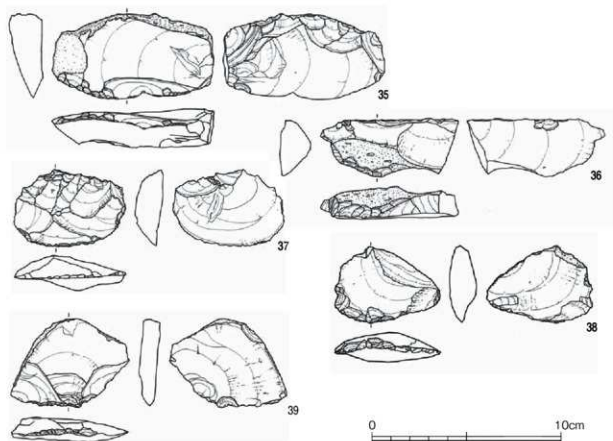
40は平基式のもの、41～48は内湾する基部のもの、49～52は凹基式のものである。49は側縁が鋸歯状である。50はわずかに素材面を残す。51は両側縁に挟入部を作り出す。53は非常に薄手である。54は右側縁に急角度の加工がみられるが、左側縁部・基部付近が薄すぎて製作を途中で断念したものか。55は両側縁に加工が行われるが、基部部分への加工は見られない。あるいは剥片鏃の可能性もある。56は素材面を大きく残し、両側縁部分への加工が行われているが、基部はいびつな形状のまま加工が終わっている。57は両面ともに加工面によって覆われるが、製作途中で欠損したものか。58は素材面を大きく残すが、調整は全周に及んでいる。

59・60は石鏃である。59はサスカイト製、60は黒曜石製である。60の左右の稜線には潰れが観察され、使用によるものと考えられる。

61～84は二次加工剥片もしくは使用によるものと考えられる微細な剥離のある剥片である。いずれ



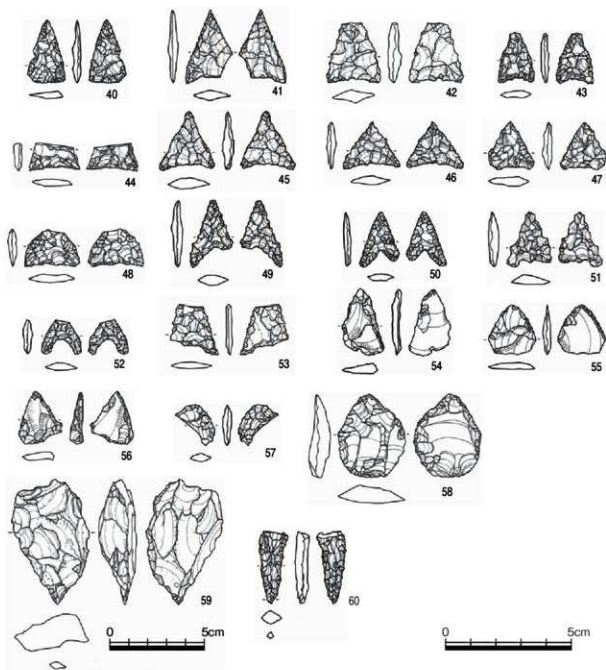
第45図 出土石器実測図⑥ (26~33 : S=1/2, 34 : S=2/3)



第46図 出土石器実測図⑦ (S=1/2)

も黒曜石を素材とする。61は縦長剥片で末端部は切断する。両側面に微細な剥離が連続する。62は「し」字状の縦長剥片で、末端部には自然面を残す。左側面には二次加工とみられる連続的な細かい剥離がみられ、右側面には微細剥離が観察される。63は左側面に自然面を残す縦長剥片で、直線的な右側面に微細剥離が認められる。64は背面に自然面を残す縦長剥片で、微細剥離が左側面の背面側に観察される。65は背面の一部に自然面を残し、右側面背面側に微細剥離が認められる。66は先細りとなる縦長剥片で、右側面の背面側に微細な剥離が連続する。67は細い縦長剥片で自然面を残し、左側面下半に微細剥離が連続する。68は不整形の縦長剥片で周縁に細かい剥離がめぐる。

69は一部に自然面の残る縦長の剥片で、直線的な右側面に微細剥離が連続する。70は不純物の多い剥片で、打点付近から左側面にかけて二次加工とみられる細かい剥離が認められる。71はやや末広がりとなる縦長剥片で、末端部には自然面が残る。両側面に微細な剥離が認められる。72は背面に自然面を残す縦長の剥片で、左側面中ほどに二次加工とみられる細かい剥離が内湾する。73は「し」字状の縦長剥片で、左側面に内湾する急角度の二次加工が施される。74は比較的幅の広い剥片で、両側面から末端部にかけて微細な剥離がめぐる。75は暗灰色の黒曜石で、右側面に微細剥離が連続する。76は左側面のほうに自然面を残し、直線的な右側面に微細な剥離が連続する。77は平坦な自然面を打面とする先細りの剥片で、両側面に微細な剥離が入る。右側面は急角度である。78は暗灰色を呈する黒曜石である。屈曲する左側面に微細剥離が認められる。79は素材剥片の主要剥離面に二次加工の細か



第47图 出土石器实测图⑧ (40~58·60 : S=2/3, 59 : S=1/2)

い剥離が連続する。80は暗灰色の黒曜石で、末端部は切断したものか。両側面に微細な剥離が認められる。81は幅の広い剥片で、打点付近は除去し、左側面に連続して二次加工を施す。また、右側面には微細な剥離が認められる。82は打点付近を除去した剥片で、直線的な末端部に連続的な剥離が認められ、二次加工の可能性がある。83は厚手の横長剥片で、末端部の両端付近に二次加工を施す。84は横長の剥片で左側面に連続する微細剥離が認められる。

85～90は磨製石斧、91は磨製石斧破片の再加工品である。

85は蛇紋岩を素材とするものである。基部付近を欠損する。86は安山岩製で、刃部はややすままる。87は頁岩製で、刃部には使用による欠損が認められる。また、右側縁には研磨面に対して両面からの剥離が施されており、再加工して別器種での使用が行われたか、あるいは磨製石斧の小型化が図られた可能性がある。88は頁岩を素材としており、大きく欠損するがろうじて刃部は残存する。刃部はすままり、円弧状となる。89は頁岩製で、基部の資料である。90は蛇紋岩製の小型品で撥型をなし、刃部はやや弧状となる。91は頁岩が素材で、磨製石斧から欠損した剥片であると考えられる。周縁に二次加工がめぐる。

92～100は打製石斧である。いずれも安山岩が素材である。

92は両面に素材面を残し、短冊形をなすが、基部はややすままる。刃部付近には摩耗が認められる。93はやや刃部が広がり、幅広である。全体的に著しく摩耗が及んでいる。縦方向の線条痕が残る。94は基部を欠損する。やや刃部が広がり、刃部付近は摩耗する。95は片面のみに素材面を残し、刃部は欠損する。96は両面に素材面を大きく残す資料で、非常に薄手である。刃部側を欠損する。97は基部の資料で、両面に素材面を残す。98も基部の資料である。99は刃部と基部を欠損する資料で、両面に摩耗がみられる。100は刃部付近の資料で、扁平な素材を用いている。縦方向の線条痕が観察される。

101は結晶片岩、102～110は安山岩で、打製石斧の製作、刃部再生、使用による欠損によって生じた剥片、破片であると判断した。

111は安山岩を素材とする石皿である。112は安山岩を素材とする台石である。片面には凹部をもつが滑面形成には至っておらず、裏面は平坦である。

113～119は砥石で、うち118・119は有溝のものである。いずれも砂岩を素材としている。

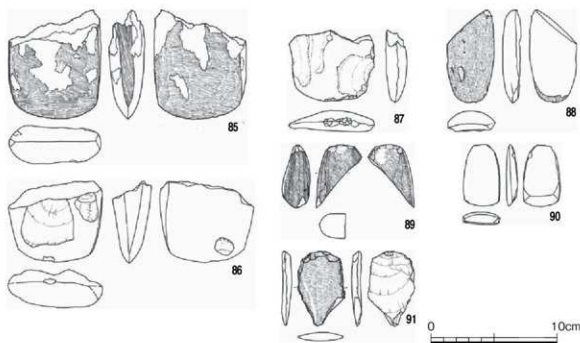
113はきめの細かい砂岩を素材とする。片面だけの研ぎ面である。114は比較的粗い砂粒の砂岩で、裏面は剥落している。115は断面三角の柱状の水磨礫が素材で、各面を研ぎ面として使用したものか。端部には潰痕がみられ、敲石としての使用も考えられる。116・117は片面に研ぎ面が認められる。118は2面を研ぎ面として使用しており、それに重なって数条の溝状の研ぎ面が確認できる。119は亜円礫の用いており、表裏面および側面を研ぎ面として使用しており、さらに2面には溝状の研ぎ面が認められる。

120～144は敲石、磨石の類である。

120は扁平な砂岩の水磨礫で、表裏の平坦面の中央部と側面の1か所に潰痕が集中する。121はきめの細かい砂岩が素材で表裏面に滑面をもつ。表面は中央付近がやや凹むため、リング状の滑面となる。裏面の中央付近には細かい潰痕が認められる。また欠損部には連続的に剥離が並び、稜線上に潰れが観察されることから、欠損後に別用途で利用されたことがうかがわれる。122は安山岩製で、表面には凹部をもち、裏面には粗いが滑面となって平坦面を作る。また、両側面も潰痕によって平坦面を作



第48图 出土石器实测图⑨ (S=2/3)

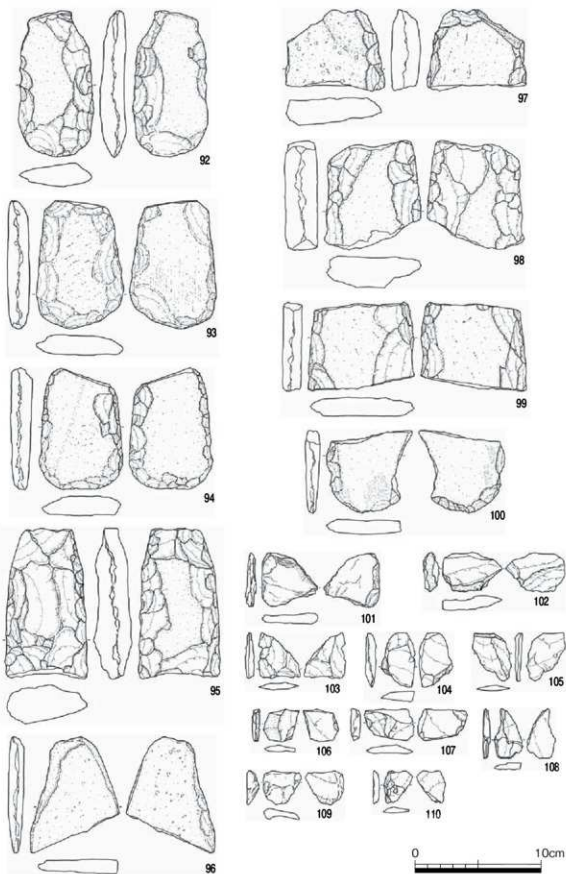


第49図 出土石器実測図⑩ (S=1/3)

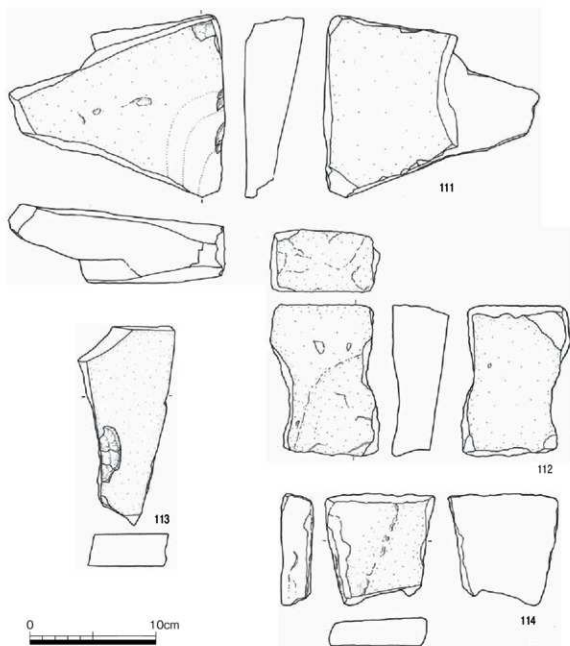
る。123は砂岩を素材とし、磨石から敲石への転用品で、表裏面に磨り面と潰痕をもち、側面には潰痕と欠損剥離がめぐる。124は砂岩製で、割裂した磨石を敲石に転用しており、破断面に潰痕が集中する。125は扁平な安山岩素材の資料で、周囲を潰痕がめぐる。126は安山岩が素材で、表裏面に滑面を有し、側面には潰痕と剥離欠損がめぐる。127は砂岩が素材で、表裏面に凹部を作る。128は安山岩製の磨石で、表裏面に滑面が認められる。129は玉葱状の剥離をみせる砂岩素材の敲石で、表裏面に潰痕が認められる。

130は凝灰岩歪円礫の敲石で、端部に敲打による剥離が残る。131はきめの細かい砂岩の扁平な水磨礫で、長軸方向の両端部に潰痕が集中する。132は石英の円礫で端部に潰痕が認められる。133はきめの細かい砂岩円礫で、端部に潰痕が残る。134は石英の円礫で、側面に帯状に潰痕が認められる。

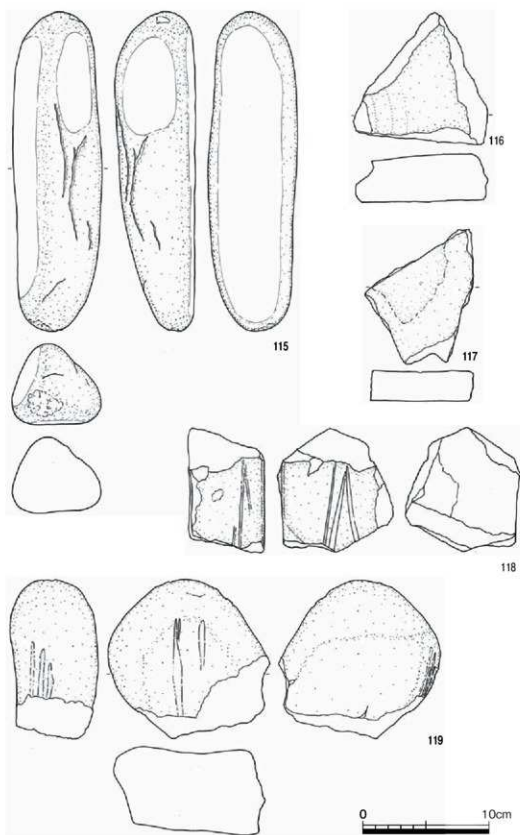
135～144は小型の磨石で、土器の調整・施文具などの用途が想定される資料である。素材は、135～139、142は砂岩、140は安山岩、141・143は頁岩、144は蛇紋岩である。135・136は扁平な形状である。137は表裏面に磨り面が観察される。138は表面右上部に平坦面が認められ、使用によるものか。139・144は全体が滑面により覆われており、光沢を帯びる。



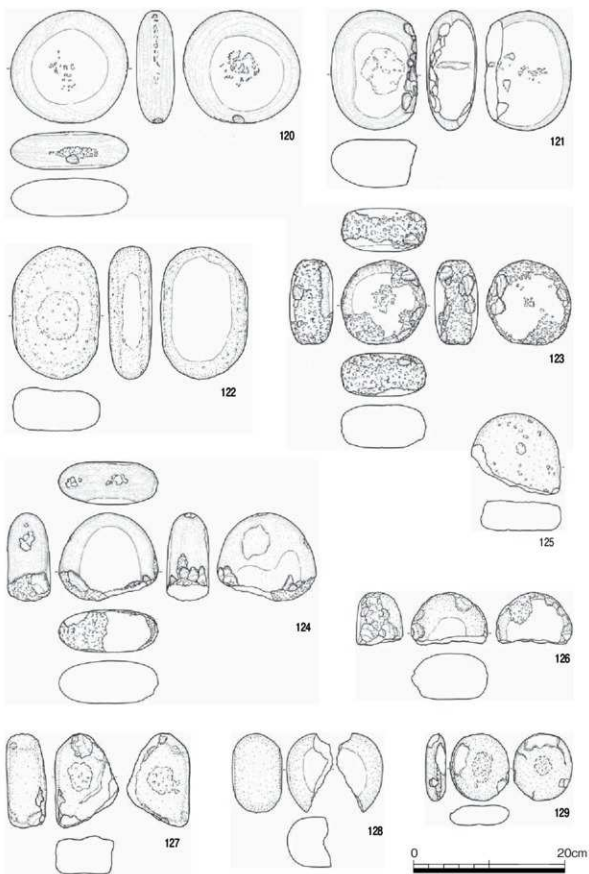
第50图 出土石器实测图① (S=1/3)



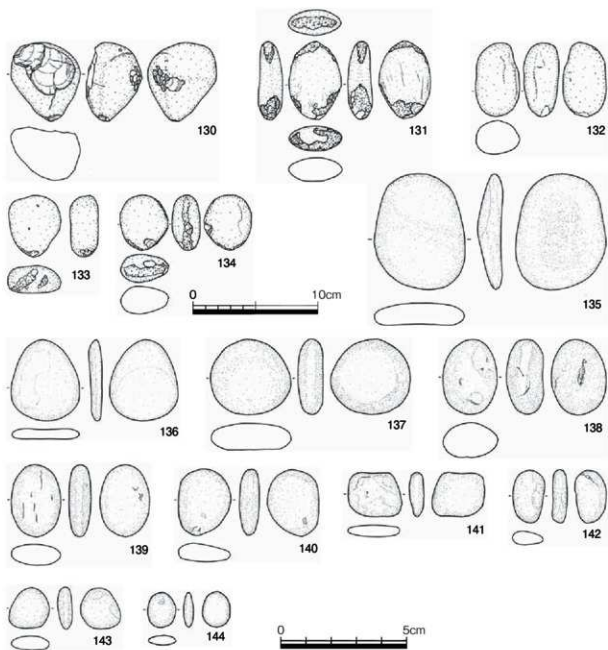
第51图 出土石器实测图⑫ (S=1/3)



第52図 出土石器実測図③ (S=1/3)



第53图 出土石器实测图④ (S=1/5)



第54图 出土石器实测图⑤ (130~134 : S=1/3, 135~144 : S=2/3)

第17表 出土石器観察表①

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
40	1	SNU-04667	原石	黒曜石	T27	Ⅲb	3.3	5.3	4.7	79.1	
	2	SNU-07710	原石	黒曜石	T25	Ⅲb	3.6	6.0	5.4	104.9	
	3	SNU-05555	石核	サヌカイト	M32	Ⅲb	3.3	7.0	6.0	127.4	
41	4	SNU-04865	石核	サヌカイト	T28	Ⅲb	4.9	5.6	4.6	119.4	
	5	SNU-06073	石核	サヌカイト	J33	Ⅲb	6.0	7.6	2.9	119.7	
42	6	SNU-04323	石核	サヌカイト	V25	Ⅲb	4.7	4.9	3.2	67.7	
	7	SNU-01999	石核	サヌカイト	P29	Ⅲa	4.9	5.3	2.9	54.3	
	8	SNU-07289	石核	黒曜石	K31	Ⅲb	3.7	5.7	2.8	53.0	
43	9	SNU-01748	石核	黒曜石	S27	Ⅲa	2.3	4.3	1.9	14.5	
	10	SNU-06246	石核	黒曜石	K32	Ⅲb	1.5	3.3	3.3	16.5	
	11	SNU-06231	石核	黒曜石	K32	Ⅲb	2.8	4.0	2.5	18.9	
	12	SNU-05390	石核	黒曜石	N31	Ⅲb	1.9	4.1	2.7	11.8	
	13	SNU-04630	石核	黒曜石	T27	Ⅲb	2.3	3.6	2.3	11.1	
	14	SNU-05943	石核	黒曜石	L31	Ⅲb	2.2	2.5	2.0	9.5	
	15	SNU-05251	石核	黒曜石	O31	Ⅲb	1.9	3.0	1.9	9.8	
	16	SNU-00422	石核	黒曜石	M31	Ⅲa	2.1	2.7	1.9	8.0	
44	17	SNU-00295	石核	黒曜石	K32	Ⅲa	2.3	2.6	2.6	11.8	
	18	SNU-00851	石核	黒曜石	L33	Ⅲa	3.0	2.8	2.0	12.4	
	19	SNU-02327	石核	黒曜石	V23	Ⅲa	1.9	3.0	2.8	11.7	
	20	SNU-04354	石核	黒曜石	W25	Ⅲb	1.6	3.3	2.5	8.9	
	21	SNU-05468	石核	黒曜石	M32	Ⅲb	1.8	3.4	3.0	15.5	
	22	SNU-04887	石核	黒曜石	T28	Ⅲb	2.2	3.2	2.1	10.5	
	23	SNU-05789	石核	黒曜石	L30	Ⅲb	2.6	3.5	1.3	5.8	
	24	SNU-00135	石核	黒曜石	K32	Ⅲa	2.1	3.3	1.0	4.3	
	25	SNU-01312	石核	黒曜石	J32	Ⅲa	1.6	3.2	1.4	5.2	
	26	SNU-04788	スクレイパー	安山岩	S27	Ⅲb	12.0	3.2	1.6	91.0	
45	27	-	スクレイパー	安山岩	-	北西側壁	7.0	6.5	2.0	89.6	
	28	-	スクレイパー	サヌカイト	S24	Ⅲb	8.5	5.3	1.6	60.8	
	29	SNU-00028	スクレイパー	サヌカイト	K31	Ⅲa	8.1	6.6	2.4	95.0	
	30	-	スクレイパー	安山岩	K31	Ⅱc	8.2	4.1	1.4	41.2	
	31	-	スクレイパー	安山岩	L31	Ⅱc	8.0	4.2	1.7	48.9	
	32	SNU-07994	スクレイパー	サヌカイト	K31	Ⅲb	7.5	3.5	1.2	26.0	
	33	SNU-05409	スクレイパー	サヌカイト	M31	Ⅲb	5.2	3.8	1.2	16.3	
	34	SNU-01183	スクレイパー	黒曜石	M31	Ⅲa	3.9	2.4	0.8	7.2	
	35	SNU-01443	スクレイパー	サヌカイト	K31	Ⅲb	4.5	8.6	2.1	82.0	
	36	SNU-03171	スクレイパー	サヌカイト	Q22	Ⅲa	3.1	7.3	1.8	38.2	
46	37	SNU-07363	スクレイパー	サヌカイト	T26	Ⅲb	4.0	5.9	1.9	31.8	
	38	SNU-04596	スクレイパー	サヌカイト	H29	Ⅲb	4.0	5.6	1.6	27.4	
	39	SNU-06686	スクレイパー	サヌカイト	AB22	Ⅲb	4.7	6.2	1.3	33.1	
47	40	-	石鏃	黒曜石	O31	Ⅱc	2.5	1.5	0.4	1.0	
	41	SNU-06991	石鏃	サヌカイト	T24	Ⅲb	2.9	1.8	0.4	1.4	
	42	SNU-04533	石鏃	サヌカイト	G29	Ⅲb	2.4	2.1	0.6	2.1	
	43	SNU-00793	石鏃	黒曜石	L33	Ⅲa	2.0	1.4	0.3	0.8	
	44	SNU-00282	石鏃	黒曜石	K32	Ⅲa	1.1	2.0	0.3	0.7	
	45	-	石鏃	安山岩	Q30	Ⅱc	2.3	2.2	0.5	1.2	
	46	SNU-08036	石鏃	サヌカイト	T27	Ⅲb	1.9	2.2	0.4	0.9	
	47	SNU-00854	石鏃	黒曜石	L33	Ⅲa	1.9	1.8	0.4	1.0	
	48	SNU-08065	石鏃	黒曜石	P20	Ⅲb	1.5	2.2	0.4	0.9	
	49	SNU-04547	石鏃	チャート	M31	Ⅲa	2.6	1.7	0.4	1.1	石材同定試料1
	50	-	石鏃	黒曜石	Y23	Ⅱc	2.2	1.6	0.3	0.7	

第18表 出土石器観察表②

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
47	51	SNU-06844	石鏃	黒曜石	M31	Ⅱ b	2.2	1.8	0.4	1.1	
	52	-	石鏃	黒曜石	K32	Ⅱ c	1.4	1.6	3.5	0.4	石材測定試料2
	53	SNU-06414	石鏃	サヌカイト	K31	Ⅱ b	2.0	1.9	0.3	0.8	
	54	SNU-06717	石鏃未成品	黒曜石	T28	Ⅱ b	2.6	1.7	0.4	1.3	
	55	SNU-03888	石鏃未成品	黒曜石	AA21	Ⅱ b	2.0	1.9	0.3	1.0	
	56	SNU-05369	石鏃未成品	黒曜石	O31	Ⅱ b	2.1	1.7	0.5	2.0	
	57	SNU-07607	石鏃未成品	黒曜石	Q18	Ⅱ b	1.6	1.6	0.4	0.5	
	58	-	石鏃未成品	黒曜石	R28	Ⅱ	3.3	2.7	1.9	6.3	
	59	SNU-03934	石鏃	サヌカイト	Z22	Ⅱ b	6.1	4.1	2.0	39.5	
	60	SNU-01912	石鏃	黒曜石	U27	Ⅱ a	2.9	1.1	0.6	1.4	
48	61	SNU-05193	微細刺座剥片	黒曜石	O30	Ⅱ b	4.3	2.2	0.8	6.4	
	62	SNU-07564	二次加工・微細刺座剥片	黒曜石	R20	Ⅱ b	4.3	2.3	0.8	5.2	
	63	SNU-07501	微細刺座剥片	黒曜石	P21	Ⅱ b	4.4	2.5	0.4	3.8	
	64	SNU-02887	微細刺座剥片	黒曜石	P20	Ⅱ a	3.4	1.6	0.6	2.3	
	65	SNU-05927	微細刺座剥片	黒曜石	L31	Ⅱ b	4.4	2.1	0.8	5.5	
	66	SNU-05348	微細刺座剥片	黒曜石	N30	Ⅱ b	3.8	2.3	0.8	4.1	
	67	SNU-05027	微細刺座剥片	黒曜石	Q29	Ⅱ b	3.0	1.0	0.6	1.2	
	68	SNU-04087	微細刺座剥片	黒曜石	Y23	Ⅱ b	4.6	3.1	1.2	8.3	
	69	SNU-06727	微細刺座剥片	黒曜石	T28	Ⅱ b	3.4	2.0	0.7	3.3	
	70	SNU-04231	二次加工剥片	黒曜石	W24	Ⅱ b	3.5	2.3	0.9	5.8	
	71	SNU-02810	微細刺座剥片	黒曜石	S24	Ⅱ a	2.6	2.1	0.9	3.3	
	72	SNU-00033	二次加工剥片	黒曜石	K32	Ⅱ a	3.0	2.0	0.6	3.5	
	73	SNU-03974	二次加工剥片	黒曜石	Z22	Ⅱ b	3.1	1.9	0.7	2.3	
	74	SNU-00364	微細刺座剥片	黒曜石	L31	Ⅱ a	3.1	3.0	0.7	4.1	
	75	SNU-04726	微細刺座剥片	黒曜石	T28	Ⅱ b	3.3	2.1	6.0	3.1	石材測定試料3
	76	SNU-00281	微細刺座剥片	黒曜石	K32	Ⅱ a	3.6	1.7	0.7	4.1	
	77	SNU-04318	微細刺座剥片	黒曜石	W25	Ⅱ b	2.9	2.7	1.0	5.1	
	78	SNU-04351	微細刺座剥片	黒曜石	V25	Ⅱ b	2.9	2.6	1.1	5.3	
	79	SNU-01460	二次加工剥片	黒曜石	K31	Ⅱ b	2.7	2.3	7.5	4.2	
	80	SNU-04343	微細刺座剥片	黒曜石	V25	Ⅱ b	2.3	2.0	4.5	2.5	
81	SNU-00005	二次加工・微細刺座剥片	黒曜石	K32	Ⅱ a	2.1	2.9	0.7	4.4		
82	SNU-00330	二次加工剥片	黒曜石	L32	Ⅱ a	2.3	3.0	0.7	2.9		
83	SNU-03750	二次加工剥片	黒曜石	AA21	Ⅱ b	1.6	4.1	1.3	8.7		
84	SNU-00152	微細刺座剥片	黒曜石	J32	Ⅱ a	2.1	3.3	0.8	5.4		
49	85	SNU-07906	磨製石斧	蛇紋岩	T27	Ⅱ b	8.5	7.3	2.8	226.8	
	86	SNU-07517	磨製石斧	安山岩	Q21	Ⅱ b	6.4	7.5	3.1	149.8	
	87	SNU-05413	磨製石斧	頁岩	M31	Ⅱ b	5.6	6.7	1.2	69.3	
	88	SNU-04081	磨製石斧	頁岩	Y22	Ⅱ b	7.3	3.7	1.5	47.2	
	89	SNU-08102	磨製石斧	安山岩	AH11	Ⅱ b	4.9	3.6	2.2	29.7	
	90	SNU-06849	磨製石斧	蛇紋岩	L31	Ⅱ b	4.9	2.9	0.9	23.0	
	91	SNU-07796	スクレイパー	安山岩	M31	Ⅱ b	5.9	3.7	0.8	19.0	
50	92	SNU-03833	打製石斧	安山岩	Y22	Ⅱ b	11.6	6.0	2.1	168.4	
	93	SNU-06988	打製石斧	安山岩	U24	Ⅱ b	10.2	7.0	1.8	190.7	
	94	-	打製石斧	安山岩	2区南隅	-	9.6	6.6	1.8	157.2	
	95	SNU-07546	打製石斧	安山岩	R20	Ⅱ b	11.9	6.6	3.1	299.0	
	96	SNU-04301	打製石斧	安山岩	V24	Ⅱ b	9.2	7.1	1.3	83.4	
	97	SNU-07180	打製石斧	安山岩	S24	Ⅱ b	6.4	7.9	2.4	148.1	
	98	SNU-08109	打製石斧	安山岩	AK11	Ⅱ b	8.6	7.7	2.5	240.2	
	99	SNU-00778	打製石斧	安山岩	JK34	Ⅱ a	7.0	8.4	1.6	149.0	
	100	SNU-08101	打製石斧	安山岩	AF7	Ⅱ b	6.6	6.9	1.2	60.7	

第19表 出土石器観察表③

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
50	101	SNU-08107	網片	結晶片岩	A112	Ⅲb	4.3	4.4	0.9	18.6	
	102	SNU-07695	網片	安山岩	S24	Ⅲb	3.0	4.6	1.2	16.5	
	103	SNU-05474	網片	安山岩	M32	Ⅲb	3.8	3.4	0.7	7.5	
	104	SNU-06462	網片	安山岩	L32	Ⅲb	4.3	2.8	0.9	12.1	
	105	SNU-05579	網片	安山岩	L32	Ⅲb	3.8	3.1	0.6	5.8	
	106	SNU-05552	網片	安山岩	M32	Ⅲb	2.5	2.4	0.6	4.6	
	107	SNU-00987	網片	安山岩	M32	Ⅲa	2.5	3.9	1.2	8.5	
	108	SNU-07976	網片	安山岩	M32	Ⅲb	3.9	2.2	0.6	4.7	
	109	SNU-06718	網片	安山岩	T28	Ⅲb	2.7	3.0	1.0	5.9	
	110	SNU-01062	網片	安山岩	M32	Ⅲa	2.6	2.2	0.5	2.6	
51	111	-	石皿	安山岩	5区南東部	擾乱	14.1	16.8	5.7	2100.0	
	112	SNU-03440	台石	安山岩	AA22	Ⅲb	12.0	8.0	4.9	1030.0	
	113	SNU-00044	台石	砂岩	K31	Ⅲa	15.1	7.2	2.1	443.8	
	114	SNU-03730	台石	砂岩	AA21	Ⅲb	8.6	8.5	2.5	258.7	
52	115	SNU-07722	砥石・砥石	砂岩	W25	Ⅲb	25.3	7.0	6.4	1537.0	
	116	SNU-01910	砥石	砂岩	U27	Ⅲa	10.4	10.6	3.8	438.0	
	117	SNU-06606	砥石	砂岩	Z21	Ⅲb	10.6	8.5	2.9	268.8	
	118	-	砥石	砂岩	-	-	9.6	8.7	6.0	31.2	土境内出土
53	119	SNU-07191	砥石	砂岩	S24	Ⅲb	12.5	12.0	6.9	1354.4	
	120	SNU-07813	砥石	砂岩	L31	Ⅲb	3.3	3.9	4.5	1236.0	
	121	SNU-07741	磨石・砥石	砂岩	J33	Ⅲb	14.1	10.2	5.9	1341.0	
	122	SNU-01405	磨石・砥石	安山岩	J32	Ⅲb	15.6	10.4	5.1	1273.0	
	123	SNU-08078	磨石・砥石	砂岩	Q19	Ⅲb	10.0	10.0	5.1	762.5	
	124	SNU-00384	磨石・砥石	砂岩	L31	Ⅲa	10.4	11.8	5.0	842.5	
	125	SNU-03678	砥石	安山岩	AA22	Ⅲb	9.7	10.5	3.5	410.1	
	126	SNU-01626	砥石	安山岩	R29	Ⅲa	6.2	9.0	5.5	401.5	
	127	SNU-04031	砥石	砂岩	Z21	Ⅲb	11.1	7.5	4.8	495.0	
	128	-	磨石	安山岩	3区	擾乱	9.3	5.1	6.0	355.4	
54	129	SNU-06688	砥石	安山岩	AB21	Ⅲb	8.0	6.9	2.4	171.4	
	130	SNU-05386	砥石	頁岩	N31	Ⅲb	6.2	5.5	4.4	172.3	
	131	SNU-02852	砥石	砂岩	U24	Ⅲa	6.2	4.2	2.0	57.8	
	132	SNU-04054	砥石	石英	Z21	Ⅲb	5.9	3.5	2.8	80.8	
	133	SNU-05070	砥石	砂岩	U28	Ⅲb	4.8	4.1	2.2	49.3	
	134	SNU-05434	砥石	石英	N31	Ⅲb	4.4	3.8	2.2	47.2	
	135	SNU-07810	磨石	安山岩	E26	Ⅲb	4.6	3.6	1.0	23.4	
	136	SNU-04148	磨石	砂岩	X24	Ⅲb	3.2	2.7	0.5	6.6	
	137	SNU-06316	磨石	砂岩	K32	Ⅲb	3.0	3.2	1.0	14.6	
	138	SNU-00154	磨石	砂岩	J32	Ⅲa	3.0	2.2	1.5	13.7	
	139	-	磨石	砂岩	-	塚土	2.9	2.0	0.9	7.9	
	140	SNU-05836	磨石	安山岩	L31	Ⅲb	2.6	2.1	0.8	5.1	
	141	SNU-04312	磨石	頁岩	W26	Ⅲb	1.8	2.1	0.6	3.1	
	142	SNU-07636	磨石	砂岩	U24	Ⅲb	2.1	1.3	0.6	2.0	
	143	SNU-04290	磨石	頁岩	W24	Ⅲb	1.6	1.6	0.6	2.0	
	144	-	磨石	純鉄岩	4区北西部	塚	1.4	1.1	0.4	1.0	

第IV章 自然科学分析

株式会社古環境研究所

1 放射性炭素年代測定

(1) はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌さらには土器附着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村, 2003)。

今回の分析調査では、諏訪ノ上遺跡の発掘調査で出土した土器の年代に関する情報を得る目的で、放射性炭素年代測定を実施した。

(2) 試料

試料は、土器附着炭化物13点である。試料の詳細を第20表に示す。

第20表 測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細	試料の種類	前処理・調整	測定法
1	5区 側木痕内	土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
2	Z21	Ⅲ b 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
3	K31・L31	Ⅲ a 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
4	K31	Ⅲ b 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
5	5区南東部 攪乱	土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
6	Z22	Ⅲ b 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
7	Q30	Ⅲ a 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
8	O30	Ⅲ a 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
9	N31	Ⅲ b 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
10	K31	Ⅲ b 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
11	AA21	Ⅲ c 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS
12	S24	Ⅲ a 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AAA)	AMS
13	V26	Ⅲ b 層 土器附着炭化物 (外面)	酸-アルカリ-酸処理 (AaA)	AMS

※AMS(Accelerator Mass Spectrometry)は加速器質量分析法

(3) 方法

試料の附着物を取り除いた後、酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と結果表に記載する。

化学処理後の試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させ、真空ラインで二酸化炭素を精製する。精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に

装着する。

測定方法は、加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)、¹³C濃度(¹³C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOX II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である。

¹⁴C年代(Libby Age_{yrBP})は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach, 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を結果表に示す。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al., 2013)を用い、OxCal4.3較正プログラム(Bronk Ramsey, 2009)を使用する。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」・「cal BP」という単位で表される。

(4) 結果

年代測定および暦年較正結果の一覧を第21表、各試料の暦年較正結果を第55・56図に示す。

今年代測定を実施した土器付着炭化物の年代値(補正年代)は、2,690 \pm 30yrBP(試料番号13)~2,490 \pm 30yrBP(試料番号10)の年代範囲に収まる。200年の年代幅があるが、誤差も含めて考えれば、最少で140年と比較的短い時間幅である。

(5) 所見

試料番号1の年代値は、2,610 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で816cal BC-774cal BC)を示した。試料番号2の年代値は、2,550 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で801cal BC-746cal BC, 686cal BC-666cal BC, 643cal BC-553cal BC)を示した。試料番号3の年代値は、2,530 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で795cal BC-735cal BC, 689cal BC-662cal BC, 648cal BC-546cal BC)を示した。試料番号4の年代値は、2,540 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で796cal BC-739cal BC, 688cal BC-663cal BC, 646cal BC-548cal BC)を示した。試料番号5の年代値は、2,540 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で796cal BC-739cal BC, 688cal BC-663cal BC, 646cal BC-548cal BC)を示した。試料番号6の年代値は、2,620 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で826cal BC-778cal BC)を示した。試料番号7の年代値は、2,500 \pm 30yrBP(2 σ 暦年較正年代で776cal BC-537cal BC)を示した。試料番号8の年代値は、2,540 \pm 30yrBP(2 σ 暦

年較正年代で798cal BC-745cal BC, 686cal BC-666cal BC, 644cal BC-552cal BC)を示した。試料番号9の年代値は、 $2,640 \pm 30$ yrBP (2 σ 暦年較正年代で835cal BC-790cal BC)を示した。試料番号10の年代値は、 $2,490 \pm 30$ yrBP (2 σ 暦年較正年代で773cal BC-519cal BC)で、今回測定した試料の中で最も新しい年代を示した。試料番号11の年代値は、 $2,680 \pm 30$ yrBP (2 σ 暦年較正年代で895cal BC-866cal BC, 860cal BC-800cal BC)を示した。試料番号12の年代値は、 $2,630 \pm 30$ yrBP (2 σ 暦年較正年代で831cal BC-790cal BC)を示した。試料番号13の年代値は、 $2,690 \pm 30$ yrBP (2 σ 暦年較正年代で896cal BC-806cal BC)で、今回測定した試料の中で最も古い年代を示した。

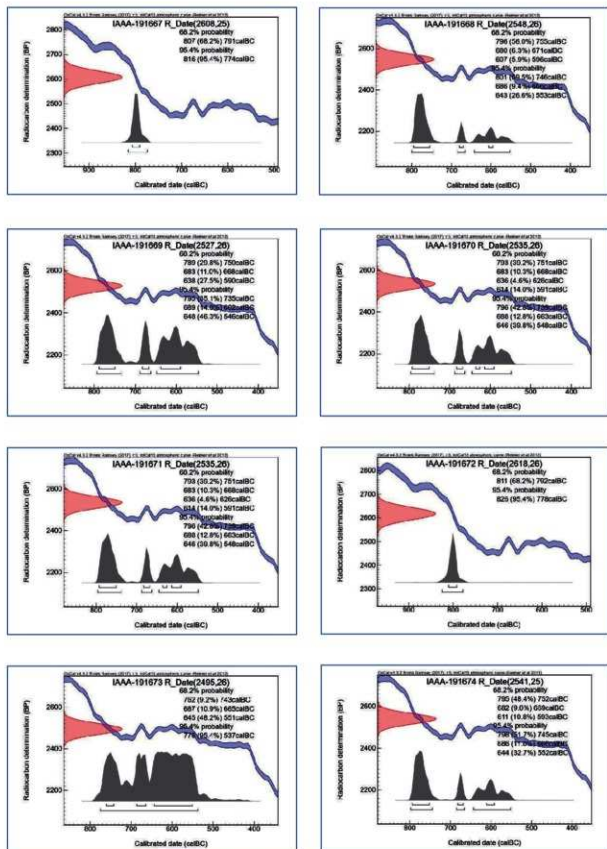
第21表 測定結果

試料 番号	測定地 (IAAA-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代 (年 BP)	^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (西暦)	
					1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
1	191667	-24.98 ± 0.22	2608 ± 25	2610 ± 30	807cal BC - 791cal BC (68.2%)	816cal BC - 774cal BC (95.4%)
					796cal BC - 755cal BC (56.0%)	801cal BC - 746cal BC (59.5%)
2	191668	-24.74 ± 0.23	2548 ± 26	2550 ± 30	680cal BC - 671cal BC (6.3%)	686cal BC - 666cal BC (9.4%)
					607cal BC - 596cal BC (5.9%)	643cal BC - 553cal BC (26.6%)
3	191669	-25.08 ± 0.22	2527 ± 26	2530 ± 30	789cal BC - 750cal BC (29.8%)	795cal BC - 735cal BC (35.1%)
					683cal BC - 668cal BC (11.0%)	689cal BC - 662cal BC (14.0%)
4	191670	-25.05 ± 0.25	2535 ± 26	2540 ± 30	638cal BC - 590cal BC (27.5%)	648cal BC - 546cal BC (46.3%)
					793cal BC - 751cal BC (39.2%)	796cal BC - 739cal BC (42.8%)
5	191671	-26.29 ± 0.23	2535 ± 26	2540 ± 30	683cal BC - 668cal BC (10.3%)	688cal BC - 663cal BC (12.8%)
					636cal BC - 626cal BC (4.6%)	646cal BC - 548cal BC (39.8%)
6	191672	-23.99 ± 0.22	2618 ± 26	2620 ± 30	811cal BC - 792cal BC (68.2%)	826cal BC - 778cal BC (95.4%)
					762cal BC - 743cal BC (9.2%)	
7	191673	-25.90 ± 0.23	2495 ± 26	2500 ± 30	687cal BC - 665cal BC (10.9%)	776cal BC - 537cal BC (95.4%)
					645cal BC - 551cal BC (48.2%)	
8	191674	-26.21 ± 0.24	2541 ± 25	2540 ± 30	795cal BC - 752cal BC (48.4%)	798cal BC - 745cal BC (51.7%)
					682cal BC - 669cal BC (9.0%)	686cal BC - 666cal BC (11.0%)
9	191675	-23.13 ± 0.26	2636 ± 26	2640 ± 30	611cal BC - 593cal BC (10.8%)	644cal BC - 552cal BC (32.7%)
					818cal BC - 797cal BC (68.2%)	835cal BC - 790cal BC (95.4%)
10	191676	-24.61 ± 0.25	2488 ± 26	2490 ± 30	757cal BC - 735cal BC (10.4%)	773cal BC - 519cal BC (95.4%)
					689cal BC - 679cal BC (4.6%)	
11	191677	-19.32 ± 0.26	2675 ± 25	2680 ± 30	672cal BC - 663cal BC (4.4%)	895cal BC - 866cal BC (13.7%)
					648cal BC - 546cal BC (48.7%)	860cal BC - 800cal BC (81.7%)
12	191678	-23.46 ± 0.25	2631 ± 25	2630 ± 30	838cal BC - 805cal BC (68.2%)	831cal BC - 790cal BC (95.4%)
					814cal BC - 796cal BC (68.2%)	
13	191679	-23.05 ± 0.23	2689 ± 26	2690 ± 30	892cal BC - 878cal BC (11.8%)	896cal BC - 806cal BC (95.4%)
					846cal BC - 808cal BC (56.4%)	

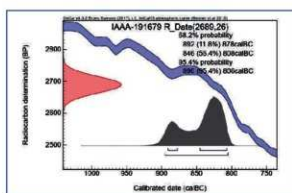
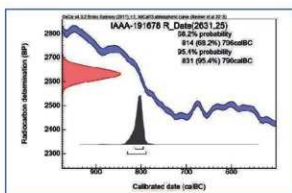
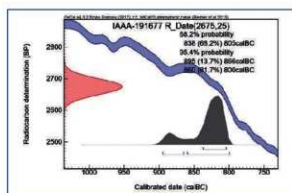
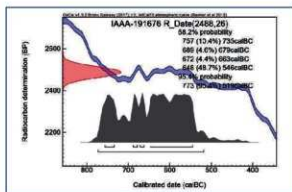
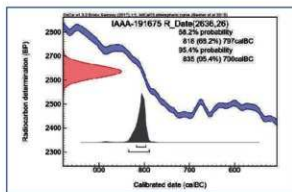
BP: Before Physics (Present), BC: 紀元前

【参考文献】

- Bronk Ramsey, C., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), p. 337-360.
 中村俊夫, 2003, 放射性炭素年代測定法と暦年代較正. 環境考古学マニュアル, 同成社, p. 301-322.
 Reimer, P.J, et al., 2013, IntCal 13 and Marine 13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), p. 1869-1887.
 Stuiver, M. and Polach, H.A., 1977, Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363.



第55図 暦年較正年代グラフ①



第56図 暦年較正年代グラフ②



試料番号 1 (135)



試料番号 2 (45)



試料番号 3 (47)

写真 1 藤訪ノ上遺跡出土土器①



試料番号 4 (49)



試料番号 5 (175)



試料番号 6 (171)



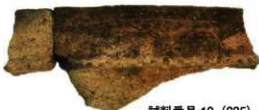
試料番号 7 (112)



試料番号 8 (129)



試料番号 9 (252)



試料番号 10 (235)



試料番号 11 (409)



試料番号 12 (339)



試料番号 13 (446)

写真2 諏訪ノ上遺跡出土土器②

2 石材同定

(1) はじめに

本報告では、南島原市深江町に所在する諏訪ノ上遺跡から出土した石器について、肉眼鑑定ならびに蛍光X線分析を実施し、岩種の同定を行った。

(2) 試料

試料は、諏訪ノ上より出土・採取された石器3点である。試料の詳細を結果表第23表に、試料の写真写真3に示す。

(3) 方法

1) 肉眼鑑定

肉眼ならびに20倍の実体顕微鏡で観察した。また、同定精度を高めるために石器の比重も計測した。なお、比重値は小数点以下1位の場合と2位の場合があるが、これは有効数字を考慮した結果である。

2) 蛍光X線分析

分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム(Rh)ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)であるが、ナトリウム、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)といった軽元素は、蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV(一次フィルタ無し)・50kV(一次フィルタPb測定用・Cd測定用)の計3条件で、測定時間は各条件500～1000s、管電流自動設定、照射径8mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

(4) 結果

蛍光X線分析(半定量分析)の結果を第22表に、石材同定の結果を第23表に示す。なお、委託番号2、3は肉眼鑑定で黒曜石と判定されたことから、蛍光X線分析は実施していない。

第22表 半定量分析結果 (mass%)

委託番号	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	BaO
1	0.36	4.60	93.20	0.27	0.22	0.43	0.25	0.10	0.01	0.54	0.02

蛍光X線分析の結果、マグネシウム(MgO)、アルミニウム(Al₂O₃)、ケイ素(SiO₂)、リン(P₂O₅)、硫黄(SO₃)、カリウム(K₂O)、カルシウム(CaO)、チタン(TiO₂)、マンガン(MnO)、鉄(Fe₂O₃)、バリウム(BaO)が検出された。

第23表 諏訪ノ上遺跡出土石器

委託番号	取上番号	器種	判定岩石名	重量	浮力	比重	判定基準	備考
1	SNU-0457	石鏃	チャート	1.06	0.40	2.7	極めて細粒緻密で、曇ガラス様質感を呈し、比重が2.7であることからチャートと判定	
2	-	石鏃	黒曜石	0.47	1.29	2.36	明瞭な火山ガラスで、比重が2.36であることから黒曜石と判定。黒みが弱く、透明感も弱い。中に黒雲母・斜長石の微晶が多く認められる。姫島観音崎産に類似する。	外観からは同一産地と推定される
3	SNU-04736	剥片	黒曜石	3.05	0.20	2.4	明瞭な火山ガラスで、比重が2.36であることから黒曜石と判定。黒みが弱く、透明感も弱い。中に黒雲母・斜長石の微晶が多く認められる。姫島観音崎産に類似する。	

(5) 考察

- 1) 委託番号1：極めて細粒緻密で、曇ガラス様質感を呈する。比重が2.7であり、ケイ素 (SiO₂) が約93%と組成のほとんどを占めることから、チャートと判定される。
- 2) 委託番号2・3：明瞭な火山ガラスで、比重が2.36であることから、黒曜石と判定される。黒みが弱く、透明感も弱い。石器中に黒雲母・斜長石の微晶が多く認められることから、姫島観音崎産に類似するが、詳細は元素分析を実施して判別図法により産地を推定する。

3 黒曜石製石器の産地推定 (補足)

(1) はじめに

南島原市深江町に所在する諏訪ノ上遺跡から出土した黒曜石製石鏃と剥片について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、原産地を推定した。

(2) 試料と方法

分析対象は、諏訪ノ上遺跡より出土した黒曜石製石鏃1点(委託番号2)と剥片1点(委託番号3)である(表1)。測定前にメラミンフォーム製のスポンジと精製水を用いて、試料の表面を洗浄した。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム (Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計7元素のX線強度 (cps: count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb 分率 = $Rb \text{ 強度} * 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) Sr 分率 = $Sr \text{ 強度} * 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) Mn 強度 * 100 / Fe 強度

第24表 分析対象一覧

委託番号	取上番号	グリッド	層位	器種
2	-	K32	II c層	石鏃
3	SNU-04736	T28	III b層	剥片

4) log (Fe 強度/K 強度)

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図(横軸 Rb 分率-縦軸 Mn 強度×100/Fe 強度の判別図と横軸 Sr 分率-縦軸 log (Fe 強度/K 強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと石器のデータを照合して、産地を推定する方法である。この方法は、できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して

第25表 西日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群	原石採取地(点数)
鳥根	隠岐	久見	久見パーライト中(6)、久見採掘現場(5)
		箕浦	箕浦海岸(3)、加茂(4)、岸浜(3)
大分	佐賀	姫島	姫島20
		腰岳	二ノ瀬(8)
長崎	佐世保	淀姫	淀姫神社30
熊本	鹿兒島	球磨	白浜
		人吉	桑ノ木
鹿兒島	鹿兒島	大口	日東
		市来	市来
		鹿見島	三船
		垂水	小浜
		錦江	長谷

非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log (Fe 強度/K 強度)の値が減少する(望月, 1999)。試料の測定面にはなるべく平滑な面を選んだ。

原石試料も、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、分析対象の石器と同様の条件で測定した。第25表に各原石の採取地とそれぞれの試料点数を示す。

(3) 分析結果

第26表に石鉄の測定値および算出された指標値を、第57図と第58図に、日本列島西部における黒曜石原石の判別図に石鉄の分析結果をプロットした図を示す。なお、両図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。分析の結果、2点とも互いに近い位置にプロットされ、同一産地の黒曜石の可能性が高いとみられるが、第25表に示した各原石の判別群とは一致しなかった。しかし、1点のみではあるが佐世保市の針尾島南部にある古里海岸で採取された黒曜石原石を所持しており、今回分析した石器2点は、この古里海岸の黒曜石原石の測定値に近い位置にプロットされた。原石が1点しかないものの、古里海岸で採取された原石と同一の判別群に属すると推定される。ここでは、仮に古里海岸群と呼称する。第26表に産地推定結果を示す。

第26表 測定値および産地推定結果

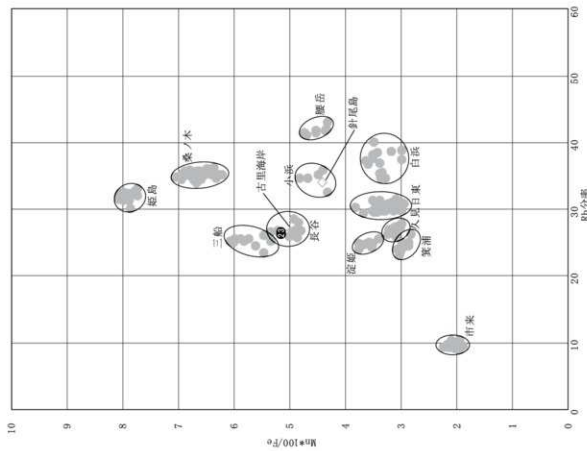
委託番号	K 強度 (cps)	Mn 強度 (cps)	Fe 強度 (cps)	Rb 強度 (cps)	Sr 強度 (cps)	Y 強度 (cps)	Zr 強度 (cps)	Rb 分率	Mn*100/Fe	Sr 分率	log Fe/K	判別群	エリア
2	200.3	76.9	1495.1	566.7	797.4	216.8	570.5	26.34	5.15	37.06	0.87	(古里海岸)	佐世保
3	243.8	91.2	1770.7	673.9	937.6	252.3	670.3	26.59	5.15	37.00	0.86	(古里海岸)	佐世保

(4) まとめ

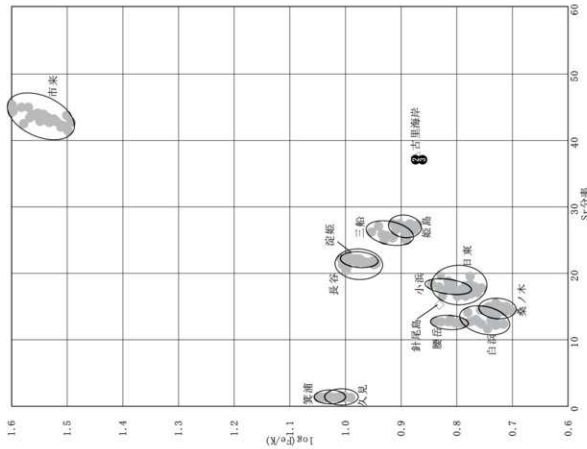
諏訪ノ上遺跡より出土した黒曜石製石器2点について、蛍光 X 線分析を用いた判別図法による産地推定を行った結果、いずれも佐世保エリア産と推定された。

[引用文献]

望月明彦 (1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 上和田城山遺跡篇一」:172-179。大和市教育委員会。



第57図 黒曜石産地推定判別図①



第58図 黒曜石産地推定判別図②



委託番号 1 (49)



委託番号 2 (52)



委託番号 3 (75)

写真 3 諏訪ノ上遺跡出土石器

第V章 まとめ

諏訪ノ上遺跡の立地的特徴

雲仙火山の東斜面に広がる深江町域の地質的特徴は、「深江原（ふかえばら）」と呼ばれる火山性の扇状地が大部分を占めていることである。扇状地の土台をなすのは、雲仙火山の噴火活動に伴って発生したと考えられる土石流の厚い堆積物（Ⅶ層）である。扇状地は、北縁に水無川が、南縁に深江川が走り、扇端部は東の有明海（島原湾）へと向かって延びる。文字通り水無川は、降雨の時以外普段地表を水が流れることはなく、生活水源としての機能は果たさない。深江川にはいくつかの小河川が合流している。

土石流による厚い砂礫堆積の存在は、深江町域における湧水点の分布に大きな影響を与えている。極めて水はけのよい土石流堆積物は、扇中央部において地表面への湧水点を作らない。深江町域で水源を求めるとすれば、基本的に雲仙火山の山体部から東麓への傾斜変換点、扇状地南縁の深江川流域一帯、そして海岸近くの扇端部一帯、以上の大きく三つのエリアに分けてとらえることが可能である。そして、深江町域の遺跡はこれら三つのうちのいずれかを生活の基盤として展開していたといえる。

そうしたなかで、標高約35mにある諏訪ノ上遺跡の立地は、海岸沿いの扇端部における水源を基盤として展開する遺跡群に含まれる。遺跡から現在の海岸までの距離は約550mで、深江小・中学校を間にはさんで100mほど下った諏訪神社には現在も湧水がみられる。

深江町域Ⅶ層についての新知見

今回の諏訪ノ上遺跡における発掘調査は、弥生時代初頭の主要な遺物包含層と判断されたⅢ層の掘削を主体に進めた。しかしその過程で、平成27年度の本調査においては、近世以降の造営と考えられる性格不明の大型遺構を検出するに至った。大型遺構は、区画壁をもっていて複数の小部屋が認められ、おそらくは天井面も存在したと推測されるものであったが、「深江原」扇状地の土台となっているⅦ層の砂礫層を深く掘りこんだ構造となっていた。このことは、当初の調査計画においては見込んでいなかった偶発的なものではあったが、考古学的な成果としてだけでなく、火山学的にも非常に大きな知見が得られたといえる。

諏訪ノ上遺跡の不明大型遺構が掘り込まれたⅦ層は、深江原一帯で実施してきた過去の各所での発掘調査においても確認しており、土石流堆積物であることが判明していた。また、このⅦ層よりも上位の土層から出土する遺物が縄文時代早期以降のものに限定され、旧石器時代の遺物の出土が深江町域で皆無であることから、Ⅶ層は時期的には旧石器時代末期から縄文時代初頭において発生した土石流の堆積物であると判断してきた。そしてさらに、深江町域を覆うほどの大規模な土石流であるので、その発生は雲仙火山の噴火活動に起因するものであろうと推測してきた。

しかしながら、これまでの過去の発掘調査で下層確認のために幾度かⅦ層の掘削を試みているものの、Ⅶ層は固結の進行した砂礫層であるがゆえに人力での掘削には限界があり、ツルハンなどを使ってもせいぜい数十cmの深さでしか堆積状況を把握できていなかった。よって、明確に土石流の発生要因を突き止めるには至っていなかったのである。

そのような状況のなか、不明大型遺構はⅦ層に1.5mもの深度で掘削が及んでおり、過去の発掘調

査では確認できていなかったⅤ層のより深い部分の堆積状況が、幸運にもその遺構壁面において確認できた。また、大型遺構の床面にトレンチを設定してそこからさらに約1mの掘削を行い、より下位の部分の堆積状況についても確認することができた。

結果、遺構壁面には水成の砂礫堆積の痕跡が明瞭に観察され、火山灰と砂礫の互層も確認された。また、Ⅴ層の堆積上面から約1.5m下がったところでは砂礫を含まない純粋な約10cmの厚さの火山灰層を検出した。さらにそれより下位では、砂礫層や火山灰層が一部土壌を含みながら幾重にも堆積している状況が観察された。これにより、「深江原」扇状地の土台を形成したⅤ層の堆積が雲仙火山の噴火活動とそれに伴う土石流の断続的な発生によるものであることが明らかになったと考える。



不明大型遺構内Ⅴ層堆積状況

水成堆積をみせるⅤ層

火山灰検出状況(床面トレンチ)

諏訪ノ上遺跡の出土遺物の分析

今回の諏訪ノ上遺跡の発掘調査において検出した遺構としては、溝や不明大型遺構などおもに近世以降のものが多くみられるものの、出土遺物の主体である突帯文期に伴うと考えられる遺構は非常に少ない。こうした遺物の出土量に対して遺構が少ないという状況は、深江町域における縄文時代晩期から突帯文期の遺跡、例えば権現脇遺跡などにおいても認められる事象で、これが当時の土地利用のあり方をそのまま反映したもののか、あるいは火山灰質土壌の経年的色調変化などが要因となって遺構を捉えづらいといったようなことがあるのかなど判然としない部分もあり、今後の課題としておきたい。

さて、Ⅲa層及びⅢb層から出土した遺物については、出土地点の観測を行っており、観測総数は8,100点である。自然礫や土塊、混入とみられる現代物などを除くと8,009点を数える。この8,009点の内訳についてみてみる。土器・土製品が6,747点(84.2%)、陶磁器が5点(0.06%)、石器が1,256点(15.7%)、鉄滓が1点(0.01%)で、数量的には土器・土製品と石器で全体の99.6%を占める。層位的な出土状況としては、Ⅲa層出土のもの3,405点(42.5%)、Ⅲb層出土のもの4,604点(57.5%)とおおよそ4対6の割合での出土である。

第27表 諏訪ノ上遺跡遺物内訳

種別	Ⅲa層	Ⅲb層	総計
土器・土製品	2,888	3,859	6,747
陶磁器	4	1	5
石器	512	744	1,256
鉄滓	1		1
総計	3,405	4,604	8,009

土器・土製品・陶磁器についてみてみる。6,747点中、縄文時代後期から突帯文期にかけての時期

である2・3群^{III}に含まれるものが6,700点(99.3%)である。ただ、全体の出土遺物を見渡せば、弥生時代中期から古墳時代にかけての資料や中世の遺物も若干ではあるがみられ、深江町域における周辺遺跡での出土傾向も勘案して、Ⅲa層の包含する遺物の時期的な下限は、中世期までは下る可能性が高いことは押さえておきたい。

それでは、出土遺物の中心となるⅢa層及びⅢb層出土の2・3群の土器について、時期別にみていきたい。2群(縄文時代後期)のものとして明確に比定できる資料は、非常に少ない。口縁部の肥厚する深鉢口縁部の資料(第18図3~6)やタガ状口縁の資料(同図7・8)

があり、あとは一応3群に含めて報告したが、底部資料として第5図185~188、第26図233・234の鉢や、第32図474・475の浅鉢がさかのぼる可能性があるくらいである。

次に、3群(縄文時代晩期及び突帯文期)の資料についてである。縄文時代晩期の資料については、第19図22~34のような大きく口縁部の開く深鉢[権現脇深鉢D類]の資料がある。おそらくこれらの資料は肩部を作るか、胴部でS字状にゆるく屈曲して口縁部へと至り、場合によっては蝶ネクタイ状などの粘土塊貼付文をもったり、口縁部から胴部の上位にかけて間隔の広い平行沈線や弧状の沈線文を施したりするものとする。第19図37・38も間隔の広い平行沈線文をもつ資料である可能性がある。全体からすると数量はさほどない。精製浅鉢の資料としては、第27図257・258のような頸部が大きく開いて口縁部が短く立ち上がる資料[権現脇浅鉢A類]が見られる。ボウル形・洗面器形の粗製浅鉢[権現脇浅鉢L類]と型取り成型によって製作された組織痕のある粗製浅鉢[権現脇浅鉢M類]もこの時期の遺跡において一般的にみられる器種ではあるので、いくらかは含んでいる可能性がある。ただ、先述した深鉢、精製浅鉢の出土数量を考え合わせれば、多くは突帯文期に属するもので、当該期のものは多くないと考える。

そして、主体を占める突帯文期の資料である。刻目突帯をもつ甕[権現脇深鉢E類]の資料は、485点を数える。Ⅲa層出土のものが224点(46.2%)、Ⅲb層出土のものが261点(53.8%)とほぼ半数ずつの構成となっている。その他、多くの粗製土器片も突帯文土器甕[権現脇深鉢E類]の胴部資料であると思われる。

刻目の種類についてみてみよう。指先によって刻むもの153点(31.5%)、棒状工具の側面を押しあてて、あるいはそれを引き上げるようにして刻むもの163点(33.6%)、ヘラ状工具によって切るように刻むもの110点(22.7%)があり、この3種で全体の87.8%を占める。ほかに棒状工具の小口によって刺突するもの、二枚貝の貝殻股縁によるもの、口縁部突帯と胴部突帯とで刻目の種類が違うものがある。

刻目主要3種の層別別の比率は、指先による刻目がⅢa層38.6%、Ⅲb層61.4%、棒状工具の側

第28表 2・3群土器器種別内訳

土器分類	Ⅲa層	Ⅲb層	総計
深鉢(削目突帯土器甕含む)	1,345	1,503	2,848
鉢	5	20	25
浅鉢	976	1,548	2,524
釜	525	752	1,277
高坏・脚台付土器	8	13	21
土製品	2	3	5
総計	2,861	3,839	6,700

第29表 刻目突帯文土器(甕) 刻目種類別内訳

刻目種類	Ⅲa層	Ⅲb層	総計
指	59	94	153
棒状工具	78	85	163
ヘラ状工具	51	59	110
工具小口刺突	11	6	17
貝殻股縁		2	2
貝殻底併用		2	2
不明	25	13	38
総計	224	261	485

面による刻目がⅢ a層47.9%、Ⅲ b層52.1%、ヘラ状工具による刻目がⅢ a層46.4%、Ⅲ b層53.6%となっている。棒状工具刻みとヘラ状工具刻みのものが近似値を示すとともに、2者は指刻みのものに対してⅢ a層出土の比率が高い。このことは棒状工具とヘラ状工具による刻目が施された資料の中に指による刻目のものより時期的に新しい段階のものが一定数含まれることを示していると考えられる。そして、この新しい時期のものとして、棒状工具によるものでは第22図122、125、128、130、131を、ヘラ状工具によるものでは第23図135、154~157、165、174をあけておきたい。特徴としては、器壁が比較的薄手で、突帯は細く、刻目が細かく刻まれる、さらに口縁部の突帯は口唇部に接して貼りつけられている、胴部の屈曲は不明瞭でゆるいといった点があげられる。

一方、第23図135（年代測定試料1）や同171（年代測定試料6）についても、細い突帯と細かい刻目の特徴から諏訪ノ上遺跡の突帯文土器の中では新しい部類に入ること想定していたが、放射性年代測定の結果からはむしろ分析を行った他の試料より古い測定値が得られており、135の屈曲の強さや口縁部突帯の貼りつけ位置、171の外面に残る貝殻条痕調整といった特徴が、諏訪ノ上遺跡における突帯文土器の中での位置づけでは古相として評価できるのかもしれない。

突帯文土器に伴うものとして、まず第27図259~268のようないわゆる方形浅鉢〔権現脇浅鉢I類〕や第28図281~337のような断面逆「く」字をなす精製浅鉢〔権現脇浅鉢J類〕がある。浅鉢L類、浅鉢M類についても、特に浅鉢L類は口縁部に突帯をもつ資料が多く認められることから、大部分は突帯文期の資料と考えてよさそう。

壺については、第38図632・633のように「M」字突帯を貼りつける弥生時代中期のものも一部みられるが、大部分は明らかに胎土や焼成の具合からもそれらと異っており、突帯文期の資料として間違いないであろう。多くの口縁部資料が断面先細りとなって外反するものであるが、一部第33図519、535のように口縁部外面が肥厚して段を形成するものもある。肩部については第33図538、540のようになで肩のものと、第33図537、541のようにしっかりと肩の張るものがある。また、肩部と頸部との境界に第33図540のように圏線を入れるものとうそでないものが存在する。底部でみると、第33図542のような大型で丸底のもの、第33図543や第35図601のような平底のもの、第33図544や第35図599・600のような円盤貼り付けの張り出し底のものがある。

土製品については、詳細な時期比定の根拠に乏しいが、紡錘車2点（第37図623・624）は表裏面や側面に線刻を施しておらず、中彫らみも弱いことを考えれば、突帯文期に属するものと考えてよいのではなかろうか。また、第37図627の資料は、欠損部が多く全体像を把握できないが、もし仮に土偶としての評価ができるのであれば、突帯文期に伴う可能性がある精神文化にかかわる遺物として注目するところである。

石器の出土状況についてみてみる。Ⅲ a層及びⅢ b層における総出土点数は1,256点である。Ⅲ a層出土のものが512点（40.8%）、Ⅲ b層出土のものが744点（59.2%）となっており、おおよそ4対6の割合で土器の層別別出土比率ともほぼ一致する。石器石材の様相は、黒曜石が755点（60.1%）、サヌカイトが389点（30.9%）で、この2者で全体の91.0%を占めている。その他の石材としては、砂岩、安山岩、頁岩、石英、蛇紋岩、チャート、片岩がみられる。安山岩のごく一部を除いて石器石材には他地域からの搬入品に依存している状況がうかがわれ、こうした諏訪ノ上遺跡における石材利用のあり方は、在地産石器素材の乏しさを反映して雲仙東麓における縄文時代や突帯文期の遺跡群と

第30表 石器石材別内訳

石材	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
黒曜石	296	459	755
サヌカイト	180	209	389
砂岩	19	31	50
安山岩	9	29	38
頁岩	4	10	14
石英		3	3
蛇紋岩		2	2
チャート	2		2
片岩	1	1	2
不明	1	1	2
総計	512	745	1,257

第31表 黒曜石色調別内訳

黒曜石種類	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
黒色黒曜石	288	437	725
黒色黒曜石(風化顕著)	1	4	5
暗灰色黒曜石	3	9	12
灰色黒曜石	4	8	12
灰白色黒曜石		1	1
総計	296	459	755

第32表 石器器種別内訳

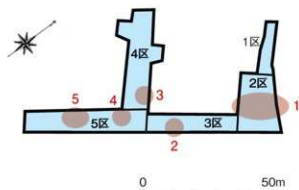
器種	Ⅲ a層	Ⅲ b層	総計
原石	1	2	3
石核	23	32	55
剥片	295	399	694
砕片	115	169	284
スクレイパー	8	13	21
石鏃	4	6	10
石鏃未成品	1	2	3
石鏃	1	1	2
二次加工剥片・微細剥離剥片	31	44	75
磨製石斧		5	5
磨製石斧再加工		1	1
打製石斧	2	7	9
打製石斧破片(整形・刃部再生・破損)	4	10	14
石皿・台石		4	4
砥石	9	10	19
磨石・叩石・凹石	5	13	18
小型磨石(土器製作具カ)	2	8	10
自然礫	2	11	13
破片	7	5	12
不明	2	3	5
総計	512	745	1,257

大きくは相違ないものといえる。

黒曜石の内眼観察による色調別の内訳においては、大部分を黒色黒曜石が占めている。1群土器などに伴うであろうと推定する著しく風化の進行している5点を除くと、黒色黒曜石は725点出土しており、黒曜石全体の中で96.0%である。ほかに暗灰色、灰色、灰白色のものがあるが、それらを含めても25点(3.3%)とごくわずかである。なお、暗灰色を呈する黒曜石の石器として報告したものの中に石鏃(第47図52)と微細剥離剥片(第48図75)があるが、蛍光X線分析装置による元素分析の結果、産地については長崎県佐世保エリアとの推定がなされた。

それから、サヌカイトの層位別の出土比率をみてみると、Ⅲ a層出土のものが46.3%、Ⅲ b層出土のものが53.7%となっており、石器全体における、あるいは黒曜石における値と比べるとⅢ a層の比率が高い。突帯文土器のなかで棒状工具とヘラ状工具によって刻目を施した資料の一部が、突帯文期の中で新しい時期の一群として存在することを推察したが、あるいはそうした突帯文期の中で時期の違いがサヌカイトの利用の比重の差となって反映された可能性があると考えられる。

次に出土遺物の分布状況についてみていきたい。平成26年度における本調査の対象面積が1,605㎡で、Ⅲ a層及びⅢ b層において出土地点の観測を行った遺物の有効点数が8,009点であるので、平米あたりの出土点数は5点程度となる。ただし、後世の耕作地造成のための削平や攪乱によって遺物包含層であるⅢ a層・Ⅲ b層が残存しておらず、分



第59図 遺物集中部概略図 (S=1/1,500)

布図上も空白地帯となっている部分がかかなり存在する。よって、実際の平米あたりの出土点数は10点程度にはなるであろう。面的な発掘調査ではあるが、道路や水路、石垣部分のみの調査で調査区幅が限られていることもあり、よって遺跡における全体的な遺物分布を明らかにできたとはいいがたいが、若干の所見を述べておく。

遺物包含層残存部分での全体的な遺物の出土傾向としては、いくつかの出土集中部が認められ、第59図のとおり第1集中部から第5集中部の五つのエリアに整理した。最も密度の高い出土状況をみせるのは2区（第1集中部）であり、またその広がりも大きい。3区南隅部付近（第2集中部）、4区東隅部付近（第3集中部）、それから5区の北西部付近（第4集中部）と中ほど（第5集中部）でも集中的な出土傾向が確認できる。そして、これらの出土集中部は、ある程度出土点数をもつ分類項目では土器、石器ともにおおよそ共通して五つそれぞれのまとまりをみせるが、細かく見ていくと若干の差異も認められる。

土器については、例えば、深鉢E類は全体としては各出土集中部でまとまった出土がみられるのに対し、工具刺突による刻目のものは第1集中部での出土が目立つものの、他ではほとんど出土していない。また、浅鉢J類は第3集中部からの出土が少ない。高坏・脚台付土器については第1・第2・第5の集中部においては出土がみられるのに対し、第3・第4集中部では皆無である。

石器については、打製石斧を中心として利用される安山岩の出土が第4集中部では希薄である。また、同様に磨石・敲石・凹石類や石皿・台石類の出土が第4集中部では見られない。それから、サヌカイト素材の石器としては、各集中部からそれぞれまとまって出土がみられているのに対して、スクレイパー類に限ってみると、第3・第4・第5集中部からの出土はごく少数である。

おわりに

今回の諏訪ノ上遺跡における発掘調査の意義について、二点あげたい。

まず、鳥原半島における突帯文期のはほぼ単純遺跡として、諏訪ノ上遺跡の成果が得られた点である。諏訪ノ上遺跡と同じく南鳥原市深江町に所在する権現脇遺跡では、近年まで雲仙普賢岳平成噴火の鎮静後の砂防事業に伴って発掘調査が継続的に実施されてきたが、膨大な量の出土遺物があり、多くの知見を私たちに与えてくれた。一方で権現脇遺跡の存続期間は、縄文時代後期末から突帯文期にかけてと比較的長く、複数時期にわたって継続的に生活が営まれたことにより、同一地点、同一層位（諏訪ノ上遺跡と同様のⅢa層・Ⅲb層）から時間幅のある遺物が複合して出土するため、それぞれの単一時期の様相が非常につかみづらいという状況にあった。その点、諏訪ノ上遺跡の出土遺物のはほぼ突帯文期に限定され、かつ、その突帯文期もわずかに新相を示すものが含まれる可能性があるものの、大部分の資料が短期間の時間幅に収まるものと考えられる。今後権現脇遺跡をはじめとした諏訪ノ上遺跡と時期的に重なる部分のある複合遺跡においては、相互に比較検討を行うことにより、複合する各々の時期の様相を明瞭に浮かび上がらせていく作業ができるのではないかと期待する。

次に、鳥原半島では縄文時代晩期から突帯文期にかけての遺跡は、これまで比較的標高の高い地点で確認されることが多かったのであるが、今回調査を行った諏訪ノ上遺跡は標高35m付近の遺跡立地ということで、比較的低標高域に位置する海岸に近い遺跡として押さえられた点である。高標高域の遺跡であれば、当然食糧をはじめとした生活資源の海への依存度は低くなり、山麓地帯での生業形

態を想定しなければならない。それと同時に突帯文期の遺跡であることを考えれば、水田農耕の導入についても気になることである。その点では、諏訪ノ上遺跡における今回の発掘調査では比較的低標高域ではあるものの水田農耕にかかわるような直接的な成果は得られておらず、突帯文期に突入しても水田農耕の導入には至っていない島原半島の様相がまたひとつ明らかになったものと考ええる。海岸まで550メートルという近距離にありながらも扇状地地形で傾斜地であるため、また水はけのよい土石流堆積物上の土壌環境であるため、水利施設の造営には不適合地だったのだろう。今のところ島原半島における水田によるコメ作りの始まりは、弥生時代中期を待たなければならないのである。その一方で、権現脇遺跡においては破片資料ではあるが擦切り穿孔の石包丁の出土例などもあり、水田農耕そのものは受け入れていなくとも、それに付随する各種文化要素は突帯文期にはすでに採用していた形跡がみられるわけで、いち早く水田農耕を取り入れた北部九州地域の周縁部の様相として捉えておく必要がある。今後、諏訪ノ上遺跡よりもさらに海岸に近い突帯文期の低地遺跡が存在するのか、もし存在するとすればそこには水田農耕文化の影響がどれほど及んでいるのか、あるいは及んでいないのか、注意しておきたい。

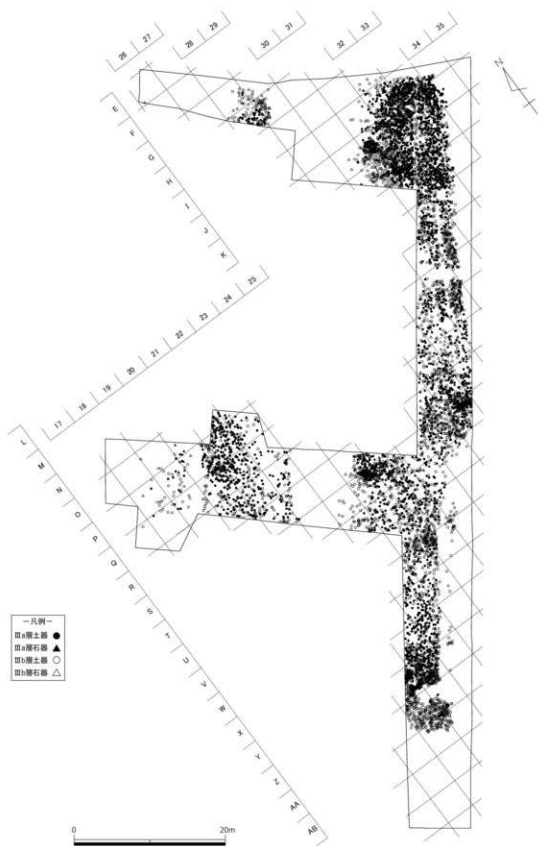
(註)

2群と3群の土器については、粗製土器、精製土器ともに胴部など多くの小片資料にあっては、器面調整のみでの詳細な時期分類は困難であり、ここではひとまとめにして扱うことにする。

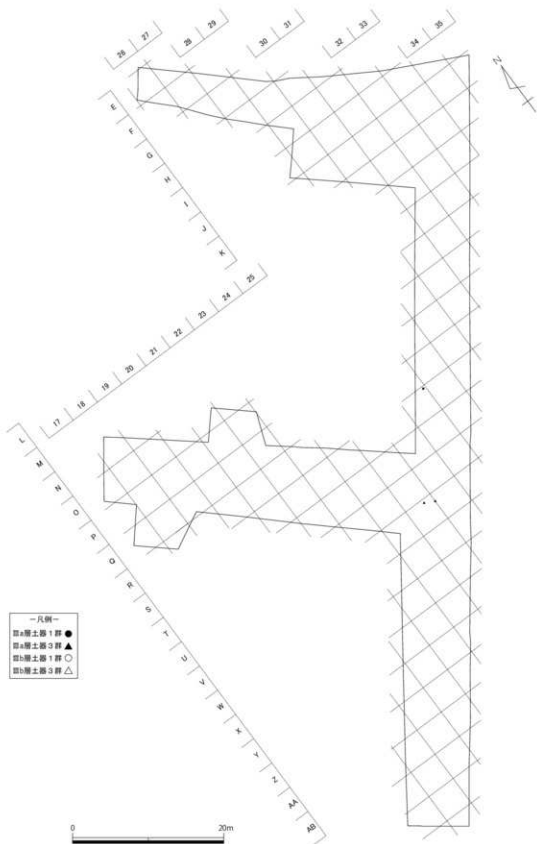
また、主要な器種の分類については、諏訪ノ上遺跡と同じく深江町域に所在する権現脇遺跡において縄文時代後・晩期から突帯文期にかけての充実した調査成果（『権現脇遺跡』2006）があり、そこでの分類名称を踏襲することにする。

【参考文献】

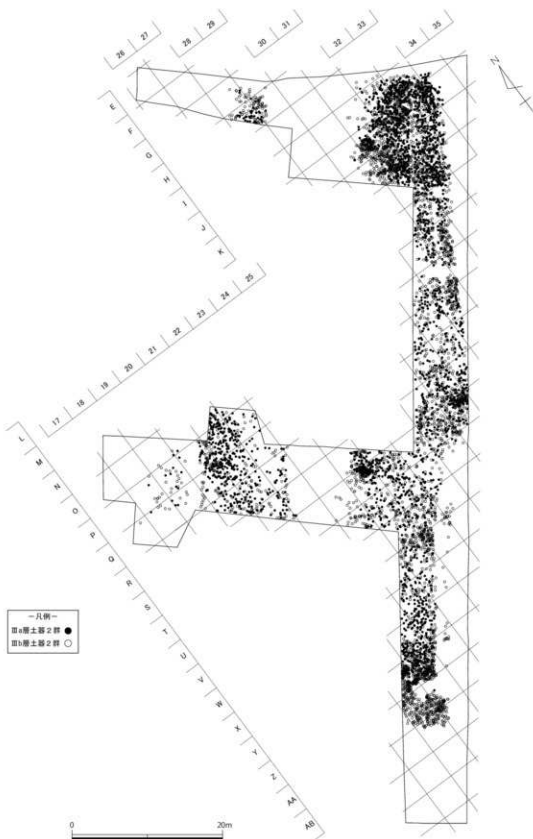
- 久原 卷二 1994 「地理的歴史的環境」『県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書第116集 長崎県教育委員会
- 本多和典編 2006 「権現脇遺跡」深江町文化財調査報告書第2集 深江町教育委員会
- 本多和典編 2007 「権現脇遺跡」南島原市文化財調査報告書第1集 南島原市教育委員会



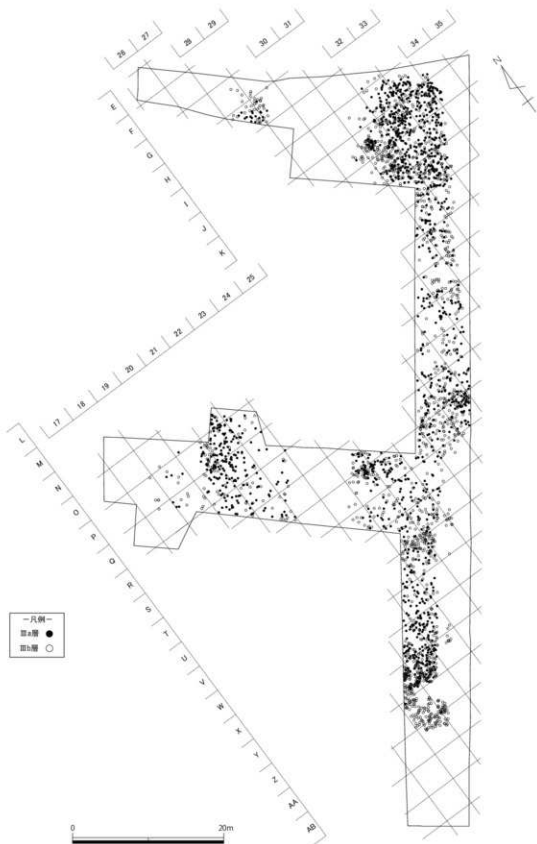
第60图 遺物分布图① [土器・石器 (全体)] (S=1/500)



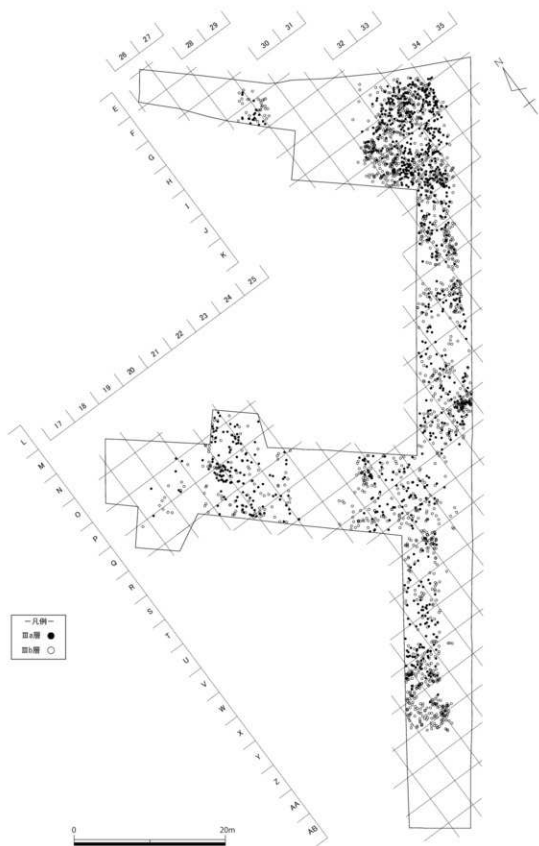
第61図 遺物分布図② [土器 (時期別) 1群土器・4群土器] (S=1/500)



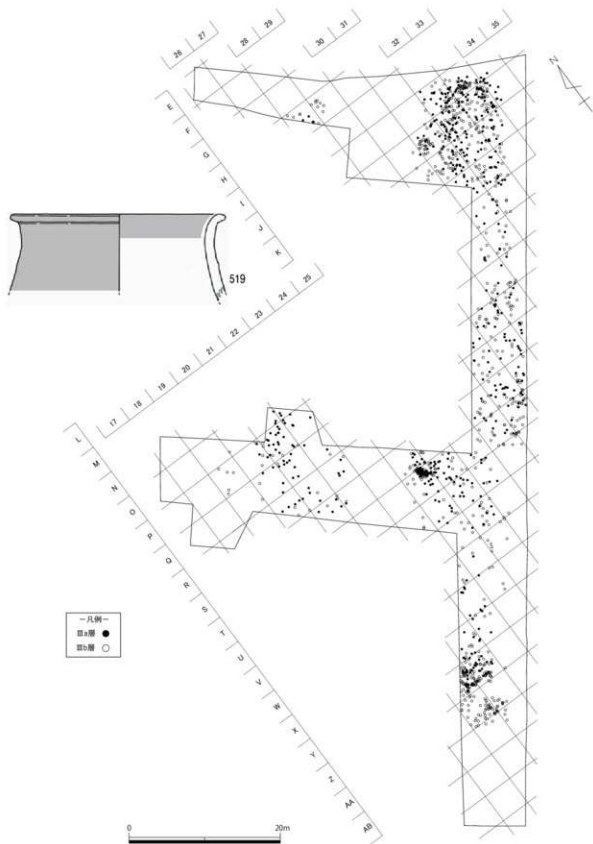
第62図 遺物分布図③ [土器 (時期別) 2群土器・3群土器] (S=1/500)



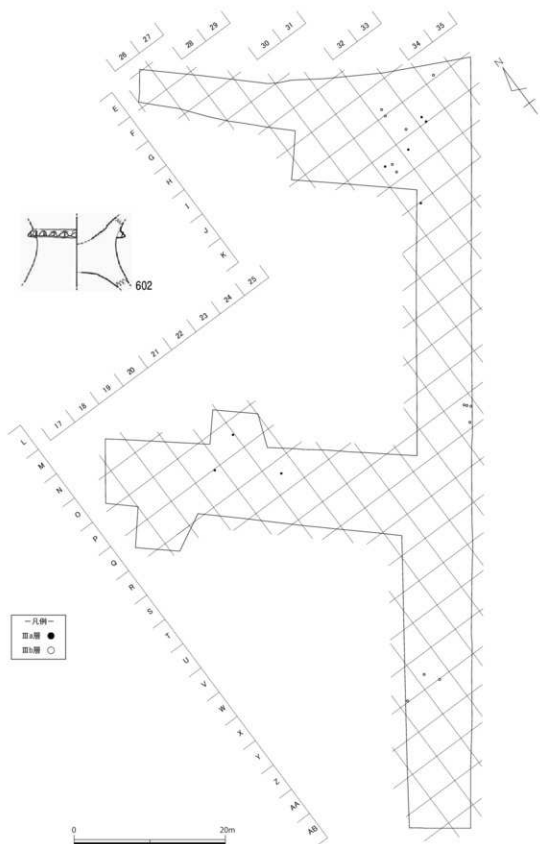
第63図 遺物分布図④ [3群土器 (器種大別) - 深鉢] (S=1/500)



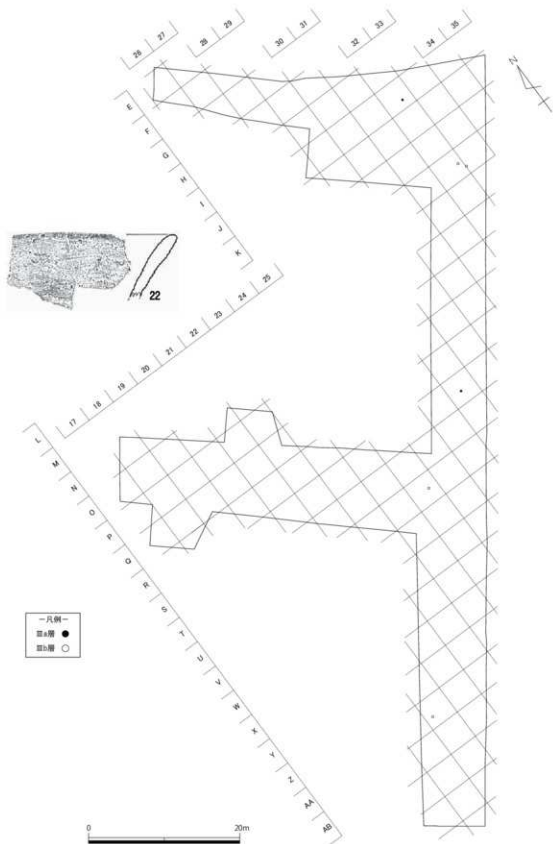
第64図 遺物分布図⑤ [3群土器 (器種大別) - 浅鉢] (S=1/500)



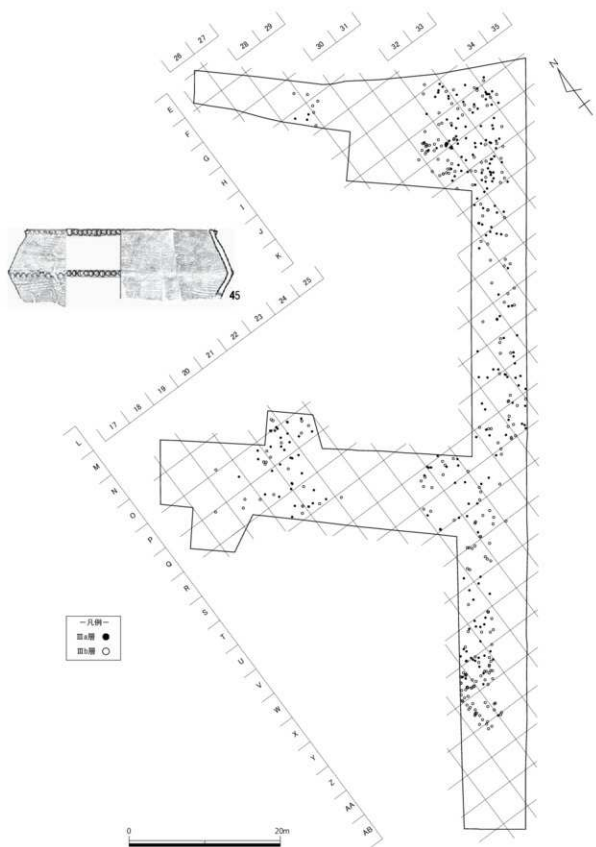
第65図 遺物分布図⑥ [3群土器 (器種大別) - 壺] (S=1/500)



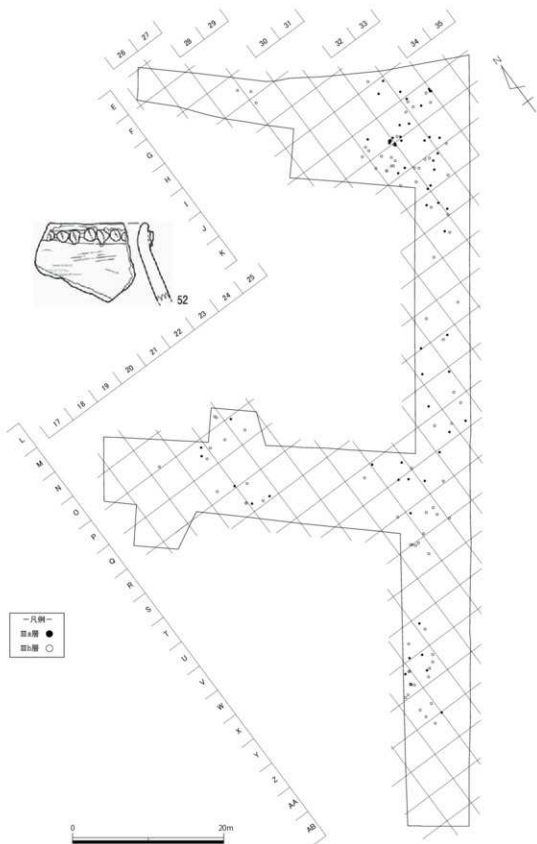
第66图 遺物分布图⑦ [3群土器 (器種大別) - 高坏・脚台付土器] (S=1/500)



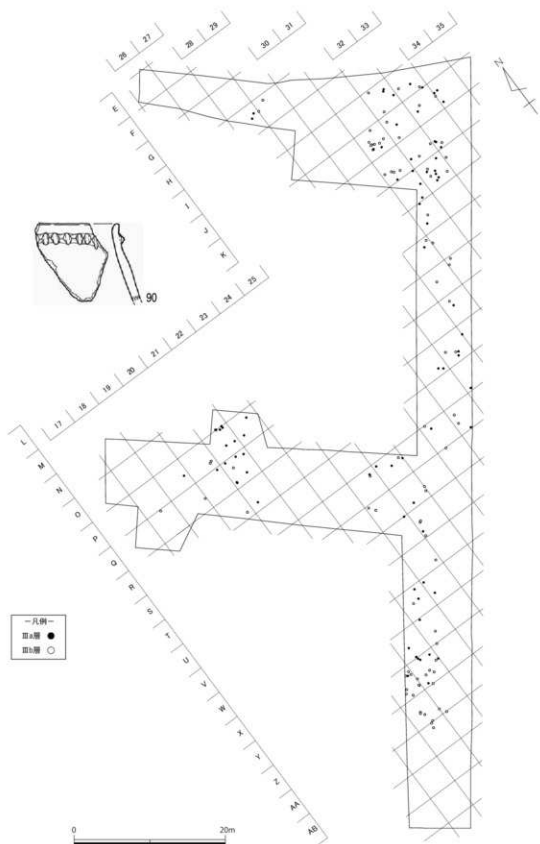
第67図 遺物分布図⑧ [3群土器(器種小別) - 深鉢D類] (S=1/500)



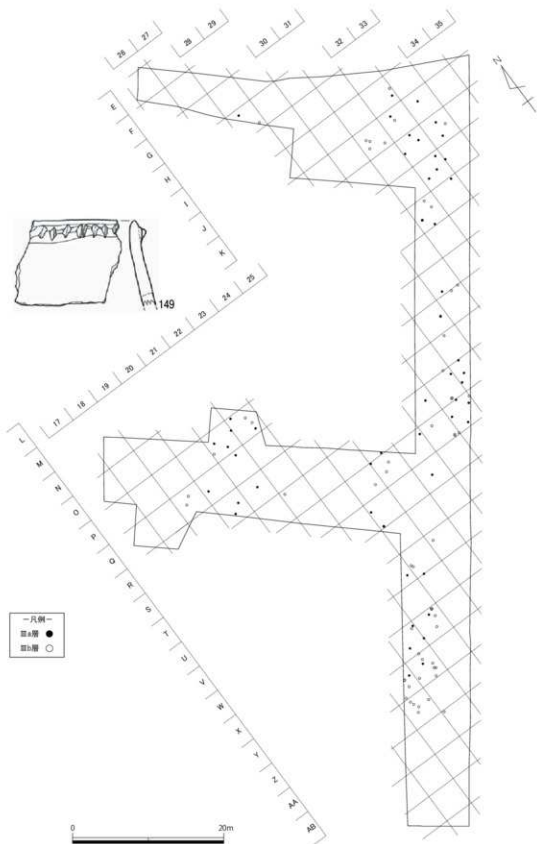
第68図 遺物分布図⑨ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類] (S=1/500)



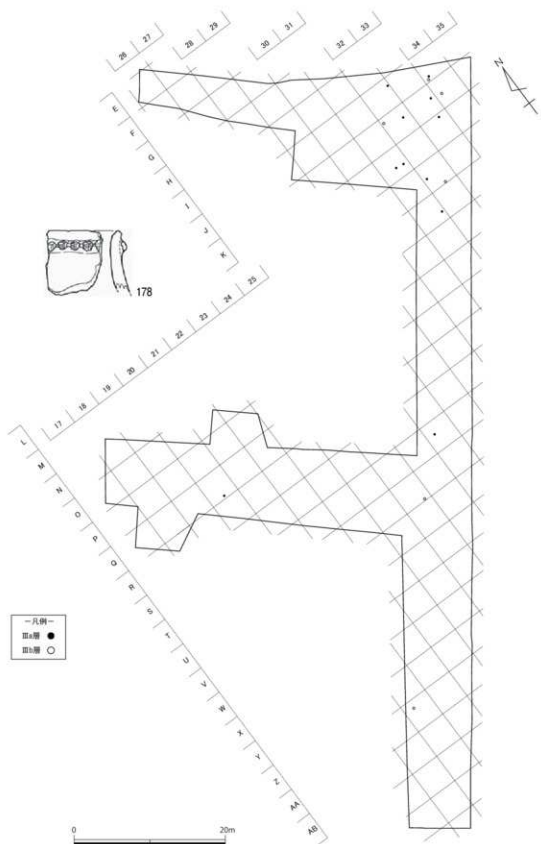
第69図 遺物分布図⑩ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類:指] (S=1/500)



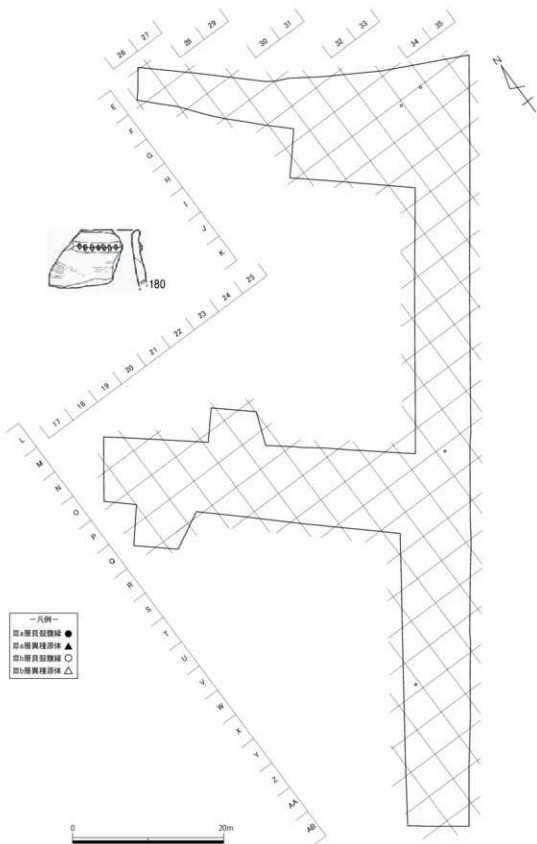
第70図 遺物分布図⑪ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類: 棒] (S=1/500)



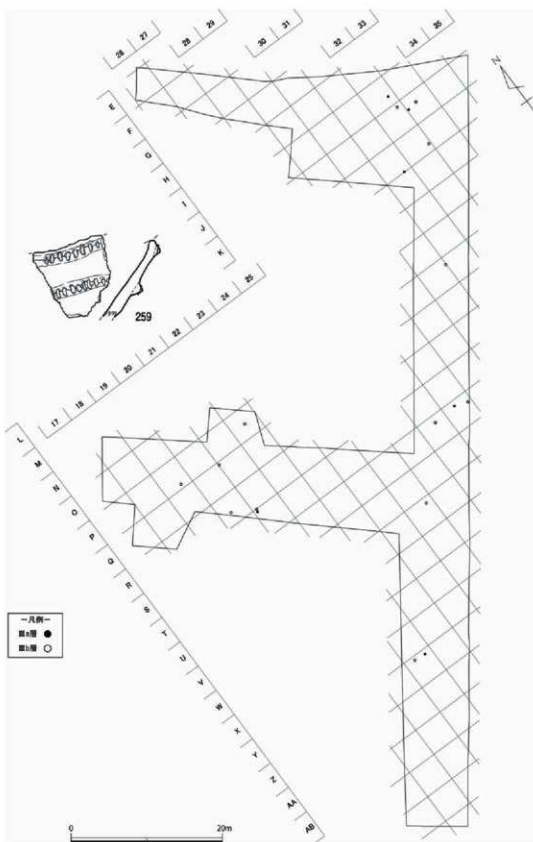
第71図 遺物分布図⑫ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : ヘラ] (S=1/500)



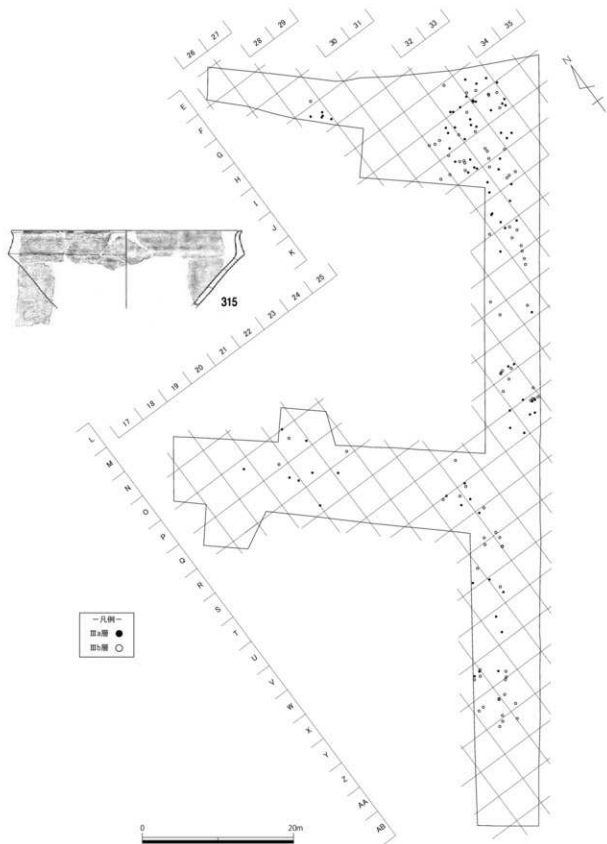
第72図 遺物分布図⑬ [3群土器 (器種小別) - 深鉢E類 : 工具刺突] (S=1/500)



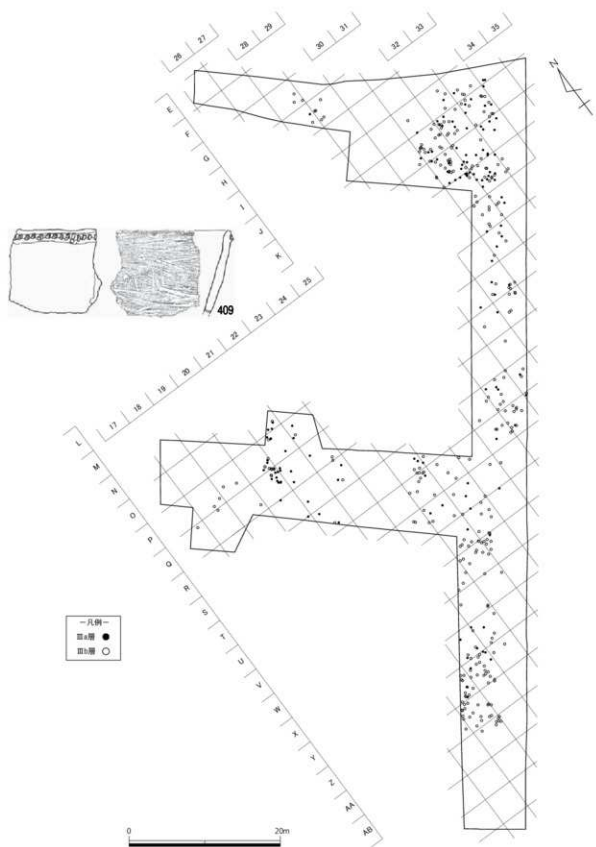
第73圖 遺物分布圖⑭ [3群土器(器種小別) - 深鉢E類: 貝殼釀燒・異種原休] (S=1/500)



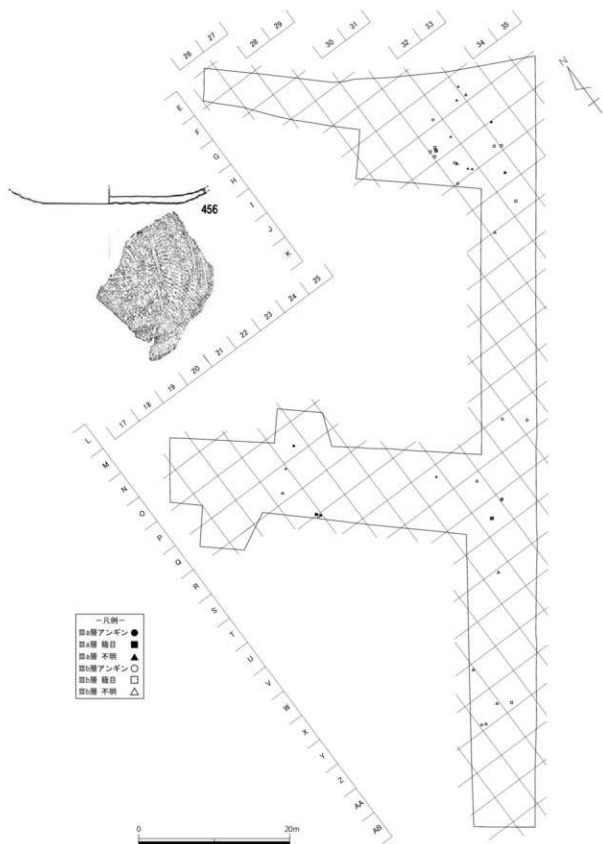
第74図 遺物分布図⑬ [Ⅲ群土器(器種小別) - 浅鉢Ⅰ類] (S=1/500)



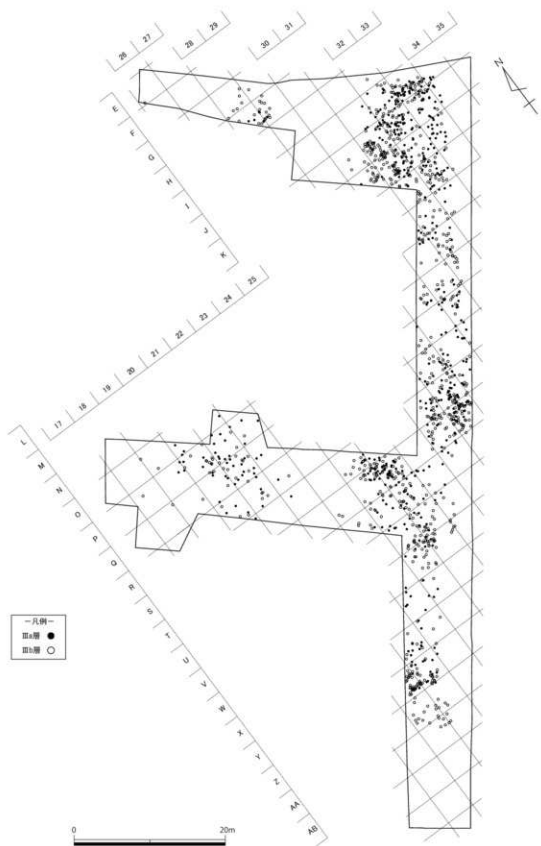
第75図 遺物分布図⑬ [3群土器(器種小別) - 浅鉢J類] (S=1/500)



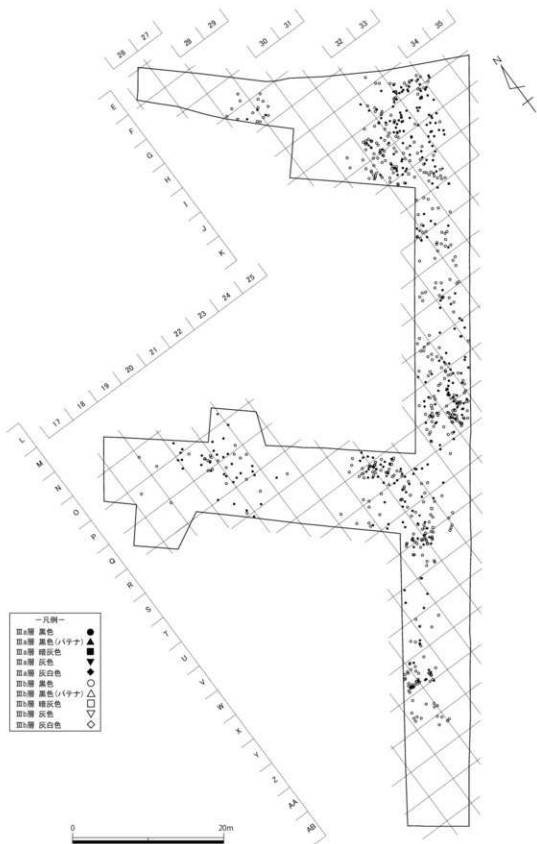
第76図 遺物分布図⑰ [3群土器(器種小別) - 浅鉢L類] (S=1/500)



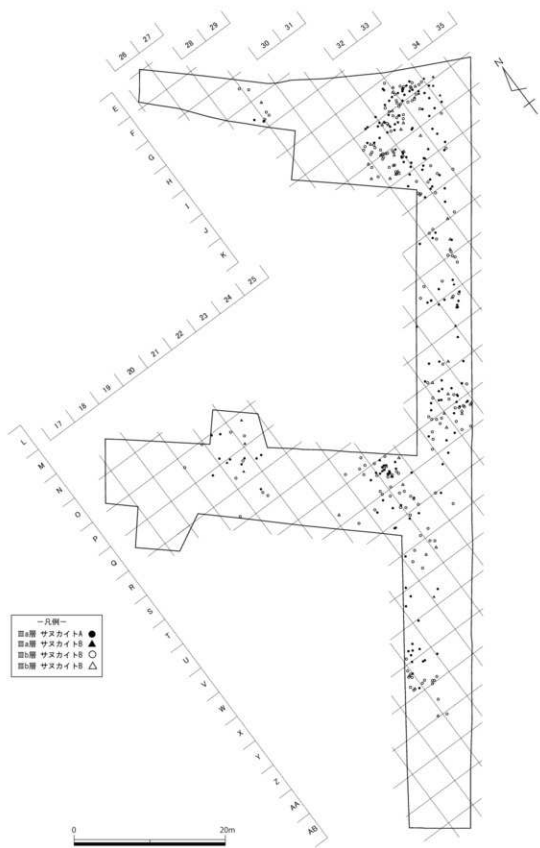
第77図 遺物分布図⑱ [3群土器 (器種小別) - 浅鉢M類] (S=1/500)



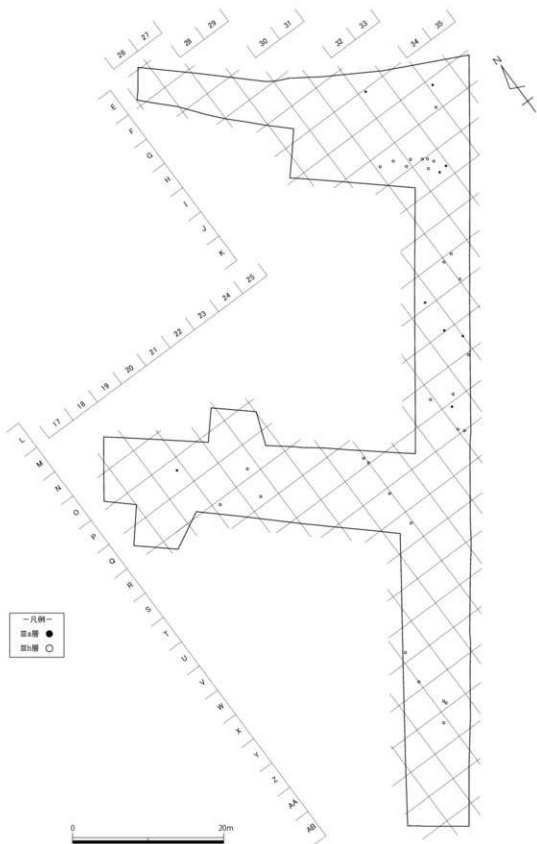
第78图 遺物分布图⑩ [石器 (全体)] (S=1/500)



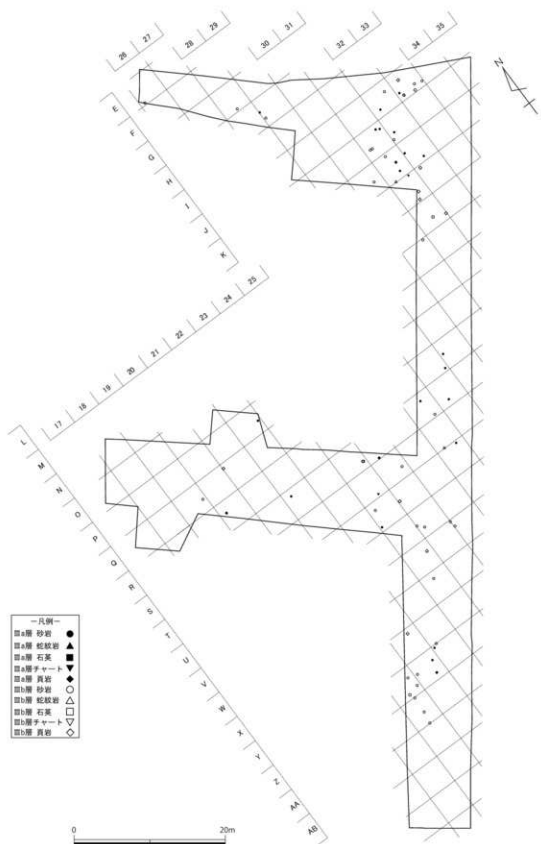
第79図 遺物分布図② [石器(石材別) - 黒曜石] (S=1/500)



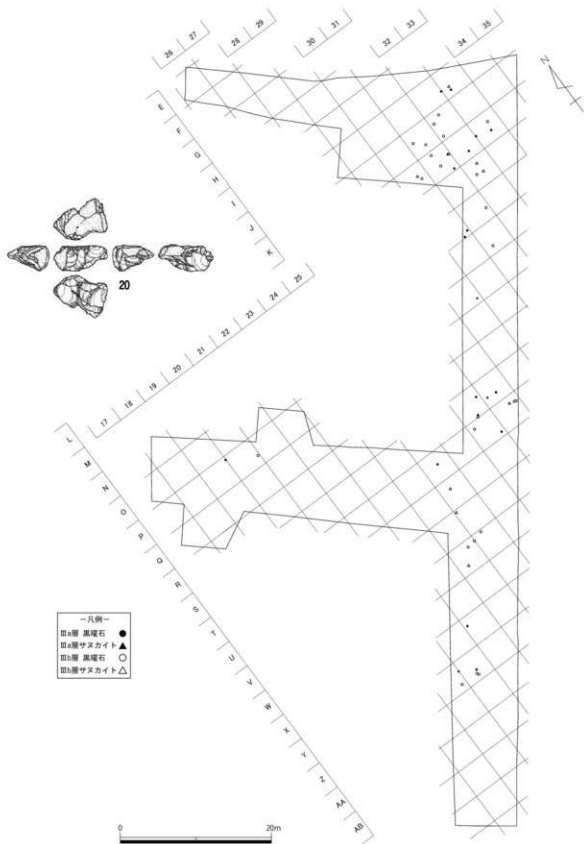
第80図 遺物分布図② [石器 (石材別) - サスカイト] (S=1/500)

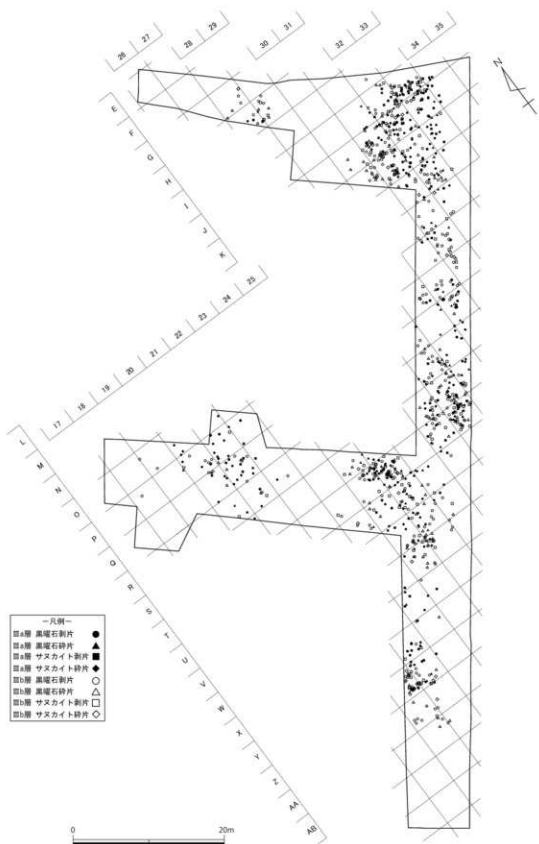


第81図 遺物分布図② [石器 (石材別) - 安山岩] (S=1/500)

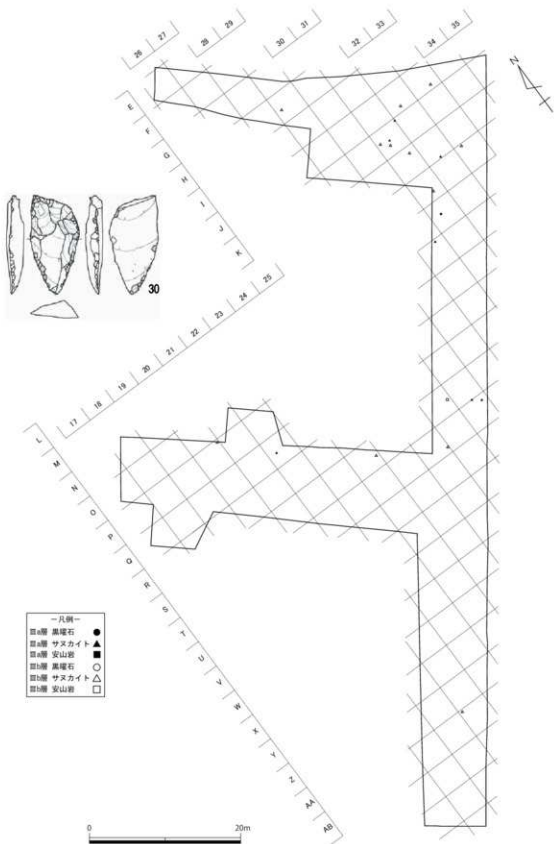


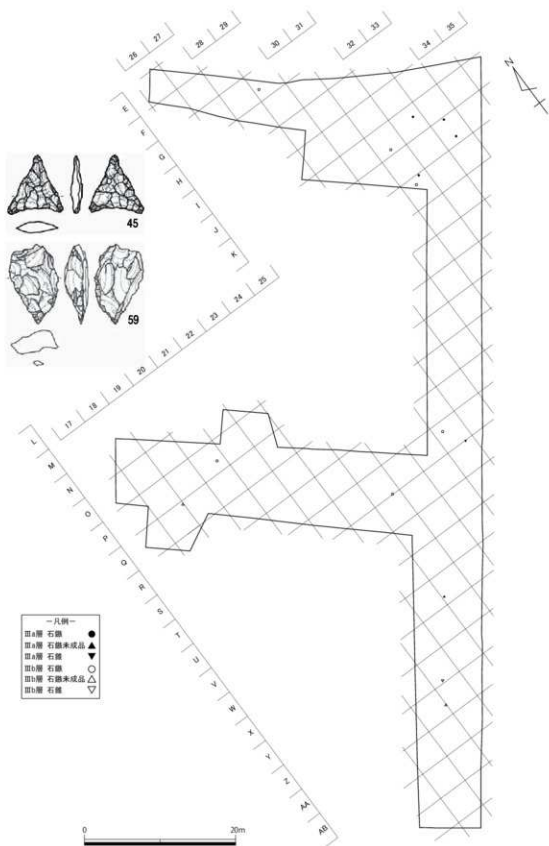
第82図 遺物分布図② [石器 (石材別) - その他の石材] (S=1/500)



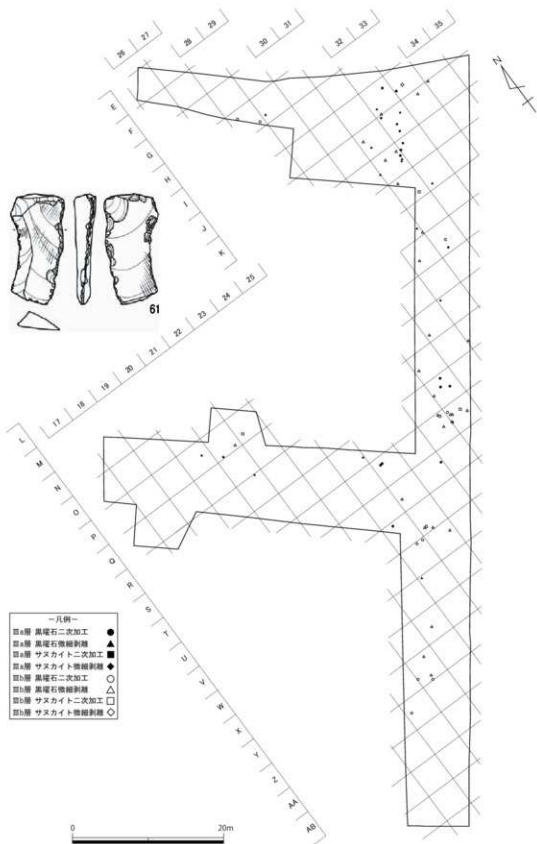


第84図 遺物分布図⑧ [石器 (器種別) - 剥片 / 碎片] (S=1/500)

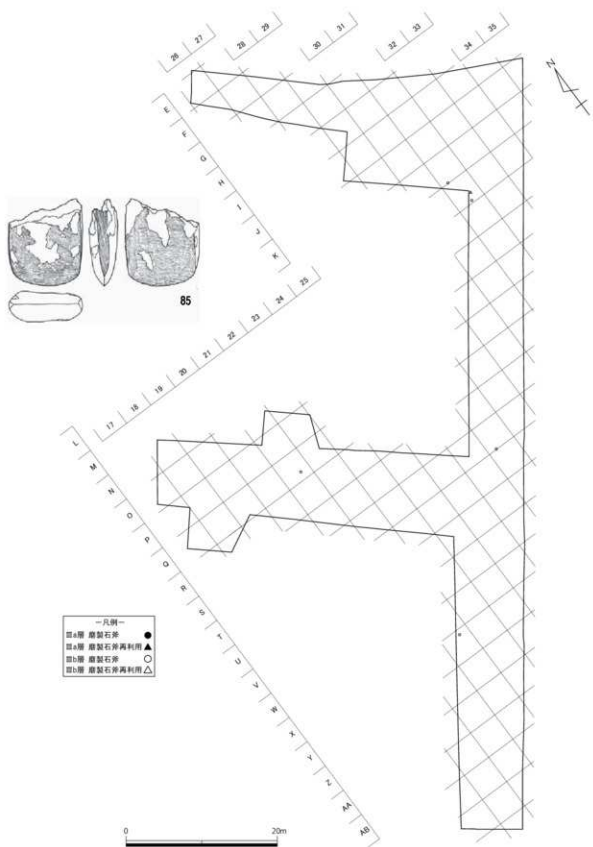




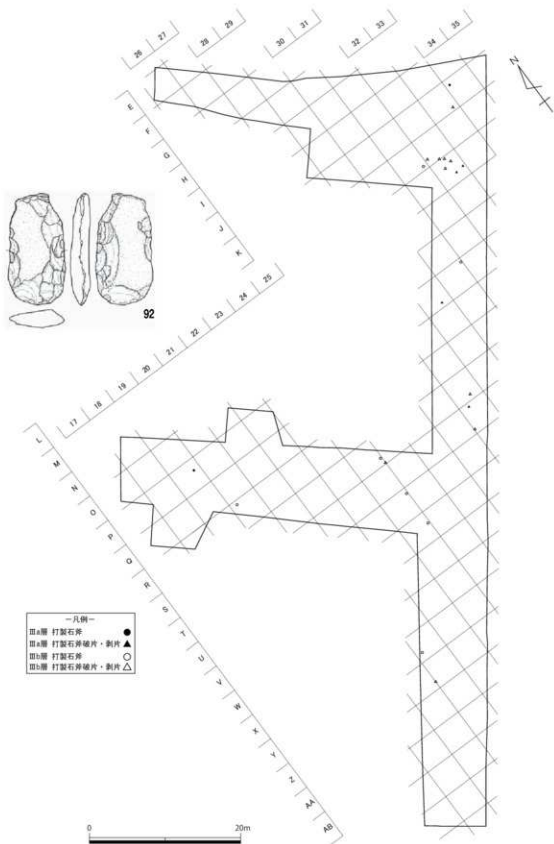
第86図 遺物分布図② [石器 (器種別) - 石鏃 / 石鏃未成品 / 石鏃] (S=1/500)



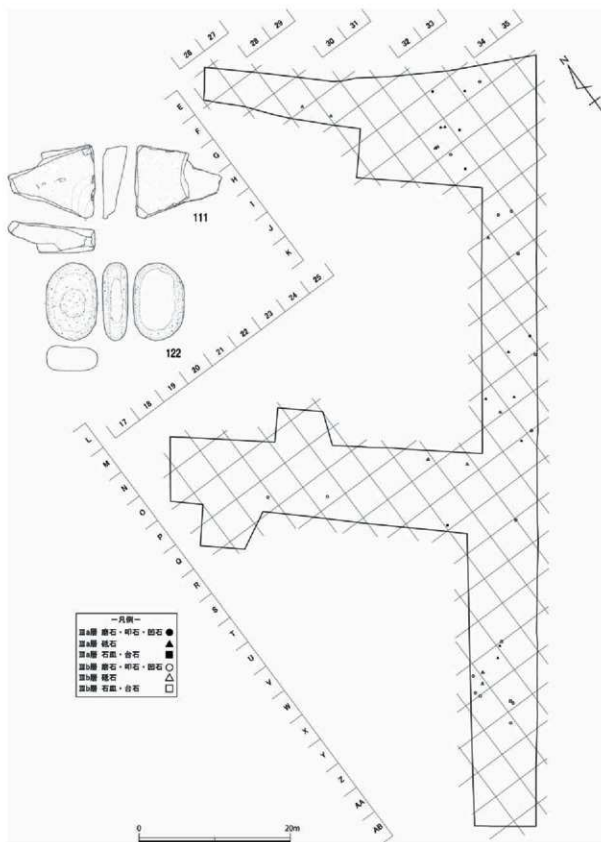
第87図 遺物分布図② [石器(器種別)・二次加工剥片/微細剥離剥片] (S=1/500)



第88圖 遺物分布圖② [石器 (器種別) - 磨製石斧磨製/磨製石斧再利用] (S=1/500)



第89圖 遺物分布図③ [石器 (器種別) - 打製石斧/破片・剝片] (S=1/500)



第90图 遺物分布图⑨ [石器 (器種別)・磨石・砵石・凹石/石皿・合石] (S=1/500)

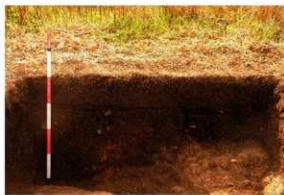
圖 版



諏訪ノ上遺跡周辺航空写真



TP.1 南壁



TP.2 西壁



TP.3 南壁



TP.4 南壁



TP.5 南壁



TP.6 南壁



TP.7 南壁



TP.8 南壁

諏訪地区試掘調査①



TP. 9 南壁



TP. 10 南壁



TP. 11 南壁



TP. 12 西壁



TP. 13 南壁



TP. 14 南壁



TP. 15 西壁



TP. 16 南壁

諏訪地区試掘調査②



TP. 17 南壁



TP. 18 南壁



TP. 19 南壁



TP. 20 南壁



TP. 21 南壁



TP. 22 南壁



TP. 23 南壁



TP. 24 南壁

藤訪地区試掘調査③



TP.25 南壁



TP.26 南壁



TP.27 南壁



TP.28 南壁



TP.29 南壁



TP.30 南壁



作業状況



諏訪ノ上遺跡近景（北から）

諏訪地区試掘調査④



TP.31 南西壁



TP.32 南西壁



TP.33 南西壁



TP.34 南西壁



TP.35 南西壁



TP.33 遺物出土状況



作業状況



出口遺跡近景（南から）

諏訪地区試掘調査⑤



平成26年度本調査区航空写真（全体）



平成26年度本調査区航空写真（4・5区）



平成26年度本調査区航空写真（1～3区）



平成27年度本調査区航空写真（6・7区）



1区南西壁（東から）



3区北西壁（南から）

平成26年度本調査区土層①



4区・5区境界ベルト（南から）



4区北東壁（南から）

平成26年度本調査区土層②



4区北張出部北西壁（南東から）



4区北張出部北東壁（南西から）

平成26年度本調査区土層③



7区横断ベルト①（東から）



7区横断ベルト②（東から）

平成27年度本調査区土層



2区土坑（東から）



5区倒木痕（南東から）

平成26年度本調査区遺構ほか検出状況



6区不明大型遺構（南西から）



6区不明大型遺構（北東から）

平成27年度本調査区遺構検出状況①



7区溝（東から）



7区溝（北東から）

平成27年度本調査区遺構検出状況②



作業状況



2区Ⅲa層（北東から）



2区Ⅲa層（北から）

遺物検出状況①



4区Ⅲa層（北東から）



5区Ⅲa層（北東から）

遺物検出状況②



1区Ⅲb層（南西から）



2区Ⅲb層（西から）

遺物検出状況③



2区Ⅲb層（北東から）



3区Ⅲb層（南西から）

遺物検出状況④



3区Ⅲb層（北東から）



4区Ⅲb層（北から）

遺物検出状況⑤



4区Ⅲb層（西から）



4区Ⅲb層（南から）

遺物検出状況⑥

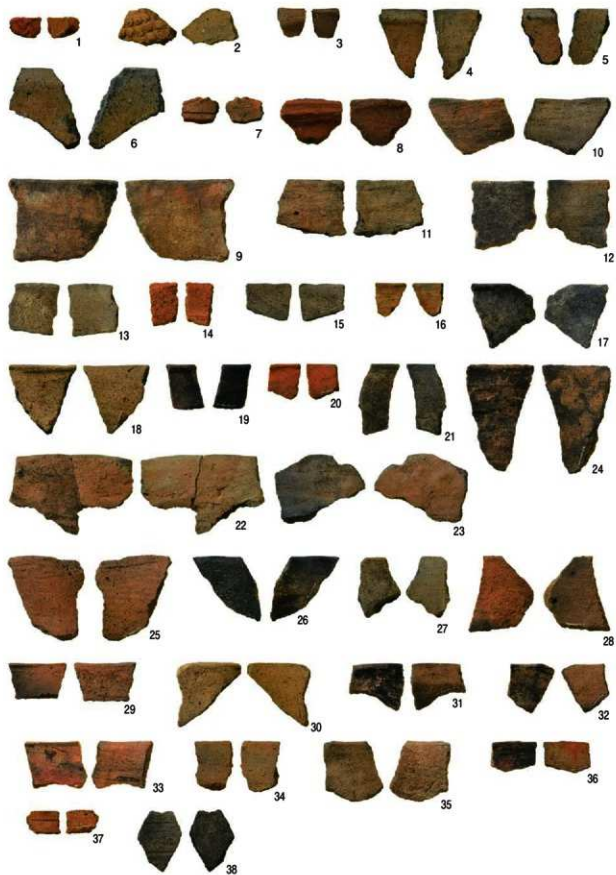


5区Ⅲb層（南西から）

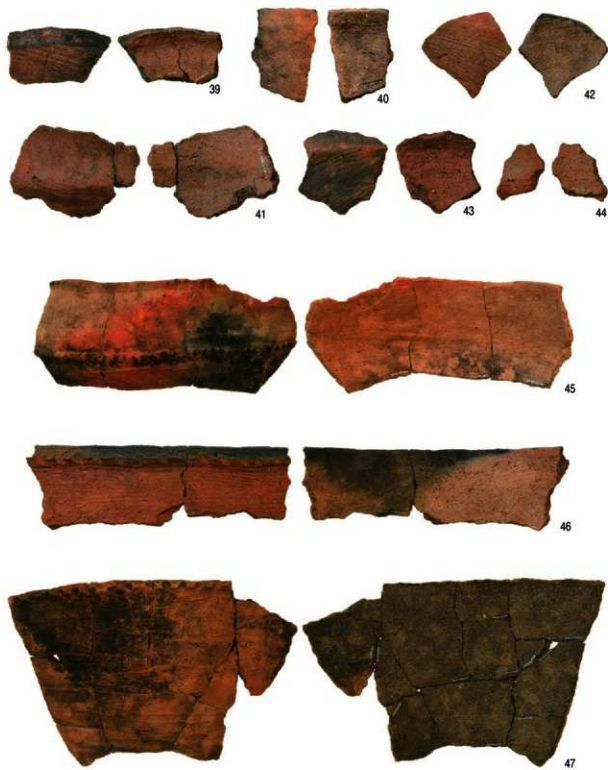


5区Ⅲb層（北東から）

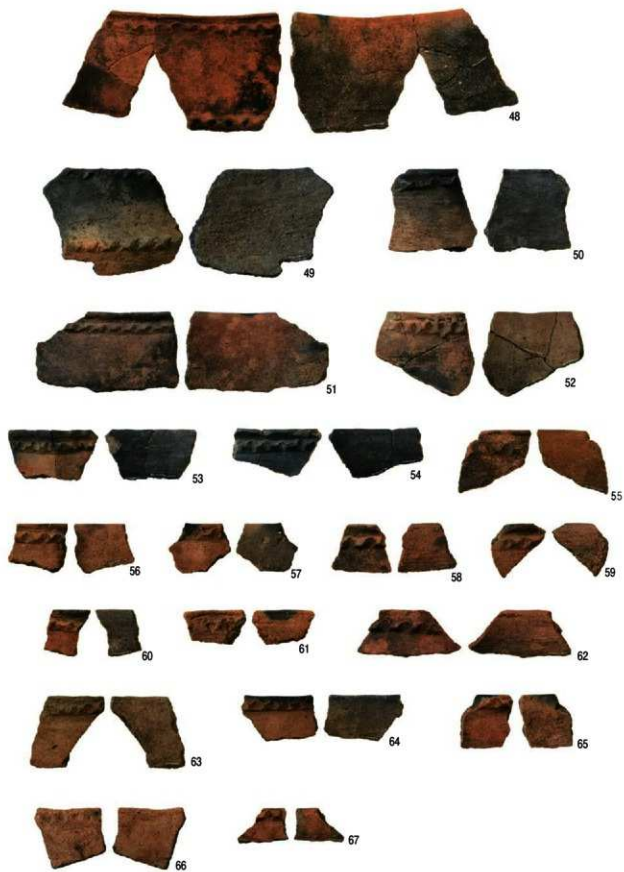
遺物検出状況⑦



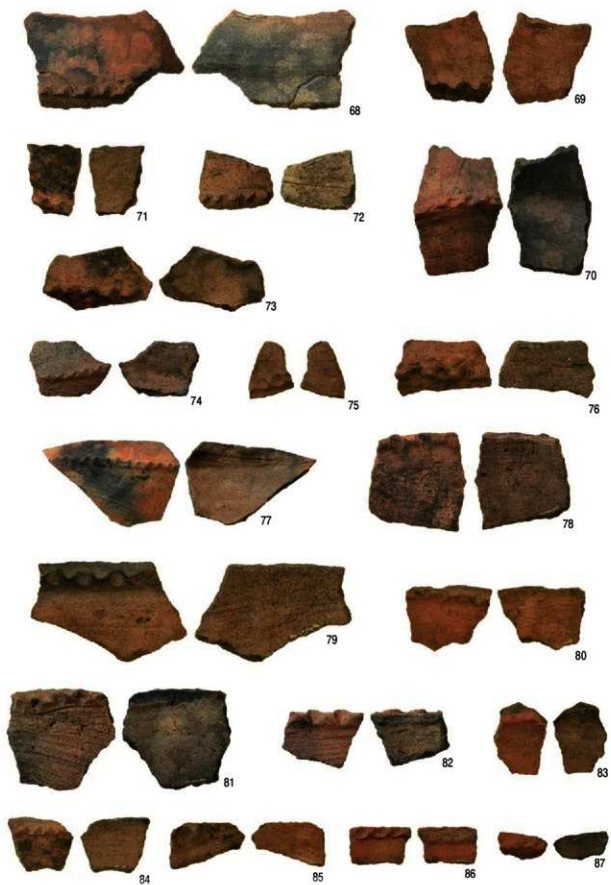
出土土器①



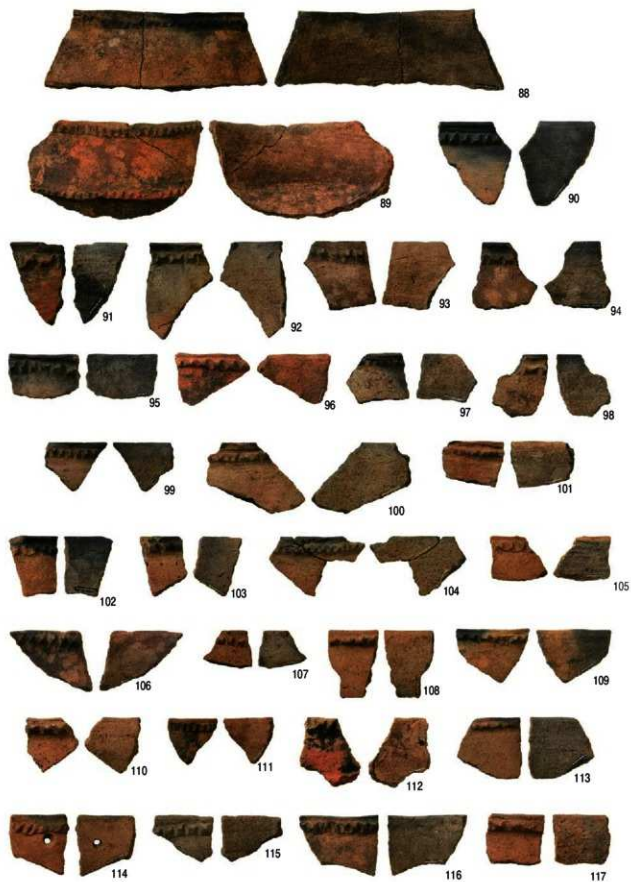
出土土器②



出土土器③



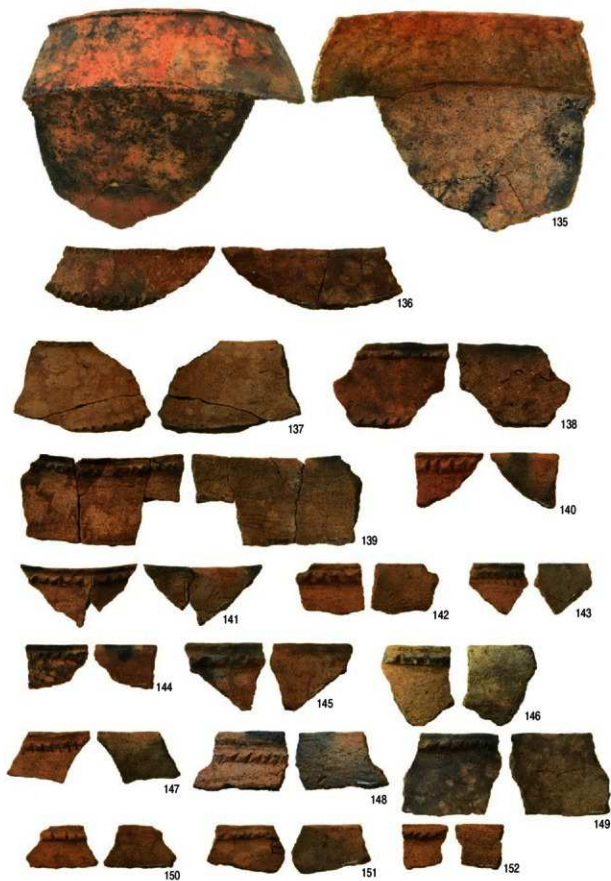
出土土器④



出土土器⑤



出土土器⑥



出土土器⑦



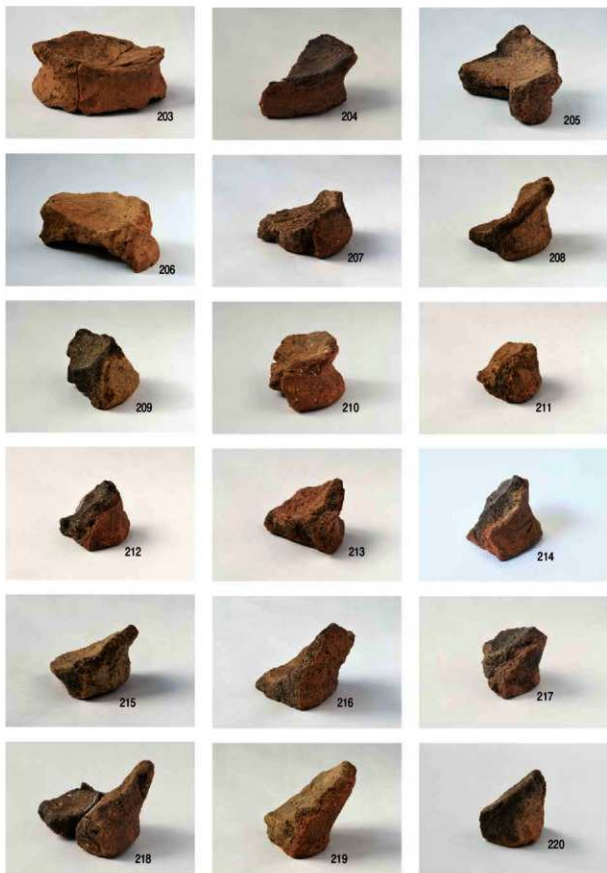
出土土器⑧



出土土器⑨



出土石器[®]



出土土器①



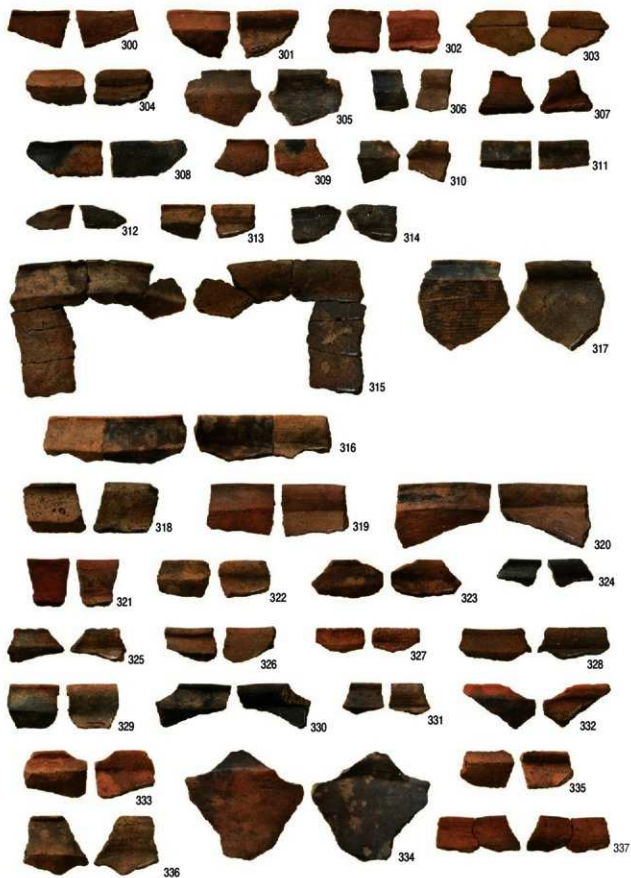
出土土器②



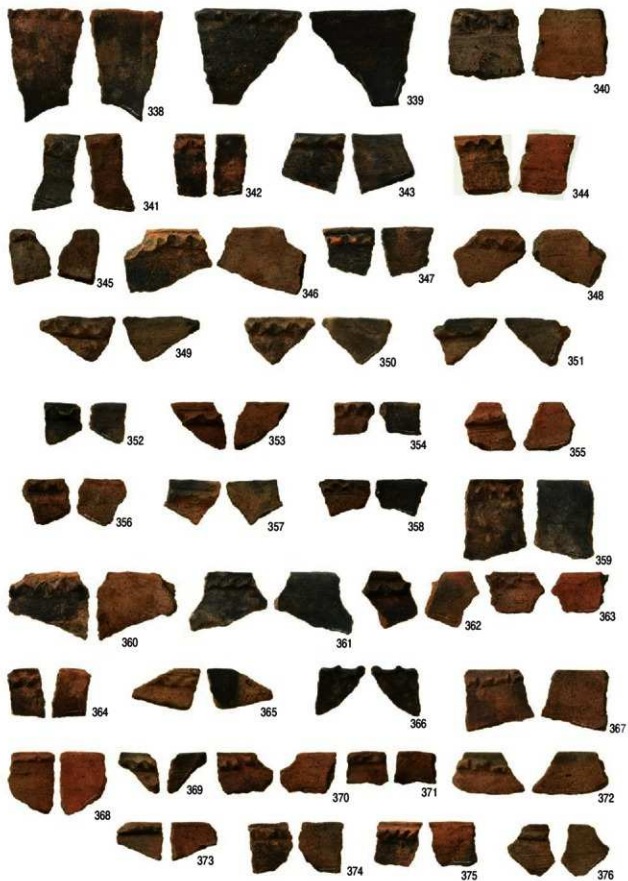
出土土器⑬



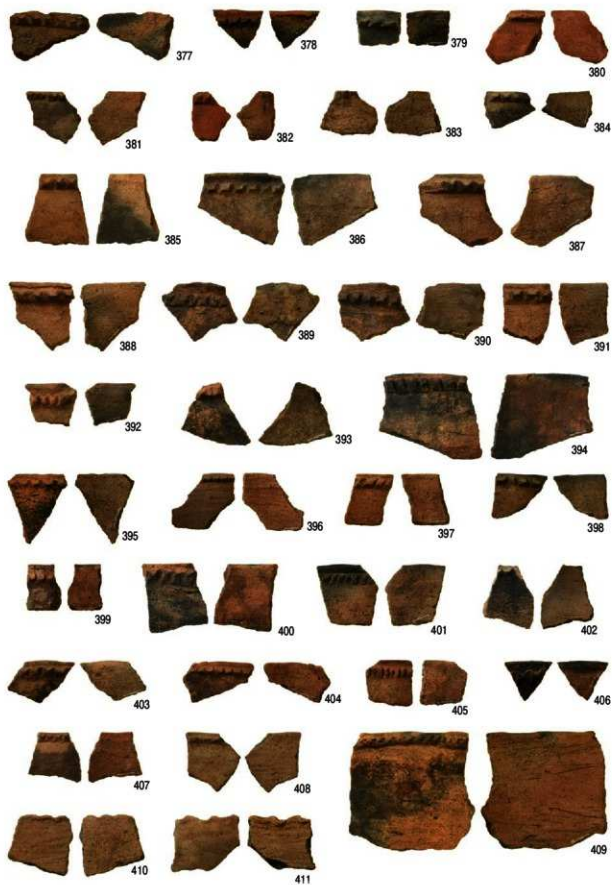
出土土器④



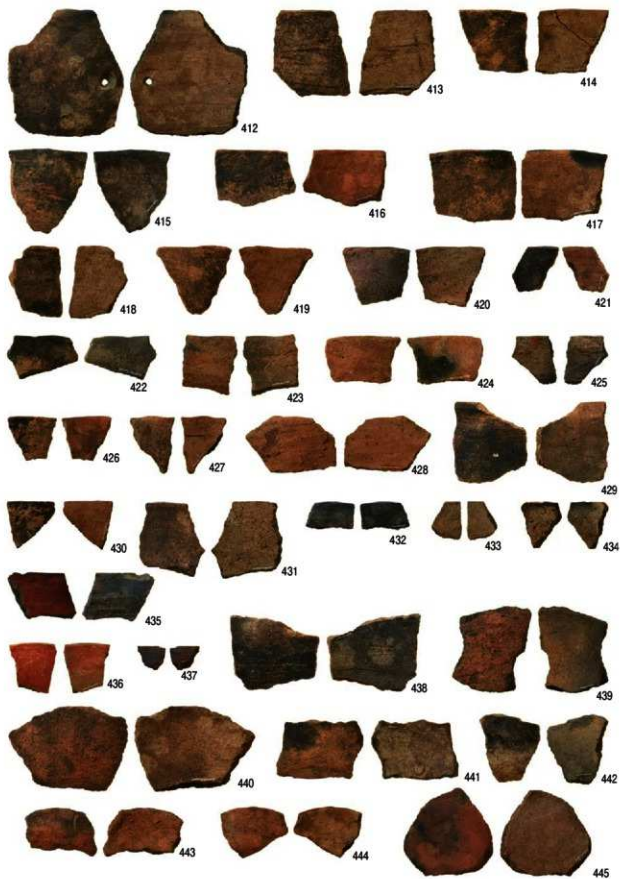
出土土器⑤

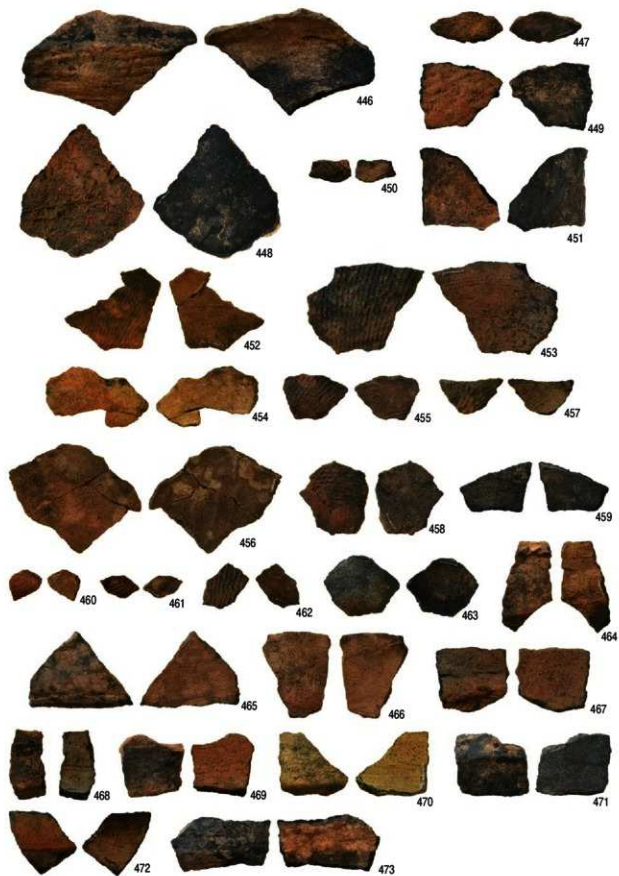


出土土器⑥

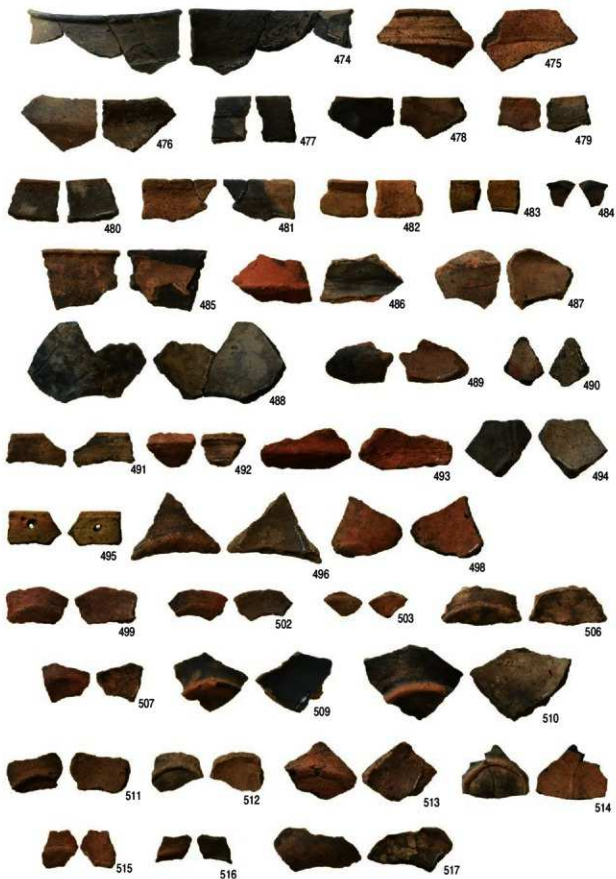


出土土器⑰

出土土器[®]



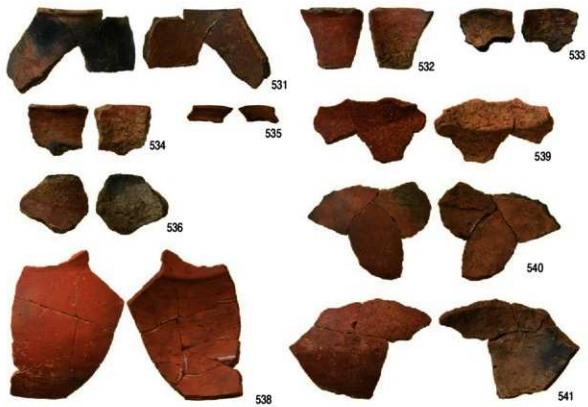
出土土器^⑨



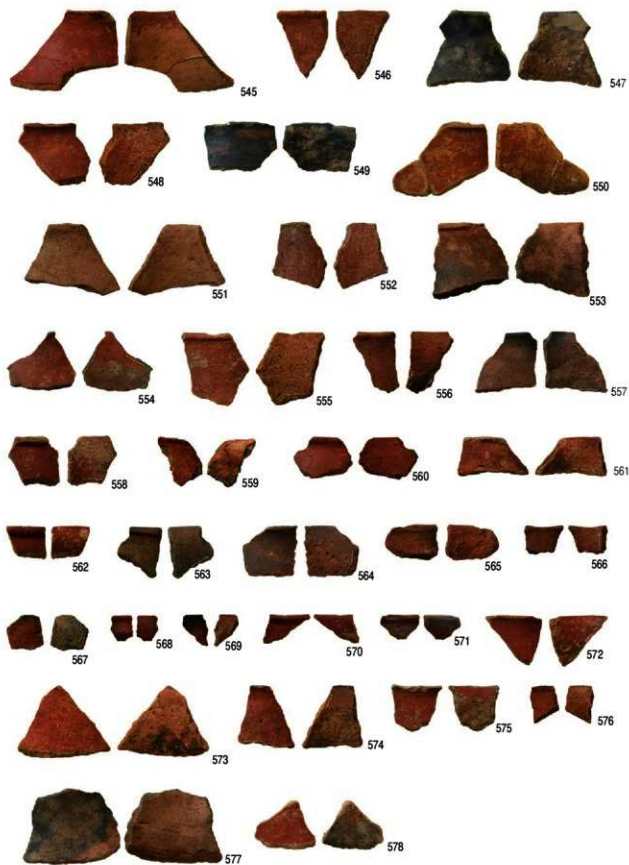
出土土器②



出土土器②



出土土器



出土土器②



出土土器④



出土土器



出土土器②·陶磁器



出土石器①



出土石器②



出土石器③



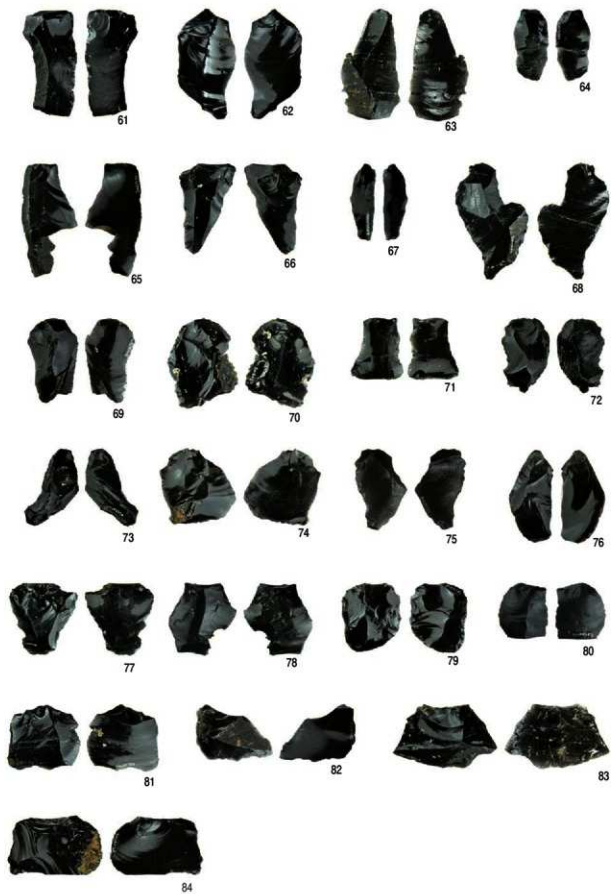
出土石器①



出土石器⑤



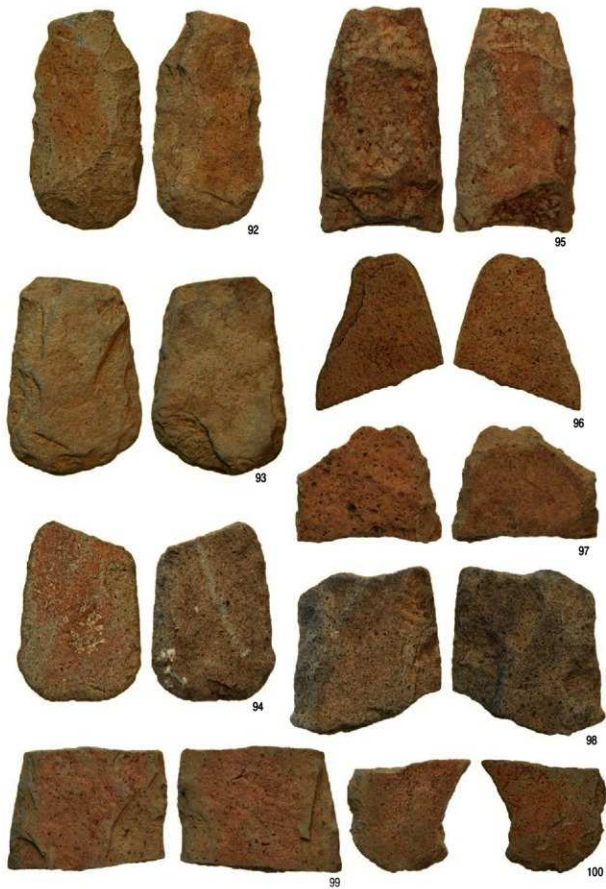
出土石器⑥



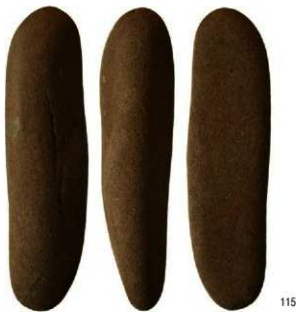
出土石器②



出土石器⑧



出土石器⑨



出土石器[®]



117



118



119



120



121



122



123



124

出土石器①



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144

出土石器②

報告書抄録

ふりがな	すわのうえいせき							
書名	諏訪ノ上遺跡							
副書名	県営水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手型・諏訪地区）に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	本多 和典							
編集機関	南島原市教育委員会							
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705							
発行年月日	西暦2020年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すわのうえい 諏訪ノ上 遺跡	みなみしまげし 南島原市 深江町	42214	157	32° 43' 26"	130° 21' 13"	20140821 ～ 20141128 20150610 ～ 20150831	1,605㎡ 773㎡	水利施設等 保存高度化 事業特別型 (畑地帯担 い手型・諏 訪地区)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
諏訪ノ上 遺跡	遺物 包含地	縄文 弥生 近世		土坑		刻目突帯文土器 丹塗壺 打製石斧		

南島原市文化財調査報告書 第20集

諏訪ノ上遺跡

2020. 3. 20

発行 長崎県南島原市教育委員会
〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷 株式会社 昭和堂